

通俗講演をなす人々の中には、之を自己の最大義務なりと信じ、慈善的動機よりして講演をなす者なきにあらざるべしと雖、其報酬を以て目的とする者多きは明白なる事實なり。殊に大學の少壯教授連の如きは其俸給少きが故に、之を以て収入増加の手段となす者あり。又斯くの如き動機とは全く異りて、金銭上の報酬は敢て問ふ處にあらざ、唯所謂辯を好むの情より講演をなすもあるべし。然れども米國の輿論は非常に演説の影響を受くると大にして、演説者の名望は常に演説當時に止まらず、其筆記は印刷せられて全國に傳はり、人民に多大の感化を及ぼすことを得るは、これ最も有力なる動機なるべし。勿論單に繰返しの講義をなすが如きは自己の新なる研究を忽諸にし、學者たるの智的發達を損ふこと尠からず。近時、有爲の教授等が全く大學擴張講話の需に應ぜざるに至れるも之が爲めなり。然れども假令繰返しの講演と雖、全國到る處僻陬の地にまでも智識の普及を力め、人民の覺醒を促すの點に於ては實に至大の効果あるものなりと云はざるべからず。米國人民は民主主義の原則よりして、單に二三の深遠なる大研究又は新學理の發見をなすよりも、廣く一般人民に普通の智識を與ふること

を以て却つて貴ぶべしとなすなり。特にシヤトルカ學會、大學擴張講話、夏期講習會等に於て一問題に就き六回乃至二十回に至る講演をなすことは、篤志の聽講者に利する所甚だ多しとす。或は講演會に出席して費す時間と努力とを、書籍に費す方却つて効果大なりと云ふ者、あらんも、講演を聽くことは、頓て又讀者の力を刺激するに至ることを記憶せざるべからず。米國人民の大に讀書を好む一原因は通俗講演の盛なるに在ると明かなり。讀者は唯一人にて之をなすに反し、講演は講演者聽講者と互に相接し直接に感化を及ぼすを以て、讀者よりも一層強き効果を人心に與ふるものなり。特に同一の會場に集合すれば、各人皆共同の事に關與せるの感を生じ、智識の啓發と共に道徳心を喚起し、大に自全心を促すに至るべし。勿論通俗講演に於ては概して講演者は一般人民の嗜好に投ぜんとする傾きあり。其結果講義の淺薄に流るゝは遺憾とすべしと雖、尙通俗講演が到る處に人民の自全心を覺醒し、文明の普及に與つて力ありしは明かなる事實にして、其自全の精神を尊重する米國人民の爲めには、必須缺くべからざる教育制度なることは敢て疑ふべからざるなり。

第三章 大學

數年前米國の産業大に發達し遂に歐洲の市場を壓倒せんとするの勢を示すや、歐洲人民は其急速なる發展に驚愕し、盛に米禍論を唱へたり。按ふに米國の智的發達に於ても亦歐洲人民は遠からずその進歩の偉大なるに驚愕せずむばあらざるべし。而も米國産業の發達が單に貪慾心に基づけるにあらずして實に堅實なる基礎の上に發達したるものなることは前篇に於て述べたるが如し。而して米國の智的發達も亦之と等しく偶然に發達せず、必ず先づ眞摯なる科學的研究の發展を俟つて、而して後に始めて歐洲の思想界を壓倒するに至るべし。尤も智識界に於ては、經濟界に於けるが如き脅迫もなく、競争もなく、單に協力あるのみなり。而も如何なる國民と雖、晏然として他の國民の智的進歩を看過すること能はざるは明かにして、歐洲特に獨逸が米國智識界の實況を熟知するに至らば、將

來東西互に相呼應協同して、益、智識の發達を促すに至るや必せり。將來米獨二國が特に科學に於て世界に覇を唱ふるに至らんことは、敢て識者を俟たずして明かなり。

米國に於て科學と云へば、必ず大學の謂ひに外ならず。米國及び獨逸にては大學の教師は同時に科學の泰斗なれども、英佛二國に於ては有名なる科學の研究者が同時に學校の教育に従事するが如きは寧ろ稀なり。これ兩者の大に異なる處なりとす。勿論米國に於ても、ローレンス(Rhodes)、ロバチ(Lodge)、シューラー(Scholar)、ハリス、エルト諸氏の如く、學校に教鞭を執らざる人にして、有名なる歴史家、經濟學者あり。又法律家、醫師、牧師にして熱心科學を研究するものも尠ならず。又エヂソン(Edison)、ベル(Bell)、テスラ(Tesla)等の人も亦種々の發明發見をなして、科學の進歩を促しつゝあり。又ワシントンに於て種々の研究に従事する中央政府の官吏中にも有名なる科學者少からず。斯くの如く大學に關係なき人々にして、科學の進歩を助けつゝある者尠からず。雖なほ概して云へば、米國に於て科學の研究は大學を以て淵藪となさざるべからざるなり。米國の真相を知らざる獨逸人等は獨

逸のゼクンダ (Sekunda) と殆ど擇ぶ所なき西部諸州の大學を見て、直ちに米國の學術界を批評せんとし、或は數年前に於ける米國醫學の狀態を以て今日の實況を判斷せんとするが如きこと屢なり。これ實に大なる誤謬と云はざるべからず。抑、米國に於て所謂數年前と、獨逸に於ける數年前とは、大に其意味異らざるべからず。新開の米國に於ける一百年間は獨逸の三百年間に相當すべし。特に米國の學術界に於ける最近十年間の大發展は、獨逸に於ける五十年間の變化よりも、一層顯著なることを記憶せざるべからず。

過去の狀態のみならず、米國現今の狀態に就てすら、獨逸人は往々誤解に陥るを免れざることあり。獨逸の高等教育機關は甚だ理解し易しと雖、米國の高等教育機關は甚だ複雑を極め、爲めに獨逸人の惑ひの種となること屢なりとす。例へば四個の分科大學を包括せざる大學を見て、獨逸人は直ちに之をギムナジウムなりと速了し、或は獨逸のゼクンダと同様の教科目あるを見て、輕卒にも米國には獨逸の大學と比肩すべき大學一もなしと斷定するなり。

元來米國にてはユニヴァーシチーなる語は、獨逸に於て用ひらるゝとは大に其意

義を異にし、殆どカレッジ同様に用ひらるゝなり。即ち中學校以上の程度なる學校にして、單に牧師或は醫者或は法律家の養成のみを目的とせざるものは、皆ユニヴァーシチー又はカレッジと稱せらるゝなり。而して醫學の高等なる學校は之を醫學校と呼び、法律又は神學に於ても亦之と同様にして、それ〴〵法律學校、神學校の名を付せり。カレッジなる名はユニヴァーシチーよりも古くより用ひられたるものにして、東部諸州が夙く高等教育の學校を設けたりし故、同地方にては主にカレッジなる語使用せられたるが、其後に起れる西部諸州の高等教育機關は、其程度の非常に低きものなども、なほ新しき語を用ひて、ユニヴァーシチーと稱するもの多し。されば或はユニヴァーシチーと云ひ、或はカレッジと云ふも、敢て上下高低の差別的意味あるにあらず。唯其孰れの名を用ふるに關せず、學科程度の差等は非常にして實に千差萬別管ならずと云はざるべからず。斯く大學にも多くの差等あれば、單に「大學を卒業したり」と云ふが如きは、恰も「旅行の際都會に行けり」と云ふと等しく實に漠然たるものにして、其概念を明晰にせん爲めには、其大學の名を表示するの要あるなり。インディアナのテラー・ユニヴァーシチー (Taylor University)

イリノイのブラックバーン・ユニヴァーシティー (Blackburn University) 又はハイジアナの  
 レランド・ユニヴァーシティー (Leland University) 等の如き所謂ユニヴァーシティーを卒業  
 したる人は、エール・カレッジ (Yale College) プリンストン・カレッジ (Princeton College) 又  
 はコロンビア・カレッジ (Columbia College) を卒業せる人よりも學力却つて劣れるこ  
 とは各専門家の等しく認むるなり。されば其學校の固有の名稱こそ價値を有す  
 るものにして、カレッジ又はユニヴァーシティーなる語には、何等重大の意味あるに  
 あらざるなり。尤も近年教育社會の人々の間にては、ユニヴァーシティーの語に一種  
 の新なる意味を含ませ、即ち從來の意味に於けるカレッジ又はユニヴァーシティーた  
 るのみならず、又各種専門の學校を包含するものを以て、ユニヴァーシティーと稱す  
 るに至れり。然れども此意味に於ても亦獨逸に於けると用語異れり。何となれば  
 斯かるユニヴァーシティーは必ずカレッジの課程をも含むものなるがカレッジの課程  
 に當るべきものは獨逸の大學にはあらざるなり。其他ユニヴァーシティーなる語を  
 以て第一流の大學を指し、カレッジなる語を以て夫れより程度の低きものを示す  
 こととし、以て兩者の混同を避けんと欲する人もなきにあらざる。畢竟米國にては

其學校の固有の名稱を附記して、初めて其概念を明かにするより他に優れる方  
 法あらざるべし。

斯くの如くなるが故に、米國に於ける高等教育の學校には二個の特色あり。第一、  
 其間には明かなる區劃なく、中學校程度の學校より漸進して、最高の大學に進む  
 ことを得べく、其大學中には獨逸の有名なる大學と優に匹敵するに足るものあ  
 り。第二、この高等教育の學校に於ける研究科目の分類は獨逸と全く異り、特に前  
 述の如くカレッジに重きを置くことは全く米國風にして、獨逸には全く之に比す  
 べきものあらざるなり。今米國に於ける高等教育發達の歴史に就きて瞥見すべ  
 く、先づ各州互に相連合して、合衆國聯邦を組織したる當時の事よりして之を説  
 くべし。

建國當時に於て米國人民は先づ第一に説教師の必要を感じたり。尤も教會は全  
 く政治より獨立し、政府は孰れの宗派に對しても、保護又は干渉するが如きこと  
 なかりしなり。されば各宗派は自ら進んで其説教師を養成するの外あらざりき。  
 次に人民は辯護士及び裁判官の必要を感じたり。當時判事は人民より選舉せら

れ、又各人自己の訴訟を辯護するの権利を有せり。されば他人の訴訟を辯護せんが爲めに法律を學ばんと欲せば、これ各自の本分にして社會の事業にあらざりしなり。故に經驗ある辯護士に就き其徒弟となりて法律を研究するの外なく、社會は敢て之に關係せざりしなり。次に又學校教員の必要なりき。然れども當時にありては教員の學力は其效ふる生徒の學力より大に擡んづるの必要殆ど之なく、學校卒業の後二三年間研究せば最早充分なりしなり。特に百年前に於ては、醫學の如きは最も不振の状態にあり、醫は唯實地の職業にして、特に學理の研究を要するものにあらずと思惟せられ、醫者とならんと欲する者は醫者の弟子となり、或は其他の方法に依つて之を修業するの外なかりき。

然るに其後の状態漸く發展し、宗派は宗派の爲に牧師養成の學校を建て、司法制度の管理者等は相談りて法律學校を建て、授業料を拂ふ者は何人にては法律の研究をなし得ることなし、醫師等も亦協同して醫學校を設立し、小學校卒業生は自由に之に入學するを許し、次に地方團體も亦教員養成の爲めに其學校を設立するの必要を感ぜり。尤も當時にありては定れる學制なかりしが故に、單に需要

供給の關係により自然淘汰に支配せられ、良卒業生を出したる學校は榮え、然らざるものは衰へたり。且つ學科程度の如きも、地方の状況により自から高低の差を生ずるに至れり。例へば舊き州は新しき州よりも優秀なる學校を必要とし、偏阪の地方よりも人口稠密の地方は高等の學校の必要を感じたり。斯くの如くにして、或は其程度非常に高尚なるものあり、或は單に他の高等なる學校に入るべき準備を目的とするに過ぎざるものもありき。されば或は四年課程の學校あり、或は三年、或は二年、或は僅一年の課程もあり、或は大學程度のものあり、或は單に高等小學校程度のものありて、千差萬別管ならず、漸くその學校固有の名によりて其程度及び良否を知り得るに至れり。故に一の都會に四個或は三個の醫學校あるも、亦其學校によりて卒業證書が全く價値を異にするも、更に何等の不都合あるを見ざるなり。而して斯くの如き状態よりして三個の結果を生じたり。第一、一般人民の自發心は大に刺激を受け、人民も學校も、共に全力を盡して、成るべく優良なる學校を建てんとするに至り、且つ劃一の制度を設け、故意に進歩せる地方を進歩せざる地方と同一の標準に引下げんとするが如きは全く之あらず。第

二、實業教育は全く各地方の状況に應じて自由に必要なる高等の學校を立つることを得べく、毫も他よりの制限を蒙ることなし。第三、各學校間の自由競争は絶えず學校の進歩發達を促すの便あり。今日第一流の學校も時勢の進歩に伴はざれば、明日は直ちに第二流に降らざるべからず。教員の資格教授の方法、修業年限の長短、入學條件等の如きも、亦全く自由競争によつて定めらる。斯くの如くにして現今の學校は發展したるものなり。

元來聯邦は初等教育にも、高等教育にも、殆ど關係する處なく、直接之に大關係を有するは各州なり。而して其教育に對する州の施設に二あり。第一、州は教育事業を獨占するが如き事なく、成るべく個人の自發心に委し何等の束縛をなさざるを以て主義となす。第二、私人の事業にては不充分なる場合には必ず之を補助するを以て、州の義務なりとなす。而して第二の場合に於て、二様の方法あり。即ち州が既設の私立學校に補助を與ふる場合と、州自ら新に學校を建設し、納稅者の子弟は男女の別なく、皆無月謝にて入學することを得せしむる場合是なり。後者の場合に於ける所謂州立大學なるものは、或る意味より云へば自由公立學校制度

の最高頂點に在るものと云ふべし。斯かる大學の設ある處にては農民の子弟と雖、幼稚園より哲學博士の稱號を得るに至るまで、無月謝にて教育を受くることを得べし。

其住民の貧困なるか又は文化の度低き地方にては、私人にて學校を計營せんとする精神甚だ微弱なるが故に、學校の爲めに多額の寄附金をなすが如き人は殆どなかるべし。而して文化の度低き州の富豪等は、其子弟を最も進歩せる州の大學に送らん事を欲するが故に、其結果として州の補助を受くるが如き學校の學科程度は、私立學校の夫より劣れるを常とす。ハーヴァード、コロンビア、ジョンズ・ホプキンス (Johns Hopkins)、エール、シカゴ、コーネル (Cornell)、スタンフォード (Stanford) 等第一流の大學は、皆全く州の補助を受けずして計營せるものにて、東部の主要なる州は西部諸州よりは高等の學校に對して補助を與ふることに遙に少し。教育の最も盛なるマッサチューセツ州は一文中半錢も大學に補助せざるに反して、オハイオ州の如きはオハイオ州立大學 (Ohio State University) の全計費を負擔し、其他六個の學校に補助を與へつゝあり。

教育に關して各州皆等しくなす所のものあり。即ち州は總て其教育を監督し、且つ州議會は各學校に學生に修業證書、卒業證書、及び學位を授與する權利を賦與す。何れの學校も州政府の許可を得ずして其組織を變更すること能はず。又文化の進歩に伴ひ、各種専門學校の程度を高むる必要を感じたる時、實際上の見地より常に進歩を保守との調和を計るべき必要ありき。若し劃一の規定を設くることありたらんには萬事爲めに破れしならん。即ち一般に其低度を高くせば、私人の自發心を妨げ、特に南部及び西部諸州は、發達の力を害せらるべし。之に反して餘に低き劃一の標準を執る時は、文化の最も進歩したる地方は爲めに其進歩を妨げらるべし。故に多くの州政府は是等の事に關しては概ね中庸を採り、各學校に對する其責任を輕うし、學校の學位に實際上の權利を賦與せざるなり。乃ち辯護士若くは醫師の免許は各州皆法律を設け、専門學校の卒業證書を以て州の試験と全く同一の効力ありと認めざるなり。

米國に於ける法律家、牧師、教員、醫師養成の専門學校の歴史は決して大學の歴史にあらず。いざ是より、米國高等教育の中核なるカレッジに就て論ずる所あるべし。

彙に述べたるが如く、合衆國發達の初期に於ては、是等の人々の養成は唯専門の學問にて事足り、別に著しき準備を要せざりしなり。高等普通教育の如きは殆ど夢想だもせざる所なりき。然るに爾來専門學校入學試験の程度は漸次高められ、教育の年限及び學科課程の如きも亦漸次改良せられたりと雖、今尙上述の如く、高等普通教育の必要なしと考ふるものなきにあらず。病人の診察、裁判の手續、教授法の如き専門的訓練は、所謂教育ある人物を養成するものにあらずして、殆ど商人又は工業家が受くる所の職業的實習と異なる所なし。斯くの如き特殊の職業教育を受けたる人が、同時に又教育ある人物たるや否やは、唯其人が受けたる一般文化の種類如何によるのみ。されば商會又は醫學校に入る前に、高等普通教育を受くる事は大切なれども、其職業上の練習は之を株式取引所にて或は病院の臨床講義にて受くるも、敢て問ふ所にあらずと思惟せらる。

米國人が専門教育に對する觀念の斯くの如くなるは、歴史上深く據る所の理由なきにあらず。即ち偶然或る人が法律家となり、或は教師となり、或は醫師となれりとして、之が爲めに其同時代の人々の眼より見て、彼等を正直に働ける一般人民

よりも特別に尊敬すべき者となさざりしなり。故に社會の指導者たるべき者を區別するには、専門教育の外別に或る原則を必要とするに至れり。而して尙此傾向を誘致せる一の歴史的要點ありき。國民は經濟的活動によつて漸次發達し來れるを以て、新領土の開發を以て主要なる問題となせる間は、最高の天才も、最良の人物も、皆經濟的活動に従事したり。此を以て商工業の大成功者が社會第一流の人物として仰視せられしは、寧ろ當然のことにして、斯くの如き人々が到達し得たる文化の程度が社會全體の文化の標準を決定したり。故に一般の文化に通曉し、溫雅優麗の品性を有する人としての所謂紳士なる從來の觀念は、恰も獨逸に於ける専門家の如く最も重要な社會的の意義を有するに至れり。

抑、斯かる紳士教育はその外形を英國より借り來れるものにして、中學校の卒業後四年の課程を修め、特に希臘語、羅典語、哲學、及び數學に重きを置き、二十餘歳まで生計の心配をなさず、専ら美術及び科學に親まじむるなり。故に其主なる目的は青年をして四年間全く社會の競争より隔離し、以て理想的の生活をなさしめ、此間に學問、遊戯、道德、交際術等を彼等に教ふるに在り。而して斯かる學校を英國

の例に倣ひてカレッジと稱したるなり。カレッジを卒業せる人は、皆教育ある階級即ち紳士の仲間に入り、其執る處の職業如何は敢て關する處にあらざりしなり。されば如何なる専門學校の教育もカレッジの教育に代ると能はざりしは勿論なり。而して終に専門教育を受くる學生に充分なる準備を與へんとし、其結果斯かる學生には必ず先づ完全なるカレッジの教育を要するに至れり。既に實際此程度に達したる大學あり。例へばハーヴァード及びジョンズ・ホプキンス兩大學の法科、醫科又は神學科に入學せんと欲する者は先づ四年課程のカレッジ教育を受けたる卒業證書を有する者ならざるべからず。然れども今日に於ても尙普通に普通教育と高等教育との分界線は中學校とカレッジとの間にありとせらる。而してカレッジを卒業したる者は得業士にして名譽ある紳士となり、文學士(Bachelor of Arts)の學位を受け、此學位を有する者は高等教育を受けたることを承認さる。

而して斯くの如き複雑なる關係は、又カレッジ其物の中に於ても反覆せらる。カレッジは中學校卒業後の四年の課程なれども、中學校には一定の課程の標準なきこと前に述べたるが如し。故に僻陬の地方にある、小さきカレッジは、獨逸の實科學校の



第三級又は第二級に如かざるものあるべく、又大なるカレッジは獨逸にては殆ど之と比すべきものなく、寧ろ其ギムナジウムの第一級と、大學文科の最初二學期又は三學期を併せたるものに當るといふを適當なりとすべし。斯くの如くカレッジ中にも非常なる差ありて、その兩端の間には六百以上のカレッジが順を追うて排列せるなり。畢竟カレッジは一般の紳士教育を施す高等の學校なることを記憶せざるべからず。勿論斯くの如くカレッジは紳士教育を以て理想となせども、最初より尙ほ實用的の目的に使用せられざるにあらず、即ち學校員の實地養成に於てカレッジの教育は最も適當なるものなりき。されば此點より見れば、カレッジは又第二の目的として教育養成の専門學校たるなり。而も一方に於て大學の法科及び醫科の程度漸次高まり、今や最良の大學にてはカレッジの教育を受けし者にあらずれば入學を許さざるに至れり、之が爲め教員養成の學校は又益々専門的の性質を帯び、今や全くカレッジの外に立つに至れり。又文科は必ずカレッジの卒業生を入學せしめ、特に實習、實驗及び講義に重きを置き、専門的研究をなさしむる所となれり。斯くカレッジを卒業して尙其研究を繼續せんとする者の爲めに設けた

るものを大學院と稱し、之を終れば文學博士の學位を授く。故に大學院はカレッジの卒業生を入學せしむる法學校、醫學校、又は神學校と同等の地位にあるなり。尙此外にカレッジの教育に實用主義の影響を與ふるものあり、程度の高きカレッジは嚴重なる學科目の規定を設けず、多少學生各自の個性に適應せんとする事も、亦全く不可能にあらず。故にカレッジの最上級に於て、恰も哲學科の如き制度を探り、學生をして種々の科目中より選擇をなさしめ、自己に最も適當なりと認むるものを自由に研究することを許さば、將來醫師又は法律家たらんと欲する者は、既に其科目の選擇をなせる時、之を一種の専門學校なりと思惟すべし。例へば法律家たらんと欲する者は、主として歴史を、醫師たらんと欲する者は生理學を、神學者たらんと欲する者は經濟學を、政治家たらんと欲する者は物理學を、銀行家たらんと欲する者は經濟學を、政治家たらんと欲する者は政治學を、選擇して、特に之を熱心に研究することを得るなり。然る時は紳士の理想的教育の學校は、常に高等普通教育の場所たるに止まらず、同時に又一種の専門教育の學校たるに至るべし。

然れどもカレッジが尙眞の専門的教育の課程を排斥し、其學生の過半が尙高等普通教育を目的として入學する間は、カレッジは尙ほ人格の發達練磨を目的とする紳士教育の場所たること明かなり。米國の學生は此處に最も愉快なる學校生活を營み、交際を結び、智識を研き、全く自由幸福なる日月を送るなり。故に米國人民の爲めには高等教育の中心は實にカレッジに在り。カレッジの學生は眞の學生生活を營み、カレッジは大學の神經中樞なりと云ふを得べし。特に現今に於てカレッジは全米國人民の精神なり。

尙茲に最も注意すべき事あり。専門教育の學校とカレッジ即ち紳士教育の學校とは、初め全く立脚地を異にし、互に獨立したるも、漸次發達するに従ひ、互に相接近して密接の關係を生ずるに至るは避くべからざる事情なりき。然るに尙其名稱はカレッジと稱し、數種の専門學科は一カレッジの中に集まり、共同管理の下に立つに至れり。然れども斯かる集中的運動は學校の所在の位置により大なる不便あり。カレッジは本來の理想としては田舎の閑靜明眉なる地に設置すべきものにて、斯くすれば青年は全く世間より遠かることを得べし。例へば獨逸のエナ (Yona)

マルブル (Marburg) ゲッティンゲン (Göttingen) の如く、米國にてもプリンストン (Princeton) ニュー・ヘーヴン (New Haven) 又はパロアルト (Palo Alto) 等の地に行けば、所謂學園の地に隔離して遺憾なく學生の生活を送ることを得べしとせり。之に反して法學校又は醫學校の如きは、從來の風習により皆大都會に設けらるゝの例にして、斯かる處にては或は裁判所にて有名なる辯護士の辯論を聴くの便あり、或は臨床講義其他實地研究の材料を得るの機會多きなり。然るにカレッジが漸次發達して完全なる大學となれる時、若し其地が大都會の附近にあれば大に都合好きなり。例へばケムブリッジのハーヴァードカレッジの如く、田舎の閑靜を有すると共に、僅に一のチャールズ河橋を隔て、直ちにボストン市と相連るが如き是なり。カレッジの繁榮の上より見るも、その近傍に大都會のあるは甚だ便利にして、且つ圖書館、實驗室等の便宜も亦實に多しとす。故にニューヨーク、ボルチモア、シカゴ、サンフランシスコ等の如き大都會のカレッジは大都會より遠隔の地にあるカレッジに比して皆迅速なる發達をなせり。

米國に於て大學總長の職權は獨逸の大學總長と文部大臣との中間にありて、恰

も獨逸の大學監督官に酷似し、而も一層獨立的にして且つ權力大なり。大學の指揮監督は一に大學總長の掌中であり。大學の盛衰消長も亦此一人の雙肩に懸れり。舊時にありては、總長は殆ど皆神學者にして、同時に倫學の教授を兼ねしが、今日に於ては、哲學科の教授は殆ど常に總長たり。而して、大學總長は其名聲全國に鳴り、有名なる大學總長、例へばハーヴァードのエリオット氏 (Eliot)、エーデルのハドレイ氏 (Hadley)、コロムビアのバターリー氏 (Butler)、コーネルのシャーマン氏 (Shurman)、マンスホフキンスのレムセン氏 (Remsen)、カリフォルニアのホイラー氏 (Wheeler)、カゴのハーバー氏 (Harper)、ペンシルバニアのスタンフォードのジルダン氏 (Jordan)、プリンストンのウィルソン氏 (Wilson) 等の意見は、教育以外の事に就ても亦大に世人の注意を惹けり。

大學總長は大學評議會の選定する處にして終身職なり。大學評議會は各職員の任免をなし、校費を整理するの權あり。大學の教師は教授、助教授、及び講師より成りて、皆一定の俸給を受け、而も獨逸のプリファクトレント (Privatdozent 次章参照) の如きは米國の大學に其例なし。大學の課程は一級一個年にして、獨逸の如き半年

期即ちセメステル (Semester) なるものなし。授業期間は概ね九月の末に始まり、翌年六月末に終るを常とす。

カレッジの課程四年の間は學生は成るべく忠實に一の學校に止まるを常とす。尤も餘に小さきカレッジなる時は、之を卒業せる後更に他の高等なる學校に入らんとする傾あり。専門校學の學生と雖、その業を終るまでは大概一校に止まるを常とす。唯だ大學院に於てのみは獨逸に於けるが如く轉校行はれ、一年は甲に行き、次年には乙に行きて、専門大家の講義を聴くの風行はる。西部地方の州立大學の外は、一年の授業料を一時に納む。而して大なる學校にては其額概ね百弗乃至百五十弗なり。小さきカレッジに於ては、四年間の科目は初めより殆ど皆指定しありて、唯だ第四年に於て、多少選擇の自由を許すのみ。カレッジの程度高きに從ひ、其講義科目も亦大學に近似し、第一流のカレッジに於ては初年より全く科目選擇の自由を與ふるものあり。

學生は一般に皆熱心學業に勉強す。學生は其科目を選択することを得るも、一定の數以上の講義に出席せざるべからず。且つ毎半期の試験に於て自己の研究課

程の成績を示さざるべからず。特別なる程課の終了後試験を受ければ、カレッジにては之を以て卒業試験に代ふ。又一定数の課程に就て筆記試験を通過したる者は皆學位を受くることを得るなり。試験の程度は講義科目と學生の自修力とを試験するにあり。初めは學生皆寄宿舎に入りしも、現今に於ては學校の増加と共に此風大に衰へたれども、尙寄宿舎生活を好む者多し。

一層具體的に之を説明せんが爲め、先づ米國に於て最も古く且つ大なるハーヴァード大學に就きて略述すべし。一六三六年、マサチューセツツの植民地人民はポストン郊外に一の小さきカレッジを建てたり。而して此植民地の人民中、英國ケムブリッジ大學に於て教育を受けたる者ありしかば、之を紀念せんが爲めに此地をケムブリッジと名けぬ。然るに一六三八年、英國の青年牧師ジョン・ハーヴァード (John Harvard) がこの學校にその財産の半分を寄附したるを以て、この恩人の紀念として學校の名をハーヴァードと稱するに至れり。而してマサチューセツツの官憲は四百磅を、ハーヴァードは約八百磅を出したるなり。當時校舎は一の小さき建物にて、學生の數も亦少く、その教師は二三の僧侶なりき。然るに今や同大學は世界第一流の大學と

なり。壯宏美麗の建物五十棟、教師五百五十人、學生五千人餘、一年の計費百五十萬弗、尙寄附金によつて毎年數百萬弗の基本金を積立てつゝあり。

ハーヴァード大學には開校當時より引續きて七人の理事會あり、終身職にして之に選ばれたる者は非常なる名譽なりとす。其外に三十人より成る監視會あり、毎年六月、六個年の任期を以て卒業生より五人の改選を行ふ。而して同大學にて學士の學位を受けたる後五年を経たる者は、皆之が選舉權を有し、同大學に於ける總ての任命及び方針は監視會の承認を得るを要す。故に七人の理事會と三十人の監視會とは、恰も上下兩院の如く、よく事を處理し、毫も州議會の政黨政治家等より干渉を受けず。而して同大學は約百年間全く州政府の補助を辭退し健全なる發展をせり。

大學總長エリオット氏は米國の學界に於て最も卓越せる且つ勢力ある人なり。氏は新英州清教徒の血統より出てたる人にして、三十五歳の時化學の教授となれり。教授法に關する氏の論文と氏の天才とは大に世人の注目を惹き、一八六九年、監視會は遂に氏を總長に推舉したり。過去三十年間に於けるハーヴァード大學の

發展を以て、全く氏一人の功に歸するは過賞なるべく、一般米國文化の進歩與つて力ありしは勿論なりと雖、而も其間氏が同大學を米國諸大學の第一位に置き、且つ全國民に科學的研究の趣味を鼓吹したるの功は實に大なりと言はざるを得ず。氏は非常に進取的なるも、而も亦頗る保守的にして、少壯教授の説にも傾聽し、大に宗教心に富めるも、而も現代科學の研究に熱心なり。氏は眞に貴族的にして、普通一樣の人を作らんよりは、俊秀卓抜の天材を出さんを目的とす。然れども亦一方に於ては、氏は非常に平民的にして、如何なる人にも向上の途を開きて之に便利を與へんことを熱望す。總長の下に理工科、哲學科、法科、神學科、醫科等の分科大學長(Division)ありて、各分科大學の事を管掌せり。

ハーヴァード大學に入學せんと欲する者は、毎年夏の初め、六日間の筆記試験を受けて之に合格せざるべからず。而して入學試験は大學職員の監督の下に、全國約四十個所に於て施行せらるゝなり。又他の大學より入學する者は、其學校の學科程度を充分に考量して編入するを常とす。修學の科目に就ては、年末に毎科三時間の試験を行ひ、而して四年或は三年のカレッジ在學中に毎年三時間の講義に十

八回出席せる者は學士の學位を受くべし。法科及び醫科に於ては學年の終に卒業試験を受くるを要せず。文科にては學士の稱を得たる後、二年或は三年の研究をなして文學博士の學位を受くることを得べし。

大學院の學生は皆非常に勉強すれども、カレッジ課程の學生には勤勉なる者あり、又然らざる者ありて一様ならず。然れども學問に勉強せざる者と雖、決して不品行をなすにあらず。此處に來つて所謂ハーヴァードの空氣を呼吸し、其氣質を受けんと欲するなり。由來ハーヴァードは富豪の大學と稱せらるゝも、學生中には苦學自ら生計の途を講ずる者、或は學校より補給を受くる者も決して少からず。或は講義を嫌ひ、或は飲酒に荒み、或は骨牌に耽けるが如きは、決して之あらざるなり。競技運動は甚だ盛にして、十一月のハーヴァード對エールのフットボール及び六月のベ이스ボールの如きは、其名全國に轟き、觀客の爲め特に臨時汽車を出すの有様なり。學生は同級生互に親交を結び、卒業生は舊友に逢はんが爲め、屢、ポストンに來る。彼等はハーヴァードの卒業生を米國の擁護者なりと思惟し、ハーヴァードの爲めに盡し、其子弟をハーヴァードに入れ、喜んでハーヴァードに寄附す。

又ハーヴァードには政治、宗教、文學、音樂の俱樂部、討論會等あり。學校の機關紙として、學生は日刊新聞を發行し、且つ三個の月刊雜誌あり。特に學生の素人芝居は最も人望あるものなり。同大學は女子の入學を許さず。尤もカンブリッジ卒業の女子にして學力俊秀なる者は研究生として特に入學を許せども、カレッジ課程には決して之を入れざるなり。此點に於てはエール、コロムビア、プリンストン、ジョンズ・ホプキンス等の諸大學皆同様なり。勿論ハーヴァード大學は女子の高等教育を不可とするにあらざる。唯男子の學校なりとの理由に依つて之を入れざるのみ。加之ハーヴァード大學の教師は間接女子高等教育の爲めに大に盡し、大學の門前數歩に在るラッドクリフカレッジ (Radcliffe College) は専ら女子を教ふる所にして、ハーヴァード大學の教師のみ之を教授す。

米國の大學には各、特色あり。ハーヴァード大學は人道主義の教育と専門教育との調和を計るを以て目的とし、エール及びプリンストンの二大學は特に人道主義の教育を目的とす。尤もエール大學は有名なる學者を出せること亦決して少からざるなり。ジョンズ・ホプキンス大學は新研究の開發を以て自ら任じ、自然科學及

び醫學に於ては全國第一と稱せらる。コロムビア大學は其所在地なるニューヨーク市の感化影響を蒙むると少からざれども、シカゴ大學はシカゴ市の遙か郊外にあるが故に、都會の影響を受くると前者の如く甚しからず。シカゴ、ペンシルヴェニア、コーネル、ミシガン、カリフォルニア、スタンフォードの諸大學は女子の入學を許し、此點に於て東部諸州の大學と大に趣を異にせり。

西部諸州の男學生は多少都雅優麗の風を缺くと雖、而も勤勉なる點に於ては敢て東部の學生に譲らず。又西部の大學は、入學條件の如きも、亦東部の大學に於けるが如く嚴密ならざるを常とす。南部諸州に於ては米國中の主なる大學と比肩すべき程度のもの未だ一も之あるを見ず。

ハーヴァード大學に次で最も古きはエール大學にして、數年前に創立二百年の記念祭を行へり。次はプリンストン大學にして、十八世紀の中葉に創設せられたり。元來エール大學はハーヴァード大學が清教主義を無視するの傾向ありしより、此主義の堅城としてコンネチカト植民地に於て之を建つるに至れるなり。大學は民主的、宗教的、及び保守的思想を以て其特色となし、ハーヴァード大學は貴族的

にして、自由思想と進歩主義を以て立つものと云ふを得べきか。斯くの如くにエール大學が近世思想に反抗するが如き態度を執りしは、却て自己の不利の結果を來し、一時漸く名聲を失墜したるの氣味ありしが、近年に至り、壯年活氣の經濟學者ハッドレー氏(Hadley)其總長となるに及んで、大に勢力を挽回したり。

ニューヨーク市のコロムビア大學は、一七五四年の創立にして、初めは、キングスカレッジ(King's College)と稱せられしが、獨立戦争後コロムビア大學と改稱したり。されど其盛大となりしは、最近二三十年の間にして、特に總長ロー氏(William)の下に至大なる發達をなせり。ロー氏在职十年にして職を退き、ニューヨーク市長となり、バットラー氏(Battler)其後を繼て總長となれり。今日の勢を以て進まば、同大學は遠からずして殆どハーヴァード大學と匹敵するに至るべし。植民地時代に創立せられたるもの、中にて最も盛大となれる大學は、ハーヴァード、エール、プリンストン、ペンシルヴェニア、及びコロムビア等にして、近年に至り私人の計營によつて設立せられ大に成功を博したる大學は、ジョンズ・ホプキンス、シカゴ、コーネル、及びレランド・スタンフォード等なるべし。次に州立大學として最も有名なるは、ウイスコン

シン、ミシガン、ネブラスカ、カンサス、ミネソタ、ミゾリ、カリフォルニア等の諸大學なり。

ジョンズ・ホプキンス大學は鐵道王ジョンズ・ホプキンス氏(一八七三年死亡)が遺言により、自己の郷里ボルチモア市に高等教育の學校を設立する目的を以て七百萬弗を寄附したるによつて創立せられたるものなり。ギルマン氏(Gilman)其總長となるや、主として科學の新研究を以て學校の特色となし、敢て法科及び神學科を設置せざりき。教師には有名なる専門家を聘し、其他實驗室及び實習所を起して科學的新研究に全力を注げり。ギルマン氏退いて後、有名なる化學者レムゼン氏(Ramsey)總長となれり。又同大學の有名なる教授スタンレー・ホール氏(Stanley Hall)は、慈善家クラーク氏(Clark)の寄附金數百萬弗を得てウォースター市(Worcester)に、ジョンズ・ホプキンス大學に倣ひ、小規模の大學を建て、之をクラーク大學と稱せり。而して此クラーク大學も亦科學の新研究に於て大に成功を博し、特に其心理學科及び教育學科は最も有名なり。

コーネル大學はエズラ・コーネル氏(Ezra Cornell)の寄附金によつて、一八六八年に

創立せられたるものにて、全く實利主義を以て其主義とし、米國人民の自發の精神は同大學に於て最もよく發揮せらる。初めて其總長の椅子を占めしは、歴史家ホワイト氏(Andrew D. White)なるが、氏は後伯林駐劄の大使に任ぜられたり。現今の總長は哲學者シャーマン氏にして、氏の植民政策は最も有名なり。コーネル大學と同様の目的を以て設立せられたるものをカリフォルニアのレランド・スタンフォード大學とす。これ元老院議員スタンフォード(Stanford)氏が愛兒の死を悼み、之を記念せんが爲めに全財産を寄附してサンフランシスコ附近に高等教育の學校を設立することゝなせるに因れり。總長は動物學者ジルダン氏にして、銳意大學の隆盛を計りつゝあり、而して同大學に對立するものをサンフランシスコ金門(Golden Gate)の附近にあるカリフォルニア州立大學とす。又シカゴ大學は石油王ロクフレラー氏が一千二百萬弗を寄附して成れるものにして、教師の俸給非常に高く、且つ一年間常に開校し、特に女子の入學に便にし、又夏季僅に二個月間此に來るものと雖、聽講を許す。講義の數、出版書籍、定期刊行物等甚だ多く、全國の小さカリッジと連絡を結び、且つ天文臺及び實驗室等の設けあり、總長ハーバー氏の下に

駁々として隆盛の運に向へり。州立大學中最も大なるはミシガン州立大學にして、學生數の多きことハーヴァード大學に次ぎ、醫科に於て最も名を知らる。茲に注意すべきは、前述の如く大規模の大學益、隆盛となり、而も斯かる大學には皆カリッジの課程を併置せるが故に、小さカリッジは、全く其用なきに至れりやと云ふに、決して然らざるなり。小さカリッジの學生は、常に親しく其教師と接觸するの機會を得、教師の感化力頗る大にして、彼等が母校に對する真情の流露するものあり。されば國民文化の上より見れば、斯かるカリッジは、非常に効果あるものにして、最も健全なる教化を青年に與へつゝあり。若しウィリアムス(Williams)ブラウン(Brown)アマースト(Amherst)ダートマス(Dartmouth)等の小カリッジが其學生を皆ハーヴァードに交付して閉校するが如きことあらば、新英州の人民は文化の發達の爲めに甚だ之を遺憾とすべし、故に是等小規模のカリッジは、其特殊の使命を有し、其特色を發揮し、依然として存立を全うすべきものなり。勿論斯かるカリッジ中には殆ど何等の發達をもなすこと能はず、他に併吞せらるゝものなきにあらずと雖、尙眞に健全なる効果を擧げて益、發展しつゝあるものも少からざるなり。吾人



の見を以てすれば、孤立せる小規模の専門學校の如きは、果して其存立の必要ありや否や頗る疑なきを得ざるなり。既に最も優秀なる醫學校、法學校及び神學校は殆ど皆大學に吸収せられたり。されば孤立せる専門學校が集中的運動をなし、て一大學となるは、現今に於て最も時宜に適應せるものと云ふべきなり。

小きカレッジは總ての州立大學と等しく、概ね男女の入學を許せり。その他全く女子のみのカレッジも亦少からず。ブリンモア (Bryn Mawr)、ヴァサ (Vassar)、ウェルズリー (Wellesley)、スミス (Smith)、バーナード (Barnard)、ラッドクリフの如きは是なり。ニューヨークのバーナード・カレッジとコロムビア大學との關係は、恰もラッドクリフ・カレッジとハーヴァード大學との關係と等しく、コロムビア大學の教師はバーナード・カレッジにて教鞭を採れり。是等の女子のカレッジは各特色を有し、或は田舎の風光明媚の地にあるもあり、或は大都會にあるもあり、或は淑女教育を以て主義とするあり、或は批評的研究を以て主義とするあり、或は單に學習主義を採るもあり、或は男子のみの教師を用ふるもの、或は女子のみの教師を備ふるもの、或は男女兩教師を併用するもあり。

今カレッジと大學院とを併せて各學科學生數の割合を見るに、一九〇〇年に於て、人口百萬人に付き文科生千三百〇八人、法科生百六十六人、醫科生三百三十三人、神學科生百〇六人の割合なり。然るに夫より十年以前には、右の割合は八百七十七人、七十二人、二百六十六人、百十二人にして、尙二十五年以前には七百四十四人、六十一人、百九十六人、百二十人なりき。右の表に就て見れば、一八九〇年より一九〇〇年に至る十年間の増加甚だ顯著なり。但し神學科生のみは多少減少を示せり。又文科のみに就て見るに、過去十年間に於て男女生は六割一分を増じ、女學生は一倍四割九分の増加を示せり。次に一九〇〇年に於て學位を受けたる者の數に就て見るに、カレッジの文學士の學位を受けたる者、男子五千二百二十九人、女子二千四百四十人、理學士の學位を受けたるもの、男子二千四百七十三人、女子五百九十一人、文學博士の學位を受けたる者、男子三百二十二、女子二十人なり。總てのカレッジを合してその基本金總額は三億六千萬弗にして、内一億六千萬弗は利付債券なり。而して一年の収入は、其年の寄附金を加算せず、二千八百萬弗にして、内一千一百萬弗は學生の授業料、七百萬弗は基本金の利子、七百五十萬弗は政府の補

助より成る。故に學生の授業料は三割九分に當れり。男子及び男女混合のカレッジの總數は四百八十校にして、女子のみのカレッジは百四十一校あり。尤も後者の數は殆ど證據とならず。何となれば米國にては漫にカレッジなる名稱を用ひ、特に西部及び南部に於ては新しき不完全なる女學校にも亦カレッジと稱するもの多きが故なり。されば眞に程度の高き女子カレッジとしては僅に十三校に過ぎず。又普通のカレッジと入學條件殆ど相等しき工業學校及び農學校四十三個あり、其内最も有名なるはポストンにある「マサチューセッツ州立工學院」(Massachusetts Institute of Technology)にして、其總長は有名なるブリッチェット氏(Britchett)なり。且つ斯かる實業學校は殆ど皆州立なりとす。

一九〇〇年に於て、百五十一個の醫科大學の學生總數は二萬五千二百十三人にして、内三個を除けば他は皆四年制なり。其他齒科學校五十四、その學生七千九百二十八人、藥劑師學校五十三、其學生四千〇四十二人あり。又法科學生の總數は一萬二千五百十六人にして、神學科の學生は八千〇八人なるが、法科學生中百五十一人、神學科學生中百八十一人は女子なりとす。

#### 第四章 科學

米國の高等教育機關が科學の研究に力を致せるは明かなる事實なり。而して其學校が地方の狀況に應じてよく分化を遂げ、以て自發の精神を作興し、圓滿なる發達をなしつゝあるは、實に米國獨得の長所なりと云はざるべからず。

然れども之と共に亦其或る缺點を伴ふことは決して否定すべきにあらず。前章に述べたるが如く、米國の高等教育機關は劃一主義によらざるが故に、外國人は其管理上の缺點を過重するの傾あり。然れども米國の高等教育機關の連續的等差の眞の缺點は、その外部の管理にあらずして、其内部の方法に存するなり。獨逸にては卒業前の學生と卒業後の學生との間には截然たる區別あり、前者は單に教師の教を聞きて之を學ばんとするが故に、見聞廣き教師を得ることは固より必要なるも、其教師が科學の進歩に盡さんことは敢て學生の期待する所にあら

ざるなり。然るに後者は批評的態度を執るが故に、其教師は研究方法の教師ならざるべからず。更に之を詳言すれば、自ら創見的研究者たらざるべからず。然るに米國に於ては斯くの如く二者の間に截然たる分界線なきが故に、科學的研究の爲めには大に不便なる點あり。然れども又一方よりすれば、截然たる區劃なきが爲め、小規模のカレッジに於ても尙研究的精神の發達を妨げられざる便利なきにあらず。元來科學的研究の盛なるには少壯の學者が自から先づ自己の發展は結局眞平たる學問上の成功によらざるべからざるを自覺し、「受け賣り」的の陳腐なる講義にては何等の効なきことを悟らざるべからず。此點に就ては米國人民も近時大に感得する所あり、主なる諸大學に於ても亦既に科學的研究を以て其主眼とするに至れり。

然れども尙他に創見的研究を妨ぐるものあり。教授等は大學の管理事務に忙殺せられ、究學の餘暇を有せざること是なり。加之大學の教授は多くは過度の講座を負擔せられ、爲めに専心專意新研究に従事すること能はざるを常とす。西部諸州の大學に於ては、其監督の任にある人にして、大學教授が何故に初等教育の教

員の如く多くの時間を受持たざる理由あるやを解せざる者すらあり。特に最も弊害あるは、通俗教育の條下に於て述べたる如く、教授等が金錢及び名譽の爲めに科學上何等の創見なき通俗講演をなし、或は通俗論文を草し、以て眞の科學的研究を忽諸に付するが如き傾あること是なり。

大學を設立し又は之に多額の寄附金をなしたる富豪等の爲めに大學教授が制肘せられ、自由を奪はるゝ事ありと評する者あれど、往時はいざ知らず、現今に於てはこれ單に新聞紙の誹謗に過ぎず。又大學教授が不法の政治的干渉を加へらるゝが如きことも殆ど見ざる處なり。小きカレッジに於ても、教授が科學的研究をなしたる爲めに其地位を失ひたる者決してあることなし。尤も教授が公然宗教を攻撃し、不敬虔の態度を執るが如きは、其前途を危うすることあるべく、又西部の州立大學に於ては、州議會の任命せる學務委員等は、教授が政治上敵對的態度を取る時は、甚だ之を快とせざるは事實なり。然れども教授が科學的研究の爲めに迫害せらるゝが如きことは、如何なる小きカレッジに於ても絶えて見ざる所の事なりとす。

科學の研究上、米國の大學が獨逸の大學に比して及ばざる最も重要な點の一は、專心科學の研究に盡し、而も特に報酬を受けずして自己の研學の爲めに教鞭を採る所謂「フットドチエント」なきこと是なり。米國にては有給の職員に缺員あるにあらざれば、少壯學者を用ひざるべく、されば若し第一流の大學に缺員なければ、科學的研究に熱心なる學者は、已むを得ず小きカレッジに行きて其地位を求めざるべからず。然るに小きカレッジに於ては、科學的研究の設備もなく、亦研究に従事すべき餘暇もなきを以て、却つて其研究的精神を没却するに至るべし。故に近時米國の大なる大學にては獨逸の例に倣ひ、ドチエント制を採用せんとしつゝ、あるも之には管理上の困難なきにあらず。加之學校の學生養成上にも危険なる傾向あり。抑、米國の學校にては常にその卒業生を採用し、有爲の學者にても他より之を入れんとする時は、往々反對を招くことあり。且つ米國にては印刷代甚だ高く、青年學者が科學の新研究を發表せんと欲するも、獨逸に於けるが如く容易に出版者を見出し得ざること多し。

國にては、研究の便利甚だ多し。實驗室、圖書館、博物館、天文臺等の設備を初め、探險遠征の如き、皆學術の研究に大なる幫助を與ふるに足れり。次に獎學資金、修學旅費給與、其他の補助をなし、以て少壯學者に自由に研究をなさしむる方法少からず。又所謂「安息年」(Sabbatical Year)なるものありて、大なる大學にては教授に其學術を研磨せしむる目的を以て、七年目毎に一年間の休暇を與ふ。又米國人が其學生時代に非常に勤勉なる習慣を養成することも、科學研究上大に利とすべし。米國の學生は概して獨逸の學生よりも勤勉なることは明白なる事實にして、これ一は米國學制の然らしむる處なりと云はざるべからず。學校に於ける講義も亦成るべく、學生を勵まして勉強せしむる方法を採れるが故に、或る獨逸學生の如く怠惰ならんには、到底及第の見込みなかるべし。勿論米國の學生も「フットボール」の競技に耽けること、恰も獨逸の學生が決闘俱樂部に往來すると一般なるべしと雖、獨逸の學生の如く、朝より麥酒を飲み、或は骨牌を遊ぶが如き惡習は、米國の學生中に之を見るべからず。米國の學生は麥酒店へ入りて快を貪らんよりは、寧ろ競技運動をなして慰樂を求めんとす。又獨逸人は初等教育の學校時代には、能く

時間を愛みて勉強するも、而も大學時代に入りてよりは、徒に時間を浪費し、怠慢に流るゝ風あり。然るに米國にては初等教育時代には時間を浪費する嫌あるも、カレッジ及び大學の課程に入れば、學生皆大に時間を愛み、仔々として勤勉す。米國人民の智的活動の狀態を觀察するに、特に科學的研究に適應せるものあり。彼等は從來政治、經濟及び司法の諸問題に力を盡したるが故に、今や將に理論的科學研究の時代に復歸せんとす。特に米國人は發明的才能、熱誠心、忍耐力、智的自由の精神、組織構成の能力及び自全的本能等の諸徳を具備するを以て、創見的科學研究の方面に於ても亦直ちに大なる成功を博し得んこと敢て疑ふべからざるなり。

以上は高等教育の學校と科學との關係なるが、今學校以外に於ける科學研究の狀態を略叙すべし。先づ第一にワシントンに於て中央政府の設立に係り、毫も放棄せず、全く科學の研究に従事するものに就て見ざるべからず。此大研究所は二十八局に分れ、之に關する人員總數六千人、一年の經費八百萬弗以上に及びて、確に米國政府の一大特色なり。斯かる多方面に亘れる科學研究の機關は未だ曾て

他に其比を見ざる所にして、全く國民の利益の爲めにせられたるものあり。而して斯くの如く種々の部局に分類せられあるも、而も孰れにも共通せる點は、米國の國土、人民、物産、其他一般狀態に關する問題を研究するにあるが故に、先づ第一に經濟、社會、智識、政治、衛生等に關する國民必須の要求に應ずるを以て主眼とし、抽象的科學の研究は、寧ろ第二位に置かるゝなり。其研究調査の結果は之を印刷して美麗なる冊子となし、無料を以て請求者に送付す。而して一部は物質科學に關し、一部は經濟に關するものとす。科學に關するものは、第一、地質調査局(Bureau of Geological Survey)にて、六百人の役員を有し、管に地質學の研究をなすのみならず、化石學、水路學の研究をもなし、且つ礦物學及び岩石學の實驗室を有す。次に地測局(Geodetic Survey)は米國の海灣、河川、湖水、山脈等を研究す。海洋觀測局(Marine Observatory)は天文觀測をなし、氣象局(Weather Bureau)は一百五十餘の氣象臺を管理す。又生物學局(Bureau of Biology)は動植物の地理的分布を研究し、植物學局(Bureau of Botany)は主として植物の種子に關係せる各種の問題を研究す。林學局(Bureau of Forestry)は米國の森林、木材の供給等に關する問

題を研究するものなり。昆蟲學局(Bureau of Entomology)は昆蟲と農業との關係に就て最も有益なる研究をなし、農業局(Bureau of Agriculture)は栽培實驗の結果を統計的に研究し、且つ全國に散在せる政府の實驗場を營掌す。漁業局(Department of Fishery)は水産所を管理す、其他尙種々の局あり。次に經濟に關するものには、第一「労働局(Bureau of Labour)は労働の狀態に關して社會的研究をなし、會社局(Corporation Bureau)は會社事業の狀態を研究す。又統計局(Bureau of General Statistics)あり。國勢調査局(Census Bureau)は十年毎に完全なる國勢調査をなすものにて、一八九〇年の調査報告は三十九卷より成り、其費用一千萬弗を要したり。教育局(Bureau of Education)は教育に關する統計を理論的に研究す。其他移民調査局(Bureau of Immigration)等尙ほ種々あり、而して是等は皆單に訓示助言を與ふるに過ぎずして、何事をも強制する權力なし。然れども其研究の結果を印刷して廣く配布公示するが故に、其効果は決して鮮少にあらざるなり。

尙ほ右の外政府の科學研究所として最も有名なるは、スミスソニアン學院(Smithsonian Institution)なりとす。英國オックスフォードの礦物學者スミスソン氏は、科學の

進歩普及を目的とする學會を自己の名稱を冠してワシントンに設立すべき條件の下に、其財産全部を贈遺したり。然るに米國の國會にては、一外國人の贈與を受くるが如きは米國政府の威嚴を損ふものなりとの反對説ありしも、一八三六年に至り遂に之を受け、同學院を設立するに至れり。尤も斯く如く同學院はスミスソン氏の金によつて設立せられたりと雖、之を計營し以てよく科學の發達普及を致さしめたるは、之をその總長三人の功勞に歸せざるべからず。此三人とは物理學者ヘンリー氏(Henry)一八四六年より一八七八年迄在職、動物學者ペード氏(Paid)一八七八年より一八八七年迄在職、及び物理學者ラングレイ氏(Langley)一八八七年以來在職、即ち是なり。同學院は其設立の初めより大學を建て、他の諸大學と競争するが如きことをなさず、單に既存大學の足らざる處を補ひ以て其中心となるべきことを約したり。而して今や實に政治の中心たるワシントンに於て學術の中心となるに至りたり。同學院は左の數部に分たる。即ち國立博物館(National Museum)には探檢及び發掘によつて得たる物品を陳列し、一々之に説明書を付す。毎年觀覽人の數は約三十萬人にして、人種學及び人類學の標本七十五、

萬點動物學標本二百萬點植物學標本四十萬點古代生物學標本三十萬點を藏す。又動物園には漸次絶滅せんとしつゝある動物を飼養す。又天體觀測所 (Astronomical Observatory) あり、ラングレー氏は此處にて太陽の七色彩の「見へざる部分」を熱心に研究しつゝあり。人種學部 (Ethnological Bureau) には、主として亞米利加印度人を研究す。尙ほ其他種々の設備あり。特に同學院には交換部なるものありて、科學者、圖書館、其他米國の諸學校、諸學會の間、及び是等と歐洲の諸學校、諸學會との間に研究參考品の交換事務を取扱ひ居れり。加之同學院附屬圖書館は米國に於て最も有名なる圖書館の一なり。而して其動物學、人種學、物理學、地質學等に關する出版物は、既に數百卷に達し、無料にて四千の圖書館に分配せらる。若し上述のワシントンにある二十八局の科學研究所を一の國立大學となして學校教育を行ひ、全國の熱心なる學生を入學せしめなば、科學の進歩普及に取りて至大の利便を得んと疑ふべからず。既に識者の間には全國の最高學府たるべき國立大學の設立を希望する人なきにあらず。而して未だ之が實行を見るに至らざる所以の者は、米國の慣習上、教育の事は舉げて各州の管理に委するが故なり。

り。然れども米國人民が現存の諸大學と競争せざる最高學府を作りて、之を諸大學の上に置き、以て科學的新研究をなさしむるの必要を感ずるは、敢て遠きにあらざるべきか。斯くの如き純科學的研究の學校を建て、博士試験に及第したる者のみを入學せしめ、其教授は全國諸大學教授の互選によつて之を選定することとせば、頗る妙なるべし。果して此機運に達せば、其資金の如きは勞せずして自ら集まるべし。

尙ワシントンにはカーネギー學院 (Carnegie Institute) なるものありて、殆ど半ば國立大學に達したるの觀あり。其効果の如何は他日を俟て而して知るべきなり。元來同學院はカーネギー氏が一千萬弗を寄附して全國の科學的研究を扶助し、且つ青年學者に創見的研究を獎勵する目的を以て設立せられたるものなり。然るに之が爲め他の大學が科學研究に對する自己の責任を免れたるが如き感を生じ、其努力を減ずるの危険なしと云ふべからず。且つ既往に徴するに、其なす處期する處に副はざるが如きもの少からず。將來充分の考量を以て改良を加ふるにあらざれば、現今の如き不規則なる補助は、眞の科學的研究を利するよりも却つ

て害するやも知るべからざるなり。  
 ワシントンに於ける科學的研究所の状態以上の如し。而して同府以外全國到處の地に無數小規模の種々なる科學的博物館又は陳列場あり。例へば生物、衛生、醫術、歴史及び經濟等に關するもの、其他動物園及び植物園等にして、是等は、或は州或は個人或は組合の計營に依て成れり。ウイッゾホール(Woods Hole)の水産實驗所(Marine Laboratory)の如きは、毎年の夏有名なる生物學者の集會所たり。サレムの博物館の如きも亦有名なり。其他ニューヨーク、フィラデルフィア、ボストン、シカゴ、ボルチモアの如き大都會にも、オルバニーの如き政治の都府にも、亦科學研究に資すべき種々の設あり。獨逸ドレスデン博物館の理事マイヤー教授(Prof. Meyer)の如きは、米國の博物館が、歐洲の博物館に比して大に優れることを賞讃せり。  
 尙其他に種々の學術協會あり。尤も其會員は主として高等教育の學校關係者より成れりと雖、而も科學界に獨立の威化を與へつゝあるなり。其中最も有名なるは國立科學協會(National Academy of Science)にして、一八六三年の創立に係り、百人の會員を有し、毎年五人の新會員を選擧す。毎年ワシントンに集合し、特に科學上

の事に關して國會及び政府に助言するの權あり。然れどもワシントンの如き政治的都會の空氣は、同會の發達に便ならず。之が爲め同會は未だ巴里及び倫敦學會の如き大なる名聲を博するに至らざるなり。  
 米國史學協會(American Historical Association)も亦國立科學協會と殆ど同様の性質を有し、研究報告書は政府の費用を以て出版せらる。其他通俗的の科學研究會夥多ありて、會員の數も亦從つて甚だ多し。例へば米國科學獎勵會(American Society for the Advancement of Science)は凡そ五十年前の設立に係り、恰も獨逸の博物學協會(Naturforscherversammlung)と殆ど同様の事を行ふ。即ち約一千の科學者は毎年必ず集會地を變更して相集まり、以て講演會を開く。又會員一萬人以上を有する全國教育協會(National Educational Association)も毎年集會地を變更して開會す。其他、醫學、博物學、史學、言語學、哲學、法學、神學、經濟學、解剖學、生理學、形態學、植物生理學、心理學、人類學、口碑研究等に關する協會ありて、孰れも皆其地を變更して年會を開き、順次に全國を巡回す。  
 次に地方的の學術協會抄からず。就中最も舊きは、一七四三年にフランクリンの



設立したるフィラデルフィア學會(Academy in Philadelphia)なり。又一七八〇年の創立に係るポストンの米國學會(American Academy)も初めニューヨーク學會(New York Academy)ワシントン學會(Washington Academy)等あり。是等の地方的學會は孰れも將來全國より其會員を得るに至るべき勢なり。ボルチモア、シカゴ、ニューヘーヴン等其小規模の學會百餘ありて、科學の普及と其研究の發達を促しつゝあり。米國に於ける高等教育の諸學校は、科學的研究の著述を公刊すること甚だ多く、此點に於ては獨逸よりも數等の上であり。特に最も多きはシカゴ大學にして、同大學は社會學、教育學、聖書研究、地質學、天文學、植物學等の諸雜誌を初めとし、古典語學、日耳曼民族語學、羅馬民族語學、人類學、生理學等の研究録を發行す。ジョンズ・ホプキンス大學は數學、化學、生物學、實驗醫學、精神病學、近世語學、史學、アフリカ學等の諸雜誌を刊行す。ハーヴァード大學の定期刊行物としては、天文學、動物學、穩花植物學、人種學、東洋學、古典語學、近世語學、史學、經濟學等の諸雜誌最も名あり。コロムビア、ペンシルヴェニア、其他の諸大學も亦同様多くの刊行物を有す。且つ探檢其他特殊の問題に關する書籍も亦大學より出版せらるゝもの少からず。例へばエー

ル大學が、一九〇一年、其創立二百年の祝祭に紀念の爲め教授等の手に成れる科學に關する二十五冊の大著を出版せるが如きは是なり。又科學専攻上各大學夫れづの特色を有す。例へばジョンズ・ホプキンスは自然科學に長じ、コロムビアは國家學を以て開え、ハーヴァードは文學及び哲學に於て名あり。尤も是等の大學は單に以上の特別科目のみに長ぜりと云ふにはあらずして、ジョンズ・ホプキンスの言語學に於ける、コロムビアの生物學に於けるが如き、亦皆有名なるものなり。特にハーヴァードはロングフェロー(Holmes)ノルトン(Norton)、チャイルド(Child)諸氏の如き大文豪、動物學者アガシ(Agassiz)、植物學者グレイ(Grey)、天文學者ピッカーリング(Pickerings)等の大科學者を出せるを以て名あり。

尙科學の各目に就て其研究の状態を觀察すべし。米國の大學講義目錄には、哲學を第一位に置くを見て獨逸人等は之を不當のこととなし、カント(Kant)、ヘーゲル(Hegel)、ニーチェ、ハッセル(Schopenhauer)、フヒテ(Fichte)の如き大哲學者を有せざる。米國が哲學を第一位に置くは無意味の甚しきものなりと非難する者あれども、

元來米國は新進の國にして、科學研究の勃興せるは纔に最近二三十年の間にあるが故に、獨逸の現今の状態と比較して論評するを至當なりとす。米國には哲學に關する出版物非常に多し、英國に於ては眞に價値ある哲學の雜誌は僅に二種に過ぎざれども、米國には之に劣らざるもの少くとも五種あり、尙哲學の意味を廣義に解すれば、社會學及び教育學をも包含すべく、而して米國の社會學雜誌及び教育學雜誌は世界第一と稱するも敢て過賞にあらざるなり、茲に注意すべきは獨逸にて特に重要視せらるる科學にして、米國にては然らざるものあること是なり、斯くの如く科學中國によつて輕重せらるるものあるが故に、之に對して直ちに概括的の批評を下すが如き事あらば偏見に陥ること勿論なり、例へば、米國には殆ど全く哲學史の創見的著述をなす者なく、唯獨逸書を翻譯し、或は其教科書も一時の間に合せ物を編纂して之に甘んずるを常とす。然れども之に反して、倫理學、論理學、特に心理學の研究は非常に隆なり、又認識論に關する論争は米國の如く盛なる處あるを聞かず、カルヴン主義神學も亦顯著なる發達をなしたり、十八世紀の初葉に生存せるジ・ナサン・エドワーズ氏の如きは米

國哲學史中第一の人物なりと云ふべし、形而上學的思想は獨逸の理想論によつて養成せられ、大哲エマソン氏によつて之を表白せられたり、又蘇格蘭の學風を受け、實理主義に反對せるポーター氏(Porter)、マクニッシュ氏(Mc-Cosh)等の哲學者あり、其他獨逸派を代表せるハリリス氏(Harris)、エヴァンズ氏(Everett)の如き、或は究理哲學を唱導せるドレーパー(Draper)、フィスケ(Fiske)、コープ(Cope)、レコンテ(Lecointe)等の諸氏あり、現今哲學の泰斗と稱せらるる者はラッド(Ladd)、ドゥーイ(Dewey)、フルトン(Fullerton)、ボウネ(Bowne)、オモンド(Ormond)、ハウソン(Howison)、サタヤナ(Satyananda)、パルマー(Palmer)、ストロング(Strong)、ヒブデン(Hibben)、ノートン(Creighton)、ロイド(Lloyd)の諸氏及び特に認識論に有名なる學者ロイメス氏(Loyce)等あり、現今米國に於て哲學中最も歡迎せらるる者は心理學なり、米國には實驗心理學の實驗室四十以上に及び、其設備の完全せること歐洲の比にあらず、之を以て見るも如何に心理學研究の盛なるかを證するに足れり、斯學の泰斗としてはワント氏(Wundt)及びゼーメンス氏(W. James)あり、其他ホーランド氏(Stanley Hall)、カチヤル氏(Cattell)、ポールドウィン氏(Baldwin)、ラッド氏(Ladd)、サンフォード氏(Sanford)、チチナー氏(Titchener)

エンゼル氏(Angell)カルクィンズ女史(Miss. Calkins)スクリプチュア氏(Scrpture)等皆心理學者として有名なり。又教育學に於てはハリス氏(Harris)エリオット氏(Elliot)バットラー氏(Butler)ホルル氏、ダガルモ氏(Da Garmo)ハナス氏(Hanus)等斯界に於て最も尊敬せらる。

神學及び形而上學の研究が既に植民地時代より始まり續きて今日に至れるが如く、史學の系統的研究も亦植民地時代より始まり、ブラッドフォード氏(Bradford)ウィンスロップ氏(Winslow)等その先驅者となり、以て今日に至れり。尤も眞に系統的历史の著述を見るに至れるは一八三〇年代以後にして、最近十年間は主として歴史の部分的研究盛に行はる。而して其以前に於ては、國史一般或は國史の大部分に筆を染むる者多く、其主なる者はバンクロフト氏(Bancroft)パークマン氏(Parkman)を初めとし、ヒルドレンス(Hildreth)タッカー氏(Tucker)等なり。次に部分的研究をなせる人々は、アダムス(Henry Adams)フィスケイジョン(John Fiske)ローレン(Phodes)シラー(Scholar)マクマスター(McMaster)エグレストン(Eggleston)ノットホルメット(Von Holst)ハイムツェルト等の諸氏なり。其他傳記、記録、地方史等の出版物も亦甚だ多く、殊に「米國歴

史評論」(American Historical Review)の如きは史學雜誌中の錚々たるものなり。且つ部分的研究の好題目となるものは獨立戦争、聯邦建設時代、南北戦争、國會等なり。尤も歐洲史の獨立研究をなす者甚だ少きは寧ろ當然の事と云ふべし。然れども、この點に於ても亦プレスコット氏(Prescott)の西班牙史、モットレー氏(Motley)の和蘭共和國勃興史等の如き天下に知られたる名著なきにあらず。且つ近年に至つてテイラー氏(Taylor)の英國史研究、パーキンス氏(Perkins)の佛國史研究、ヘンダーソン氏(Henderson)の獨逸史研究、セイヤー氏(Seayer)の伊太利史研究、リー氏(Lee)及びエマーソン氏(Emerson)の宗教史研究、マハン氏(Mahan)の海戰史研究等あるを見る。斯くの如く哲學及び史學に關する研究の甚だ盛んなるを見れば、米國の學問が單に物質的の目的にのみ供せらるゝとなすが如きは大なる誤謬なるを證するに足れり。然るに或は米國の哲學を以て實利主義の哲學なりとなし、又米國の歴史研究を以て單に政治家に實際的の教訓を與ふるに過ぎずとなす者あらん。然れども、古典語學の研究に對しては如何尙斯かる批評を之に加ふる事を得べきか。かの「言語學協會」(Philological Association)の五百有餘の會員等が多くの言語學書

を講究しつゝあるが如き、或は米國言語學雜誌(American Journal of Philology)の諸書が熱心に之を精談しつゝあるが如き、或はハーヴァード、コーネル、シカゴ等の諸大學より出版する古典學の研究書を讀む人の少からざるが如きは、眞の科學的研究心あるにあらずむば決して見るべからざる現象なり。尤も米國に於て言語學研究の非常に盛んになりしは青年言語學者が獨逸の諸大學特にゲッチンゲン大學に留學したるより始まれるものにて、歲月尙淺しと雖、漸次愈發達すべき勢あり。古典學の泰斗ギルダースリーツ氏(Gildersleeve)に師事せる四十四人の學生が師の七十歳の誕生日を紀念せんが爲めに出版せる大著の如きは、二十年以前に於ては到底見るべからざる處なりとす。文章學の研究大に行はれ、之に關してはグロドウィン氏(Goodwin)、ハール氏(Hale)及びギルダースリーツ氏等の著書最も世に知らる。その他辭義學、比較言語學等の書籍の出版も少からず。古典語學者として有名なるは、ハドレー(Hadley)、ドレスラー(Dressler)、バックマン(Backman)、アレン(Allen)、ハーン(Lano)、ハーン(Warou)、スニツク(Snytt)、ホワイト(White)、ウィーラー(Wheeler)、シロリー(Shorey)等の諸氏を推すべし。

次に東邦語學の研究非常に盛んなるが、此等は殆ど何等實利的動機を含まざるものなりと云はざるべからず。専門の科學者にあらずる一般人民は、聖書の研究をなして宗教的趣味を喚起し、其結果として遂に特別探検隊を土耳其地方に派遣し、以て楔形文字の記録研究を進むるに至れり。特にペンシルヴェニア大學に於けるアッシュリヤ遺物陳列場は最も完全なるものと稱せらる。之に關する有名なる學者としては、ヒルブレント氏(Hilprecht)、ライオン氏(Lyon)、ハンプト氏(Haupt)等あり。又梵語學の大家は、エール大學のホイットネー氏(Whitney)を第一とし、ハーヴァード大學のランマン氏(Rammann)之に次ぎ、其他ジャクソン氏(Jackson)、バック氏(Back)、ブームフィールド氏(Bloomfield)等あり。又セミチック語の泰斗はトローイ氏(Troy)なり。次に近世語學に就て見るに、英語及び英文學の研究甚だ盛んなるは勿論なり。而してその先驅者はチャイルド氏(Francis James Child)にして、氏はチョーサー(Chaucer)及び英國古代の戯曲を深く研究し、遂に英蘭及び蘇格蘭の歌謠を集めて十卷を成せり。氏に次いでキットレット氏(Kittredg)も亦大に此方面に盡したり。ラオンズバーク氏(Lounsbury)はチョーサーを研究して名著を出し、マンレー氏(Manley)も亦チョー

サー及びセーキスビヤ以前の戯曲を研究したり、ガムマー氏(Gummere)は古代俚語に長じ、ウエンデル氏(Wendell)及びフナーネズ氏(Furness)はセーキスビヤを研究して造詣最も深し。其他スコンフィールド氏(Schofield)ニードル氏(Need)ブルーム氏(Bruce)等はアーサー王物語(The Arthurian legends)に關する研究を爲し、ブライト氏(Bright)クック氏(Cook)ブラウン氏(Brown)カラウヰー氏(Callaway)等は專心アングロサクソン語學の研究に盡せり。文學批評家の泰斗はローエルなるが、其後ゲーッス氏(Gates)その他の名士續々とし輩出せり。美文學の發達は歴史文學及び批評文學の勃興を促し、ステッドマン(Stedman)リチャードソン(Richardson)タイラー(Tyler)ウーデンリ(Woodberry)カボット(Cabot)ワーナー(Warner)ヒギンソン(Higginson)ハントン等の諸氏最も名あり。特に米國文學に關する最良の名著はウエンデル氏(Wendell)の『米國文學史』(Literary History of America)なり。又ランキン氏(Linck)著『獨逸文學に於ける社會の影響』(The Social Influence on German Literature)は大に好評を博したり。その他羅馬民族語學に於てはトッド(Todd)エリクセン(Elliot)コーン(Cohn)の諸氏日耳曼民族語學に於てはトーマス(Thomas)ヘンプン(Hemp)の兩氏何れも名著を世に出せり。

經濟學は米國人の最も好んで研究する所なるが、是全く米國が特に經濟的要素に依つて發達し來りたるに由るものにて、米國は經濟學の一大實驗場なりと云ふも敢て不當にあらざるべし。然るに米國にては眞の經濟學史なるものを閉却し、却て獨逸に於て米國經濟學史の出版せらるゝもの少からざるを見る。米國人の主として注意する所は經濟上特殊の狀況に關する系統的解説及び演繹的研究にあるなり。此に米國經濟學者の主なる者を掲ぐれば、第一保護政策論者として最も有名なるケリー氏(H. Carey)あり、其後『進歩と貧困』(Progress and Poverty)を著はせるヘンリー・ジョージ氏(H. George)あり、『ユートピア(Utopia)』を著はせるヘラミ氏(Bellamy)あり、其他一八七〇年代より八〇年代に亘つて、ウェルズ氏(Wells)の『關稅及び貿易論』アダムズ氏(O. F. Adams)の『鐵道論』サムナー氏の『米國財政史』アキンソン氏(Atkinson)の『生産と分配』ライト氏(Wright)の『貨銀論』ノックス氏(Knox)の『銀行論』及び一八七〇年及び一八八〇年兩度の國勢調査を主宰せるウォーカー氏(Walker)の諸論文等は、能く人の知る所なり。次に近世に於ける著述は、ハドレー氏の『鐵道論』クラーク氏(Clark)の『資本論』ゼームス氏の『財政論』及び市政論、イーリ氏(Ely)の『租

税論」トウシグ氏 [Tausig] の「關稅論、銀問題及び貨銀論」、ヤンクス氏 (Jenks) の「トラス  
ト論」、ブルックス氏 (Brooks) の「勞働問題」、セリグマン氏 (Seligman) の「課稅政策」、エッチ・シ  
ー・アダムス氏 (H. C. Adams) の「財政論」、グロスマ氏 (Gross) の「英國經濟學史」、バッチェン氏 (Bat-  
ton) の「經濟原論」、ローエル氏の「國家學」等なり。其他經濟學の雜誌も亦甚だ多し。社會  
學に於てはギッディングス氏 (Giddings)、スモール氏 (Small)、ワード氏 (Ward) の如き、世界  
に名を得たる大家を初め、ヴァルコックス氏 (Vicox)、リッペンハー氏 (Ripley) 等の名家數  
しとせず。

眼を轉じて自然科學の方面を見れば、數學の科學的研究は纔に十年以前に起り  
しに過ぎず。なほ頗る幼稚の状態にして、數學家と云へば皆少壯教授に限れるが  
如き觀あり。尤も往時に溯れば、三大數學家あり。ベンジャミン・ペーヤス氏 (Benjamin  
Peirce) 及び其高弟、ヒル・ニューコム氏 (Newcomb) の二氏即ち是なり。而して此三氏の  
研究せる處は主として數學的天文學なり。なほ右三氏の時代には數學的、物理  
學者ギブス (W. Gibbs)、代數學者マククリントン (McClimcock)、數學的論理學者チャール  
ス・ペーヤス (Charles Peirce) の數氏あり。最近十年間には數學の大家多く見はれ、

特に少壯の學者は獨逸及び佛蘭西に學び、盛に純正數學の研究を積みつゝあり。  
就中有名なるはシカゴ大學のムーア (Moore)、ディクソン (Dixon) 二氏、クラーク大學の  
ストーニー (Storey)、ハーバー (Tuber) 二氏、ハーワード大學のボラー (Boher)、オズグ  
ド (Osgood) 二氏、エヴァンストン (Evanston) のホワイト氏 (White)、ワズレーヤン (Wasleyan) の  
ヴァン・ヴェック氏 (Van Vleck) 等なり。

米國人が單に實利的の學問にのみ汲々たらざるは、天文學の研究の甚だ盛なる  
に徴するも明かなり。天文學の如く實利的の目的に縁遠き科學は恐らく他にあら  
ざるべし。而も米國に於けるが如く設備の完全せる天文觀測臺は他に其比を  
見ざる所にして、米國の如くに完全なる望遠鏡を製造する處も亦他にあること  
なし。其他天文學用の機械を完成したる人も甚だ多く、例へば、ローランド氏 (Rol-  
and) は天文觀測用の分光器を改良し、ピッカーリング氏 (Pickering) は光度學上多大  
の貢獻をなせり。ゴールド氏 (Gold) 及びラングレイ氏 (Langley) の星霧表作成は大事業な  
りと云はざるべからず。其他小惑星、慧星等の有益なる觀測をなせる者少からず。  
ニューコム氏の星體運行測定の如き、チャンドラー氏 (Chandler) の星光測定、ヤング氏

(Young)の太陽研究、ニュートン氏(Newton)の隕石研究、バーナード氏(Barnard)の慧星研究等皆有名なり。

理論的物理学に於て發達の認むべきものは驚かざるを得ず、尤も光学に於ては、ミケルソン氏(Michelson)の光波測定、ローランド氏(Rowland)の凹面鏡光研究、ニコム氏の光の速度測定、ラングレイ氏の七色光彩の見えざる部分の研究等著名なるものあれども、その他の研究は區々にして殆ど聯絡なきが如し、但し電気學、音響學、熱學等に於ては、ッローブリッジ氏(Thomson)、ウッド氏(Wood)、バリス氏(Barus)、カークウッド氏(Wood)、クロス氏(Cross)、ニコルズ氏(Nichols)、ホール氏(Hall)、ピアース氏(Pierce)、サユン氏(Suhne)諸氏の重要なる發見ありき。應用物理学特に電氣に關係ある部門は非常に進歩して其名世界に高く、小は勞働者の手道具より大は蒸氣機關橋梁等に至る迄、其進歩實に驚くべきものあり、應用物理学研究の結果として現今の自轉車、裁縫機械、印刷機械、器具製造機械、其他數千の機械發明せられ、且つ電信機、白熱燈、電話機、蓄音機等は益々完全に達し、發明者の月桂冠は日米國人の頭上を飾りつゝあり、而して單にエヂソン、ベル、メスラの三氏を以て

米國物理学の代表者となすべからず、十餘の物理学實驗室に於て學者等が更に高尚なる科學的研究に熱心從事しつゝあるを忘るべからず、尙物理学の一部として氣象學の發達如何を見るに、國土の廣大は氣象觀測上に非常なる利便を與へ、ヘンリー氏(Henry)、ハーズン氏(Hazen)、グリーリー氏(Greely)、ハerrington、メンデンホール氏(Mendenhall)、ロチン氏(Rotch)諸氏の研究の下に氣象學は大なる發達をなせり。

化學の研究は物理学よりも一層純理論的方面に於て發達し、既に十九世紀の初葉、エール大學のシリマン氏(Silliman)が其理化學校の端を開きし時より始まり、其後ヘア氏(Hare)、スミス氏(Smith)、ハンター氏(Hunter)、クック氏(Cook)等相次いで起れり。化學的熱力学(Chemical thermo-dynamics)の泰斗としては、ウラード、ギブズ氏(Willard Gibbs)あり、又クラフツ氏(Crafts)は有機化合物の研究をなし、マレット氏(Mallet)はアルミニウムの原子量を研究せり、ヒルマン、ヒルマン氏(Hillebrand)の鑛物分析法、スチーグリッソン氏(Stieglitz)の化合物、ノイス氏(Noyes)のマイオン研究、クラーク氏(Clark)、リチャードソン氏(Richards)の原子量研究、ヒル氏(Hill)のベンゼン化合物(Benzol Compounds)炭化

水素化合物研究、ワーレン氏(Warren)の鑛油研究、バスカーヴィル氏(Baskerville)のソリウム(Thorium)研究等は皆有名なり。特にサッカリン(Saccharin)の発見者、レムゼン氏(Remsen)の著はしたる化學教科書は最も著名なり。生理化學及び農藝化學の大家としては、チテンデン(Chittenden)、プラン(Platt)、アトウォーター(Axtell)、マンガート(Hilgard)の諸氏あり。物理的化學の研究者としては、ハーヴァード大學のリチャーズ氏を初めとし、其他バンクロフト氏及びノイズ氏等世に知らる。

化學の研究は鑛物學、岩石學、及び地質學と密接の關係あり。然るに奇妙なるは鑛物學の研究が殆ど全くエール大學にのみ集中せるが如き觀あること是なり。エール大學教授デーナ氏(Dana)が一八三七年に出版せる「鑛物學體系(System of Mineralogy)」は最も有名なるものにして、其後數度改正を加へ、半世紀間世界に於ける斯學の名著として推重せられたり。其子デーナ氏は有名なる結晶學者にして、岩石の研究に於ては氏の右に出づる者なしと稱せらる。鑛物學者ブラッシュ氏(Brush)、ペンフィールド氏(Penfield)等も亦エール大學にあり、其他ローレンス、スミス氏(Lawrence Smith)、クーグ氏(Cooke)、ギース氏(Gerth)、セバード氏(Shepard)、ウルフ氏(Wolff)等も

亦有名なり。地質學の進歩は尙一層驚くべきものあり。これ其國土の廣大にして其研究に便なるが爲めなり。而して其有名なる學者はホール氏(Hall)を初めとして、デーナ氏、ホイットネー氏、ヘーデン氏(Haden)、キング氏(King)、ポワエル氏(Powell)、ギルバート氏(Gilbert)、デイビス氏(Davis)、シャラー氏(Shaler)、ランナー氏(Brunner)等なり。而して氷河時代の遺物及び山嶽の岩層等は研究の好題目たり。實際探鑛業に關係ある研究は最も重要視すべきものにして、歐洲人は特に米國人が此點に於ての科學的成功を賞讃して已まず。

地質に密接の關係あるは地理學なり。地理學の研究に於ては先づその設備の完全なる點に於て政府の測量局(Bureau of Survey)を推さざるべからず。而してパッチ(Patch)、メンデンホール(Mendenhall)二氏の海岸測量、ローギース(Rogers)、ホイットニー(Wilney)、ガネット(Gannet)三氏の陸地測量最も有名なり。尙モリー氏(Murray)の水路調査は地理學の上に大なる勢力を及ぼし、其海岸の天然地理は新研究の端緒を開きたり。ギョー氏(Guyot)は地理學研究の趣味を普及せしむる點に於て最も力ありき。元來米國人は危險なる地方の探檢を好みて、探檢家、宣教師、科學研



究旅行家等甚だ多し。此精神を以てリヴィス(Lewis)、クラーク(Clark)二氏は西北部地方を探検し、ウィルクス氏(Wilkes)は太平洋を横断し、ペルリー提督(Perry)は日本に、スタンレー氏(Stanley)は阿弗利加に行けり。其他南米に旅行せるものも少からず。又一八五三年、ケーン氏(Kane)の初めて之をなせし以來、北極の探検を企てる者相次いで出てたり。次に古生物學(Paleontology)の研究も亦盛にして、地質學の進歩に貢献する處鮮少ならず。ホール氏(Hall)は無脊椎動物の化石を研究し、ハイアット氏(Hyatt)は頭足類の化石を研究し、スカッター氏(Sudder)は六足蟲の化石を研究し、ビーチャー氏(Becher)は腕足類の化石を研究し、ライディ氏(Leidy)、コープ氏(Cope)、オスボーン氏(Osborne)及び大科學者マーシ氏(Mars)等は、皆有脊椎動物の化石を研究したり。

是等の人々は又皆動物學者なり。特に往時多くの青年學者はオーデボン氏(Audubon)の指導の下に系統的動物學の研究に従事せり。オーデボン氏は一八二七年に「米國の鳥類」(The Birds of America)なる一書を著し、其後セー氏(Say)は初めて蝶類及び雙殼軟體動物(mussels)の研究をなし、尙降つてルイ・アガシ氏(Louis Agassiz)は

(Jelly-fish)、水母(hydroids)、珊瑚蟲(polyps)等の大家として知られる者なし。又其子アレキサンダー・アガシ氏(Alexander Agassiz)は珊瑚鳥の研究を以て有名なり。その他レント(LeConte)、ギル(Willard)、パカード(Packard)、ヴェリル(Verrill)等の諸氏は無脊椎動物の研究をなし、ブイード(Baird)、リヂェヴイ(Ridgway)、ハンチントン(Huntington)、アレン(Allen)、メリアム(Merriam)、シムズ(Jordan)諸氏は有脊椎動物を研究したり。現今歐米にて生物組織學(histology)及び胚胎發育學(embryology)漸く盛ならんとする風あり。而してこの點に於てアガシ父子は實にその先驅者となり、父は龜の研究を、子は星魚の研究をなせり。アガシ氏に次いで、ワイマン(Wyman)、ホイットマン(Wilman)、ブルックス(Brooks)、ミンोट(Minot)、マーク(Mark)、ウィルソン(Wilson)等の諸氏の研究あり。又ダヴェンポート氏(Davenport)は生物漸化(variation)の問題を研究し、リー氏(Lee)及びパーカー氏(Parker)は下等動物の意識的生活(conscious life)に就て研究する處あり。ローブ氏(Loeb)は胚胎作用(fertilization)及び動物のトロピズム(tropism)に就きて新研究をなせり。且つ氏の同僚中に生物學者として有名なるボーディッチ(Bowditch)、ハウエル(Howell)、ポーター(Porter)、メルツァー(Meltzer)等の諸氏あり。

人類學及び人種學も亦大に發達しつゝあり。米國の如きは斯學研究の好材料に富める國は恐らく他にあらざるべし。亞米利加印度人の種族甚だ多く、各種族皆異なる言語慣習を有せるが如き、或は世界各地の人民が移住し來れるが如き、或は殆ど千萬の阿弗利加黑奴の在るが如き、これ皆斯學研究の好材料たらざるはなし。且つ往古印度人生活の遺物諸所より發掘せられ、亦中央亞米利加文明の遺物も手近に研究せらるゝの便あり。ワシントンの人種學局 (Ethnological Bureau) 及びハーヴァード大學のピーボディ博物館 (Peabody Museum) はこれ多くの探檢者を派遣し調査をなさしめたり。近年に至りモルガン (Morgan) ヘルン (Hale) ハンントン (Brinton) ポーエム (Powell) パトナム (Putnam) マギ (McGee) ボース (Boas) 等の諸氏は皆人類學及び人種學の新研究を世に公にし、特に亞米利加印度人の研究を進めたり。

米國の植物は其動物と等しく大に科學研究の材料に富めり。ハーヴァード大學のグレイ氏 (Asa Gray) は十九世紀の中葉其不朽の著述に着手せる頃、歐洲の植物學者も亦米國に來つて植物學の研究を始めたり。グレイ氏は米國第一の植物學者

にして氏が植物の分類及び其系統的の研究に就て世に出したる論文は四百餘の多數に上れりと云ふ。氏の死後其師トレイ (Torrey) 氏を初め、米國東南地方の植物研究をなしたるチャプマン氏 (Chapman) 學術的旅行家として知られたるライト (Wright) ヴァットソン (Watson) の二氏、仙人掌を研究したるエンゲルマン氏 (Engelmann) 等、グレイ氏の業を補うて之を大成せり。尤も最近二十年間には多くの植物學者出て、諸方面の研究をなせり。例へばフロア氏 (Fernald) の隠花植物研究、グーデル氏 (Goodale) の植物生理學研究、サーセント氏 (Sargent) の樹木學研究の如き是なり。加之ニューヨーク、ボストン、セントルイス等の植物園、諸大學の草園及び植物科、各地方の農事試験場等に於ては、益々専門的研究をなし、且つロビンソン (Robinson) ツレリス (Trelise) ノーマン (Norman) テルナルド (Ternald) スミス (Smith) ツル (True) 諸氏の如き諸學者監督の下に斯學に關する世界最良の出版物を世に公にせり。

以上吾人は米國に於ける科學研究の状態を略述したり。勿論外に尙神學、法學、醫學、工學等の方面に於ける科學的研究の甚だ見るべきものありと雖、餘り冗長に亘るの恐あるを以て之を省くこととせり。而も以上の記述によつて米國の科學

研究の長短得失を知るに足らん。而して公平なる眼を以て觀察すれば、其健全なる進歩發展をなし居れることは敢て疑ふべからざるなり。

勿論其各目に就て見れば、敢て一様に發達せるにあらず。或る方面に於ては英佛に優り、或は二三獨逸にすら優るものなきにあらず。雖其他の方面に於ては未だ遠く獨逸に及ばざること勿論なり。曩に述べたるが如く、米國に於ける科學の發達は最近の事に屬し、或は之が主なる原因を科學研究者に與へられたる金銭上の補助及び研究の設備の完全に歸する者あるべし。雖如何に金銭、書籍、裝置、實驗、博物館等を供したればとて、唯之のみにて大科學者を作るものにあらず。實に科學の發達は主として個人的性能により有爲堪能の人ありて初めて其發達進歩を效すことを得べきなり。

左は云へ、金銭其他物質的の富が間接科學の進歩に影響を與ふること甚だ大なるは固より無論の事にして、之によつて科學研究者の社會に於ける地位を高むるが故に、益有爲の人物を誘うて其研究に従事せしむるに至るべし。往時科學の研究は唯貧乏人の仕事なりとせられたる時代には、有爲の人物は皆實業界に入

つて其技量を揮はさんと欲したりしが、今や事情全く變じ、國民皆科學研究の必要を認め、科學研究者の地位従うて大に高まり、少壯有爲の學者等争うて科學界に入り、大に奮闘せんと欲し、資産ある家庭の子弟等は實業界を去つて美術科學の研究に従事せんと欲し、銀行に入らんよりは寧ろ科學實驗室に入らんと欲するに至れり。されば米國が將來科學界に於て世界に雄飛せんことは敢て疑を存せざるなり。

## 第五章 文學

歐洲人中には今尙米國人は讀書力を有せず、書籍の趣味を解せずと思惟するもの甚だ多く、彼等に向つて米國の如く多くの書を讀む處は他にあらずと言ふも決して之を信ぜざるべし。然れども米國に於ける圖書館の發達は、その人民が如何に讀書を好むかを表示するものなり。而して或る事柄に於ては、歐洲人は却つ

て米國に師事せざるべからず。勿論歐洲特に獨逸には大圖書館少からざれども、是等は皆單に科學研究の目的を以て設けたるものにして、一種の研究室たるに過ぎざるなり。加之歐洲の圖書館は大學に附屬するもの多く、都會の大圖書館と雖主として著述家若くは特殊の問題を研究せんと欲する人の用に供するもののみなり。

米國に於ても今日は歐洲に劣らざる大圖書館設立せられ、大學も亦歐洲に於けるが如く、其所藏の書籍を科學研究者の用に供せり。其他種々の學會に屬する特別圖書館、州の法律圖書館、政府、各省、及び博物館附屬の特別圖書館等あり、殊に最も大なるは國會圖書館 (Library of Congress) なり。斯かる科學書の蒐集は既に植民地時代の初めより始まりしが、當時は主として神學の庇護に依るものにて、特にカルザン主義の教會は大に讀書を獎勵したり。一七九〇年ハーヴァード大學の圖書目錄は既に三百五十頁に及びしが、其内百五十頁は神學に屬する書籍なり。然るに今や同圖書館には約百萬卷を藏し、主として文學、言語學、史學、法學の書籍より成れり。加之ポストンには十萬餘卷を藏する州立法律圖書館、二十萬卷以上

を藏するアセニアム (Athenaeum) 州立工學院 (Institute of Technology) の大科學圖書館を初め、其他多くの圖書館あり。而して他の大都會特にニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィア等に於ても亦之と等しく、大學圖書館科學的研究の中心をなし、其周圍には多くの立派なる圖書館あり。又プリンストン、イサカ、ニューヘイヴンの如き大學所在地の小都會にも重要な圖書館ありて、特殊の問題に關する圖書往々他に於て見るべからざるものあり。米國の大學圖書館は從來歐洲の學者が其生時に蒐集したる書籍を購入し、又卒業生が謝恩の爲めに圖書を寄附すること多きを以て、小さき大學の圖書館に於ても得難き貴重なる圖書を藏するものあり。其多方面に亘れる點より云へば、ワシントンにして、政府の各局部に皆多くの圖書を藏せり。而して就中最も有名なるは陸軍省の醫學圖書館なり。次に國會圖書館には百萬卷以上を藏し、且つ同館は合衆國內にて出版せらるる書籍一部を必ず納めしむるの權を有す。即ち一の國立圖書館なり。然れども倫敦の英國博物館 (British Museum) の多方面にして、且つ完全なるには未だ比すべくもあらず。元來同館は國會の圖書館として設立せられたるものなるが故に、米國出版の書籍各一

部とスミスソニアン學院に屬する自然科學の書物とを除きては、唯政治、經濟、歴史、法律に關する書籍のみなり。數年前迄は其書庫甚だ狹隘なりしも、米國人民讀書趣味の勃興により世界第一の大書庫の新築を企て、一八九七年其工を竣へて開館し、尙數百萬卷を容るゝの餘裕あるに至れり。されば同館が英國博物館の如く完全なる圖書館とならんことは蓋し遠きにあらざるべし。

以上掲げたるが如き米國の圖書館は獨逸の圖書館に比して毫も遜色なきのみならず、其多くは十九世紀中に建設せられたるものなるが故に、大に近世的にして讀むものもなき無用の書籍を以て架上を塞ぐが如きことは甚だ少し。殊に米國の圖書館は其閱覽室甚だ心地よく、圖書目錄の検索も大に便利にして、開館時間も長し。加之借覽方法甚だ簡易にして且つ迅速なり。巴里及び倫敦の圖書閱覽室の狹隘不潔にして甚だ非衛生的なるに反し、米國の閱覽室は數多く且つ清潔にして大に心地よし。若し巴里の國立圖書館(National Library)にて一冊の書籍を借覽せんとせば一時間待たざるべからず、倫敦の英國博物館にても半時間を要す。然るにワシントンの圖書館にては僅に五分間にて事足れり。而して斯くの如

きは常にワシントンのみにあらず、米國到る處の圖書館皆然れり。

大學圖書館に於ては歐米殆ど差異あることなし。然れども米國には尙此外に公立圖書館なるものありて歐洲の圖書館と大に其趣を異にせり。米國の公立圖書館は科學研究の爲めに設けられたるにあらずして教育の爲めに設けられたるものなり。換言すれば學者の爲めにあらずして通俗教育の爲めに設立せられたるものなり。之を喩ふれば歐洲の圖書館は恰も田舎の郵便馬車の如く、米國公立圖書館はブルマン急行列車に似たりと云ふべきか。

ボストンにて科學研究を目的とする圖書館には、ハーヴァード大學の圖書館を加へて殆ど二百萬卷の書を藏す。然れども同市第一の大圖書館は尙是等の外にあり。美術博物館に接して立てる壯麗なる圖書館即ち是なり。市民は毎日朝は早くより夜晩くまで此圖書館に出入す。或は新聞閱覽室に行く者あり、此處には内外數百の日刊新聞陳列せられあり。或は雜誌室に入る者あり。此處は世界の凡ゆる週刊月刊雜誌ありて讀者を待てり。或は階上に昇りて特殊の出版物、美術雜誌、地理圖表、又は音樂書を見る者あり。或は閑靜淨洒たる閱覽室に入る者あり。或は圖

書目録室に入る者あり。或は圖書貸出室に行く者あり。此處より毎年平均百五十萬冊を貸出すと稱せらる。而も其事務の敏速なること殆ど驚嘆に値するものあり。又兒童は少年閱覽室に入りて興味ある少年雜誌を見ることを得べし。而して此圖書館には如何に卑賤なる労働者も自由に入ることを得べく、如何に氣短き人も此處に行けば愉快に且つ閑靜に讀書することを得べく、便利にして心地よきこと限りなし。

然れども今若しマサチューセツ州の人民にその最も誇とする圖書館は孰れぞと問はゞ、彼等は此ボストンの大圖書館なりと云はずして、却て其州の小都邑に散在せる三百五十の公立圖書館なりと答ふべし。是等の小圖書館は智識的徳的啓發の中心にして、人民の自全心を鼓舞し涵養する處なり。勿論マサチューセツ州は特別なりと雖、今や全國到る處中等の都會に於ては必ず公立圖書館の設あらざるはなく、各州皆競うて圖書館の設立を奨勵し、必要なる場合には其費用を補助しつつあるなり。

今や米國の慈善家は病院、學校、博物館等に寄附すると共に、圖書館に寄附するの

風一般に流行となれり。是等慈善家は壯麗なる寺院を建てんよりは寧ろ完全なる圖書館を建てんことを欲するの傾あり。一九〇〇年全國に於て其藏書一千巻以上の公立圖書館五千三百八十餘、其内五萬巻以上のもの百四十四萬巻以上のもの五十四あり。尙同年の統計表によれば、是等圖書館の藏書總計は書籍四千四百萬巻、冊子七百餘萬冊、而して其増加は一年平均八分なるが故に、今日(一九〇四年)に於ては恐らく前の數よりも一千五百萬巻を増加せるものと見て可なり。加之此外に一千巻以下を藏する圖書館は尙數千あるなり。

數年前圖書館協會(Library Association)が代表的書籍として五千巻を選擇し目録を出版したるが、今之を分類すれば、一般引用書二百二十七巻、歴史七百五十六巻、傳記六百三十五巻、旅行記四百十三巻、自然科學三百五十五巻、美文學六百九十四巻、小説八百〇九巻、美術二百二十五巻、宗教二百二十巻、社會學四百二十四巻、特殊の専門的問題に關するもの二百六十八巻なり。而して此見本を蒐集するに、一萬二千冊を要したり。此見本目録の第一版二萬部が直ちに品切となりたる一事に徴するも書籍に對する米國人民の嗜好の一般を察するに難からざるなり。

此目錄の多方面なるは以て公立圖書館の効用の敢て一ならざるを示すものなり。元來公立圖書館の目的は人民の教育程度を高むるにあり。而して之をなすには三個の方法に依らざるべからず。即ち第一、新なる方向に於て興味を起し、第二、或る題目の研究をなさんと欲する者に其専門の書籍を供給し、第三、最良の書籍を以て一般讀書家の趣味を満足すること是なり。圖書館員は此三事に力むるを以て自己の責務なりと思惟し、公立圖書館は一般人民の好尚趣味を指導するなり。而して米國人民は其公立圖書館が一種の集會所となり、俱樂部及び飲酒店に代るに至らざれば満足せざるべし。元來米國は勞働者の天國にして、又富豪の爲めにも好ましき處なり。されど若し公立圖書館なくば中流社會の一般人民には何の慰樂あらざるべし。然るに今や米國の公立圖書館は中等社會に取りては愉快なる一種の家庭にして、公立學校と共に文化啓發の機關として認めらる。然るに所謂學者の研究に適する科學的圖書館は右の如き効果を致す能はず。勿論大學圖書館と雖一般的智識の普及をなすことを得ざるにあらず。又公立圖書館と雖あらゆる科學的研究書を容るゝの餘地なきにあらず。雖大學圖書館と公立

圖書館との間には尙明かに差別なきこと能はず。若し二者の間差別を没却する如きあらば、却て二者共に其固有の目的を遂ること能はざるに至るべし。而して大學圖書館は所謂歐洲風を摸したるもの、公立圖書館は米國人民が一新生面を開いて長足の進歩をなせしものなり。且つ米國人民は年々圖書館の改良を計り、設備の完全、書籍の選擇、目錄の調製等に盡力しつゝあり。其少年閱覽室を設けたるは最近の事なるが、大に世人の歡迎する處となれり。加之或る圖書館に於ては盲人閱覽室の設けあり。又村より村に移さるゝ所謂巡回圖書館も亦最近の計畫なり。圖書館員養成の學校も近時漸く設立せらるゝに至りしが、これ米國には斯く多くの圖書館ありて、之が管理計營に當る者は特殊の訓練を要する故なり。而して圖書館員養成の學校は概ね三年課程にして其成績甚だ良好なり。圖書館の管理計營は非常に多くの費用を要し、ボストンの公立圖書館の如きは、一年の維持費二十五萬弗を要すと稱せらる。然れども米國の納稅者等が他の租稅よりも喜んで圖書館費を納付する所以のものは、彼等が之を以て暴飲、犯罪、敗德、不平と戦ふに最も効力ある武器なりと信じ、且つ米國の如き民主國は各人自

全の本能を充分に満足せしめて始めて繁榮を期待することを得べしと思惟するが故なり。

米國人民は單に圖書館に於てのみならず家庭に於ても亦多くの書籍を購讀す。米國三百四十の出版業者が毎年發賣する書籍の數は實に汗牛充棟言ならざるが、公立圖書館の購求するものは僅に其一部分に過ぎずして、他は皆家庭の讀物となるなり。而して人氣ある小説の如きは三十萬部を賣り盡すこと尠からず。尤も斯く莫大の出版部數に昂るものは小説及び教科書に限れり。一個年間の出版書籍は獨逸より少しと雖、雜誌の數は遙に多し。且つ書籍とても發行部數より云へば却つて獨逸より多かるべし。加之上流社會の人士中には獨逸、佛蘭西、伊太利等の書籍を購求する者甚だ多しとす。

定期刊行物の多きことは實に驚くべし。一九〇三年の統計表によれば、日刊二千三百種、週刊一萬五千種、月刊二千八百種、四季刊行二百種、總計約二萬一千種の定期刊行物ありて、全歐洲の定期刊行物を合するも之に及ばず。獨逸の如きは僅に七千五百種に過ぎず。特に其發行部數の多きを見れば一層驚くべきものあり。人

口百萬以上を有するニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィア三市の新聞は勿論、他の大都會の新聞も亦數十萬部を發行せり。特に新英州地方の人民が新聞雜誌を購讀することは非常にして、例へばマサチューセツツの或る田舎にては戸數僅に二十四戸の内十九戸は、月刊大西洋の購讀者なり。

富豪が高價の書籍を購求することは恰も中等社會の人が雜誌を購求するが如くにて、高價の粧飾本も善く賣れ、特に繪入の科學書の如きは一部數百弗の高價を以て直ちに品切となるの有様なり。米國の家庭には財産相應の書籍を藏し、學者専門家にあらずとも圖書館を有する者多く、大商人の邸宅にては最も美麗なる室を以て圖書館室に充つるの風あり。又圖書館室を以て平生の居間となすが如きは最も普通なり。

特に米國人は主として米國人の著述を讀むを常とす。勿論外國の良著は決して看過するにあらず。米國人は萬事萬端最良の物を好み、最も新しき機械を用ひ、最も有名なる音樂者の音樂を聽かんことを欲するが如く、文學に於ても亦新思潮には注意を怠らず、世界の傑作は必ず之を閱讀す。故にダンテ(Dante)の詩を讀む



者はベルリンよりも却てボストンに多かるべし。米國人は特に獨逸の書を読み、専門の原書は學者の讀物となり、普通の物は翻譯せらるゝを常とす。又美文學としてシルレル(Schiller)レッシング(Lessing)は教科書に採用せられ、ゲーテ(Goethe)ハイネ(Heine)も亦歡迎せらる。其他フライタール(Freytag)スベールハイゲン(Spelling)ズーデルマン(Sudermann)等現代作者の翻譯も亦大に流行す。佛蘭西の原書は今日尙多く讀まるゝも、漸次衰運に向ふが如し。これ巴里の小説は米國人民の道德思想と相容れざるものあればなり。

英國の文學が米國に於て大なる勢力を有するは勿論なり。尤もその雜誌を讀む者は甚だ少さも、詩歌、小説、戯曲、其他趣味の一般的なるものは殆ど英國に於けると齊しき多數の讀者あり。中にもワード夫人(Mrs. Ward)デ・モローエ(Du Maurier)キプソン(Kipling)諸氏の小説は大に行はれ、又チャーサーよりブラザニンズ(Brown-Eye)に至るまで英國の模範的文學は、米國人民特に其婦人の金科玉條なり。然れども米國人が最も多く讀む所のものは矢張米國人の著述なり。然らば米國人の著述には果して如何なるものありや。請ふ少しく之を見るべし。

歐洲人は少くも同情なき偏頗の心を以て米國の文學を見るなり。曾て米國西部の詩人ジョーキンミラー(Joaquin Miller)が奇矯に過ぎ雅趣に乏しき詩を作るや、米國の人民は殆ど全く其價值を認めざりしも、英國にては忽ち大に其詩を賞揚し、氏を以て米國のバイロン(Byron)と稱したり。然れども氏は敢て斯くの如き大家たらざるのみならず、亦米國を代表する者にもあらず。米國人の諧謔的著作に就ても亦斯くの如く歐洲人は單に其笑ふべき諷刺畫の外何物をも思はざるなり。例へば誇大亂暴無稽の語句に満てるマークツウエーン(Mark Twain)の書は米國に於てよりも却て獨逸に於て人氣あり。而してロリエル、ホームズの如き眞の米國的諧謔は殆ど歐洲人の注意を惹かざるなり。米國人は形式の美を解せず、如何にも不風流の極にして、若し米國に眞の詩人あるならばそは唯囂々噪々ナイアガラの瀑布に齊しきものならんと思惟せらるべし。

米國の文學には眞に新機軸と稱すべきものなし。特に其凡ての文學に共通し、且つ歐洲に於て見るを得べからざるが如きものは一も之あるを見ず。然れども若し之に一の特色ありとせば、そは從來已にありふれたるものを巧に結合する點

にありと云ふの外なかるべし。熱心なる米國人は、米國的の文學とは新鮮と成熟とを結合したるものにて、これ即ち實際新機軸にして、米國文學の特色なりと言へり。然れども新鮮とは一般に未熟を意味し、成熟とは熱烈と生氣とを缺けることを意味すべし。勿論これ一の矛盾のみ。例へば生れの儘なる無邪氣と成熟との結合は不可能のことなるべし。然れども米國人民は既に成熟せる文化を携へて歐洲より來れる者なるが故に、彼等は所謂幼兒時代なるものを有せざるなり。されば米國本來の俚謠又は史詩なきが如く、生れの儘なる無邪氣は彼等にあることなし。故に米國の文學には青年の熱烈と活氣とはあれども、幼兒の無邪氣なる點は毫も認むべからず。亦新鮮と老朽とを結合すること不可能のことにして、米國の文學は成熟すれども老朽せず。所謂老の懷疑的困倦に依つて其元氣を損せられざるなり。

抑、新鮮とは樂觀的にして確信し、熱烈にして生氣あり、健全にして勇敢なるを云ふ。換言すれば青年的熱誠を以て其最善の理想を遂行せんと欲するものなり。而して成熟とは事物を其歴史的關係に於て考察し、靜思安心して徒に結果を心配

するが如き事なきの義なり。されば此活動なる樂觀的感情及び熱烈なる自信は到底奇妙精緻なる事物を捉ふると能はず。これ單に日光の煌々たるのみを見て黯流たる陰影の裡に美妙の存するを認むること能はざるべし。元來驚異及び沈想は悲觀的の心に於て初めて見はれ來るものなり。殊に青年的熱烈は活動變化を欲するものなるが故に、米國人は靜なる美術家の資格に於ては缺く處ありと云はざるべからず。次に成熟して事物に惑はざるものは、情に冷淡にして且つ熱心なる靈感を缺き、沈痛悲惨なる冥想に陥るが如き事なく、詩的興奮を避け、常に安心満足して、眞面目なる理性と平和的友情とを愼くに止まるべし。然る時は此完全圓滿なる才能は進取的熱烈と相容れざる事あるべく、又鋭敏なる情緒は斯かる理想主義と兩立すると能はざるべし。斯くの如くなるが故に米國人の氣質中には完全圓滿なる感情あるも、此感情は美術的のものと云はむよりは寧ろ道徳的感情なり。且つ米國人の諧謔にはよく之に伴ふ熱の情緒なし。而して實に米國文學の特質なりと云ふべし。勿論米國の文學者中にはこの概則に合せざる例外の人少からず。例へばポー(Poe)の如く魔力的靈感を有する人もあり、又ホーン

インの如く完全なる美術家もあり、又ホイットマン (Whitman) の如く凡ての形式の規則に拘泥せざる人もあり、又ヘンリー・ジェームス (Henry James) の如く陰影間色を認めたる人もなきにあらざらん。然れども概言すれば是等は唯例外たるのみ。以上述ぶるが如き米國文學の一般的特色中には、大なる勢力の働きたるのみを見るべし。即ち米國文學に於ける此熱烈なる自信及び青年的樂觀主義は、實は植民時代及び開國時代に於て自然界との奮闘に依て發達し、而して米國産業の勢力をなせし所謂米國人民の自發心の表現に外ならざるなり、而して此熱烈なる自發的性質は、ウエンデル (Barrett Wendell) の云へるが如く、三百年以前に於ける英國の祖先より遺傳したる處決して鮮少にあらざるなり。然るに英國に於ては其産業の發達は人民の品性に影響して全く之を變化し去り、今日の英國人はエリザベス時代の英國人とは全く異り、所謂シェイクスピア時代の自發心は最早現代の都雅優麗なる英國人には適せざるに至れり。然るに之と同じき英國人の一族は熱烈なる自發心を鼓舞するに最も適當なる米國の地に移住したるなり。又米國文學の特色たる明晰平靜にして秩序あり成熟せるは何處より來れりや

と云ふに、これ主として米國人民が英國文學の優秀なる感化を受けたる結果なりと云はざるべからず、且つ新英州諸州の清教的思想が道德的勢力を文學に及ぼしたる事も亦大に與つて力ありと云ふべし。今日に至るまで米國中最も秀てたる文學は、皆野鄙俗惡なる趣味に對して反抗せる人々の手に依て成らざるはなし。米國に於ては書籍の販賣者も購讀者も歐洲諸國に於けるより其數非常に多く、従つて眞の文學を解せず、野鄙なる書を好む徒の多數なるにより、之が爲め眞に文學の友たる者の厭惡の心は一層強く刺激せらるゝなり。而して此反抗心は一種の義務となり、使命となりて、美術的意識を強め、且つ凡ての未熟なるものに對して奮闘せしむるに至る。之に依て米國の文學には長所あると共に又短所なきにあらず。かの陰影模糊の調を缺き、凡て夢幻的、悲觀的、感情的、懷疑的思想に乏し、他の關係より言へば確に長所ならんも兎に角これ米國に於ける一の缺乏たるに相違なし。元來米國には城址なく、遺跡なく、奇絶なく、風俗なく、宗教上の神秘なく、社會的階級の甚しき對照なく、小説的漂泊者なく、王侯貴顯の壯嚴なし。米國人民は皆健全にして満足

なる生活を營み、富んで而して衣食足れる有様なり。されば米國の詩人が己が四圍の境遇を描寫することなく、主として其材料を植民時代の小説的事實、或は亞米利加印度人の傳説口碑、或は西部地方の冒險的生活、或は南部地方の耕作に従事せる黒奴等に採るに過ぎざりしは、決して偶然にあらざるなり。斯くの如く米國の天地は餘に明白に過ぎ、何等詩的趣味を誘ふものなきが故に、米國の文學は從つて餘に平靜、沈着、健全、和親の調に過ぎたるの觀あり。

斯かる米國文學の特色は、其小説に於て最もよく表はれたり。されど文學を廣義に解し、若くは哲學の如き人生の運命を論ずるもの、其他凡ゆる米國人の著述を見るも、尙明かに此特色を認むることを得べし。特に其新聞紙は遺憾なく此米國の特色を表はせり。尤も新聞紙の多くは瑣々たる記事、野鄙なる文字に充滿せるが故に、心ある人々は深く之を遺憾とし、新聞紙を以て所謂一の必然的害惡なりとなせど、斯かる賤むべき多數の新聞紙の外に大に尊重すべき少數の新聞紙あるは疑ふべからず。新聞紙の營業的方面に於ける成功は姑らく措て論ぜざるも、其文學的產物として有する所の價值は決して看過すべきにあらず。勿論其文體

の淺薄なる、論理の徹底せる、報導の皮相的なる等往々之なきにあらざれど、概言すれば、米國の新聞紙には一種の共通なる統一的特質ありと云はざるべからず。米國の新聞事業は一種の大なる同化力を有し、新に之に加はれる人も、直ちに之に同化せらるゝが故に、東はボストンより西はサンフランシスコに至る迄、米國の新聞紙は皆同一の文體と思想とを有して、確に一種の文學たるを失はざるなり。元來米國人は非政治的の文學記事と非文學的の政治記事との差別を認めざるが故に、此意味より云へば、米國の新聞記事は皆政治記事にして、同時に又皆文學記事なりと云ふを得べし。米國の新聞紙は論說、雜報、政治記事等皆米國文學としての價值を有し、新鮮、樂觀、明晰、生氣等紙面に溢れて、而も行々諧謔を以て満たさるゝを見る。

週刊新聞に於ては尙一層特色の明かなるものあり、孰れの週刊紙も所謂明瞭、新鮮、直截たる文體を以て米國文學の特色を發揮せり。月刊誌に於ても亦殆ど同様なり。週刊誌としては、北米評論の如く社會及び政治の記事を主とするものあり、又一層純文學的なる月刊大西洋の如きあり。同誌は一八五七年ローエル、ロン

グランド、エマーソン、ホームズ、ホイッチャ、モットレー等ボストンの文學者團體の創刊せる處にして、爾來常に米國知名の大文學者を記者とせるものなり。而して米國月刊雜誌の文學的特色は實に其論說にあり。乃ちその論說は、大部の書籍を讀まざる人々に普通の教育を施すを以て主眼とし、文章に生氣あり、諷刺に富み、議論温健着實にして教訓的なり。同一の記者が一問題に就き數説に互りて論說を掲ぐる場合には、後に至りて之を纏め一冊として出版せらるゝを常とす。斯かる論文は初め通俗講演會に於て演說せられたるもの多く、後之を雜誌に掲げ、更に校正改訂を加へて書籍となすなり。斯くの如きの價值は各異りて一様ならざるは勿論なれども、而も一般に興味に富み、有益にして住々世に卓出する傑作さへ尠からず。されば斯くの如き論文の記者は大に讀者の尊敬を博し、此種の書籍の出版せらるゝもの毎年必ず數百種に上る。而して米國文學の特色たる新鮮と成熟との最もよく表明せらるゝは乃ち此處にありとす。

科學の如き世界的性質のものさへも、米國にては尙一種の米國風なるもの存せり。勿論歴史家は各自己一家の文體を以て記述すべし。パークマン、モットレー、ブレ

スコット、フリスク等の諸家は各自異なる文體を有せり。然れども尙深く之を玩味する時は諸氏皆共に其論點を等うし、盡く同一の形式と同一の見解とを有せることを發見すべし。ゼロームス氏 (William James) の著「心理學原理」(Principles of Psychology) 二卷の如き純然たる科學的著書に於てすら、尙所謂米國文學の特色の明かに顯はるゝを認むべし。

演説も亦文學の一支流と見做すことを得べし。米國人の如き政治家的國民が雄辯家を尊重するは固より當然の事にして、社會に於ける凡ての事情は辯舌の發達を促し之を獎勵して、有名なる演説家には充分なる報賞あらしむ。見るべし、米國史上の大事件は皆雄辯家によつて喚起せられたるなり。例へば南北戦争を誘起したるはチャート (Chouteau)、ヘンリー (Clay)、カンフロン (Calhoun)、ヘーン (Hayne)、ガリン (Garrison)、サマナー (Sumner)、ヘンリクス (Phillips)、エヴァレット (Everett)、サハムスター (Daniel Webster) 諸氏の雄辯にして、又獨立戦争を促せるものはアダムス (Adams)、オーチス (Otis)、クィニー (Quincy)、ヘンリー (Henry) 諸氏の雄辯なりしなり。

尤も現今の如き平和の世にありては雄辯家の勢力は論文家の下位にあり。且つ

今日政黨の演説は概して文學的價值あるもの少し然れども吾人若し大統領の選舉運動を見、又法廷に於ける有名なる法律家の辯論を傍聴し、或は大學々生の討論會を實見せば、米國人民の辯才尙未だ消滅せざるを知るに足るべく、將來若し銀貨問題又はヒリピン問題以上の大問題起ることあらんか、雄辯術が再び國民に大刺激を與ふべきは疑ふべからざるなり、明敏なる理解力、明晰なる思想、諷刺的諧謔、語句配列の巧妙、抑揚頓挫等は實に米國人民の雄辯的天才なりと云ふべく、辯舌の簡明にして而も人を説服する力の強大なるは米國人一般の特質なりと云ふべし。特に米國人の卓上演説は最も精巧を極むと稱せらる。米國國會に於ける演説は獨逸帝國議會に於ける演説より優秀なること屢なり、而も米國の卓上演説は常に獨逸の卓上演説より勝れたるのみならず、實に一個の文學的著述たる價值を有す。其新鮮にして生氣あり、諧謔を交へて尙熱情と調和とを失はざるは、實に米國人民の特色を最もよく表明せるものと云ふべし。美文學に就きて見るに、純然たる文學も亦實際的の傾向を帯び、道德的若くは社會的の觀念を有せざるはなし、詩歌と雖時に或は全く論説又は言論たるの觀あり。

ゆれば小説に於ても短篇にして諷刺に富み且つ往々論説又は雜誌的趣味を含めるが如き社會小説却て世に歡迎せらるゝなり、有名なる小説家は新聞雜誌の記者より身を起せる者多くして、小説家は小説家たると同時に、亦論作家、新聞記者、或は大學教授たるを常とするが故に、大學の凡ゆる方面に於て大勢力を有す。十八世紀には史詩、抒情詩共に殆ど見るに足るべきものあらざりき、勿論當時に於ても文學史上多くの人物を出せりと雖、是等の人々には何等の創見的著述なく、到底英國の大詩人と比較すべくもあらず。當時米國は内外共に凡て英國の支配を受け居りしことを記憶すべし、吾人若し現今のカナダが全く知的成果を有せざるに反して、其隣國なる合衆國の狂熱的活動を見れば、政治上の自由なき植民地に於ては、到底文學の勃興せざる所以を知るに足らん。然るに米國植民地が英國の羈絆を脱してより約二十年の動搖の後初めて安定平和を得るに至り、此に初めて米國文學の發生を見るに至りしなり、勿論當時と雖、尙英國文學の勢力を脱したるにあらざりしも、創見的文學者の漸く頭角を表はすに至りしことは事

實なり。サ、カレンシー (Thackeray) 言へる如く、ワシントン・アーヴィング (Washington Irving) は新世界の文學界が舊世界の文學界に派遣せる最初の使節なりしなり。勿論氏は創見的大文豪なりしと雖、その文中には尙英國思想の影響を受けたる跡歴々として認むべきなり。一八一九年に出版せられたるその小品文集「スケッチ・ブック」(Sketch Book) は、氏の著述中最も人氣あるものにして、而も氏の詩才は、リップ・ヴァン・ウインクル (Rip van Winkle) が長さ假寝をなせるハドソン河畔を去ること能はざりしなり。

されば當時尙未だ眞の米國小説なるものは世に見はれざりしと云ふも敢て不可なきなり。ブラウン (Brown) の小説はその描寫力強さに拘らず、美的詩趣を缺けり。然るにクーパー (James Fenimore Cooper) 出て、漸く創見的詩才を示し、一八二一年其著「スパイ」(Spy) 出版せらるゝや、彼は米國のスコット (Scott) なりと賞揚せられたり。氏の三十二冊に次て多くの小説家世に出てしも、尙創見的天才を有する者は殆ど見るを得ざりき。セデウィック (Sedgwick) は初めて新英州の生活を描寫したる人にして、女子として文學上大なる聲望を得たる者は實に嬢を以て嚆矢とす。

然るに之と同時代に新英州の一青年ブライヤント (Bryant) 初めて詩歌に筆を染むるや、其清美なる詩趣は遂に米國従來の抒情詩を抜き、到底彼に比すべきものあらざりき。一八二一年その詩集の第一巻愈出版せられ、是に於て米國は初めて獨立の文學を有し、最早従來の如く英國人より嘲笑輕侮の聲を聞かざるに至れり。

斯くの如くして米國の文學は勃興せり。一八三〇年代に於てホイットマン、ホームズ、ロングフエロー、エマーソン、ソーロー (Thoreau)、カーチス (Curtis)、マーガレット・フルラー (Margaret Fuller) 等の大文豪皆新英州より出て、米國文學の明星となれり。且つ此光輝ある時代の先驅者として大詩人ポエ (Edgar Allan Poe) 出てたり。氏は所謂新英州詩人の如く道徳的理想を歌ふにあらずして、眞に詩其物を歌へるなり。悲哀に充ち人心を魅するが如き魔力ありて、而も流暢滑脱なる氏の詩歌は、米國の如く唯勤勉勞働に従事する國に於ては稀に見る處なりしなり。次に新英州に於て最も深玄なる詩才を有せるは、ゼスカール・レト・レター (The Scarlet Letter) の著者ホーソンなり。氏がその詩材を伊太利に採れる「マーブル・ファーン」(Marble Faun) は、氏

の文才の圓熟せるを示して餘あり。されど氏が全力を盡したる小説は又その材料をマサチューセツに採りたるものにして、情緒の深き、その詩趣の圓熟せる、恰も秋天の美に比すべし。其他エマーソンの如き詩的哲學者あり、ホイットアの如き自由主義の詩人あり。尙ロングフォード、ローエル、ホームズの三氏は共に文學の造詣深く、ハーヴァード大學の教授たり。此文學的黃金時代の學者にして今日尙生存せるは、獨りヒギンソン氏(Thomas Wentworth Higginson)一人のみ。氏は初め奴隸解放論者なりしが、後又女子解放論の大援護者となれり。氏は豊富なる思想を有し、實に近代に比なき大論文家なりと云ふべし。

ロングフォードは獨逸文學の紹介者にして、其著「ハイペリオン」(Hyperion)は獨逸の神話を叙せるものなり。其他新英州の生活を詠ひたる「エヴンゼリン」(Evening)の如き、或は亞米利加印度人に材料を採れる「ハイアワツナ」(Hiawatha)の如き、皆其中に獨逸思潮の影翳として認むべきものあり。氏の詩歌は大に米國人民に愛誦せられ、今日に於ても尙氏の舊宅を見んとて態々カムブリッジ(Cambridge)に旅行するもの尠からず。ローエルはロングフォードよりも一層天才ありしが如く、特に其知

識の多方面なる點に於ては確に彼に優れり。氏の玄妙なる詩才はよく當時米國人民の愛國心を喚起し、該博にして奇拔なる諧謔は詩歌の中に漲溢す。氏短詩に巧にして、又諷刺批評の論文を能くせり。氏の「セビグロース」(The Piglow Papers)は滑稽に富み、米國文學の上乗と稱せらる。然れども氏の特色は其該博にして學者的なるにあり。眞の米國的諧謔に富める者と言へばホームズを推さざるを得ず。氏又抒情詩に堪能なり。然れども氏の傑作と稱せらるるは「ゼオトクラット・オヴ・ゼブレック・ファースト・テーブル」(The Autocrat of the Breakfast Table)にして、世界的文學たるに恥ぢず。尤も同書は續物の第一巻にして、其續篇を書き終る頃氏は既に六十有餘の高齡に達し居たりしも、尙ハーヴァード大學に於て解剖學教授の職に在りき。

是等の外、第二流の文學者も少からず。十九世紀の中葉スタウ夫人(Harriet Beecher Stowe)の「アンクル・トムの・キャビン」(Uncle Tom's Cabin)を著すや、數個月の間は毎日一萬部の販賣を見たりと云ふ。之より小説文學一般に隆盛となるに至れり。當時又テローロー(Bayard Taylor)の優麗なる詩歌の世に出づるあり。其後氏はゲーテ



の「フュウスト」(Furst)を譯したるが、其翻譯の精緻巧妙なる實に無雙と稱せらる。ステッドマン (Stedman) 及びストダート (Stoddard) 兩氏の抒情詩も亦決してテロロイの詩に劣らざりき。南北戦争の起れる當時の米國に於ては、歴史以外には創見的科學は殆ど全くなかりしも、而も文學は大に隆盛を極めたり。元來科學は先づ健全なる高等教育の機關を要するが故に、最近三十年間に至つて辛く初めて之が研究の端を開けるなり。然れども詩歌は單に情緒の深奥なる音調を以て人心に語り、之を鼓舞すれば足れり。科學の發達は高等教育の發展と並行し、漸を以て進まざるべからざるも、文學は盛衰榮枯轉變常なきものなり。南北戦争の障煙全く消滅して平和となるや、文學の黄金時代は去つて漸次衰微に趣きたるが、今や再び復興の機運に向ひつゝあり。

勿論最近三十年間に全く文學的天才あらざりしにあらず、又文學に對する社會一般の趣味全く萎微したるにもあらざるなり。例へばハウエルズ (Howells)、『ホームズ』(James)、『ローランド』(Crawford)、『カブ』(Cable)、『オーランドリッチ』(Aldrich)、『ヘンリー』(Henry)、『ブレット・ハート』(Bret Harte)、『ヘンリー』(Hale)、『マリン』(Mary Wilkins)、『サウザン』(Sarah Orne Jewett)の

如き小説家、ラニール (Lanier)、『ホイットマン』(Whitman)の如き詩人、ストックトン (Stockton)、『マーク・ツウェイン』(Mark Twain)の如き滑稽文學者等ありて、中には傑作名著と見做すべきものなきにあらず。然れども之を曩日文學隆盛時代に比す、へくもあらざる故に、寧ろその中絶の時代なりと云はざるべからず。尤もハウエルズ氏を以て米國の文學者中最も偉大なる者となし、氏の寫實的分解を以て現代小説の白眉なりと賞讃する人少からず。而してハウエルズ氏自身はツウェイン氏の近年の著述に對して、之と同一の讃辭を呈するなり。

茲に不思議なる者はホイットマン氏なり。氏の詩歌、『リーヴス・オブ・グラズ』(Leaves of Grass)は一方に於て大に賞讃せらるゝと共に、他方に於ては野鄙劣惡、乾燥無味なりと稱せらる。されば氏の文學上の眞價は將來に於て初めて決せらるべし。ニーチ (Nietzsche)の『ツァラトゥストラ』(Zarathustra)に就ても亦之に齊しき議論ありき。加之極端なる民主主義のホイットマンと極端なる貴族主義のニーチとは、その思想に於ても亦大に似たる處あり。ホイットマンの説は、人は各、自己の專制君主なるが故に、自己を以て無比無雙なりと感じ、所謂超人 (Ehemensch)の權利を要求するに

至る。されば二氏の歸着する所甚だ相似たりと云ふべし。斯くホイットマンとニ  
 チュとの如く吾人はブライヤントとブラーテン(Platen)ギーとハイネ(Heine)ホ  
 ソーンとフライター(Reyter)ホームズとケルレル(Keller)ハウプスとフォンター  
 ネ(Fontane)クロウフォードとハイゼ(Heyse)ローエルとウーランド(Ulland)ホイ  
 とリケルト(Ruckert)とを比較することを得べきか。然れども斯かる比較は唯大  
 體に就て言へるのみ決して餘に深く考ふべからず。  
 現今の渾沌たる文學中最も勢力あるものは小説及び短篇物語なり。特に米國人  
 は常に短篇物語を歓迎するの風あり。ギーの如きは最も秀てたるものにして、其  
 他オールドリッチ、ヘール、ブレント、ハートの諸氏及びウィルキンス、ジューエト兩女史  
 の如きも亦各傑作あり。米國の短篇物語は深玄なる認識、生新の活力、優雅なる感  
 情、快活なる滑稽等、所謂米國文學の粹を蒐めて趣味津津たるが故に、米國文學の  
 精華なりと云ふを得べし。而して短篇物語の著述せらるゝものは非常に多く、特  
 に其多くは月刊雑誌に掲げられ、益、隆盛となるの風あり。  
 滑稽文學の作者は往時よりも少し。アーヴィング、ローエル、ホームズの如き雅趣あ

諸讀或はブレント、ハート、マークツウエインの諸氏の如き大滑稽は共に今日に於  
 ては多く之を見ること能はずして、文學上重視すべき滑稽作者甚だ稀なりと言  
 ふべし。  
 歴史小説は非常に盛なり。初めは其材料を遠き外國に取りしが、近時漸く米本土  
 の昔に溯りて之を求むるに至れり。尤も歴史小説が非常に賣れ行き善きは詩趣  
 を愛する情より然るにあらずして、寧ろ知識欲の發展に歸すべく、最近十年間に  
 於て特に國民的自覺心の發達せるに伴ひ、一般人民が國史の研究をなさんと欲  
 するに至れるが爲めなり。然れども歴史小説が尙美的詩趣に富めるは疑ふべか  
 らざる事にして、今日流行するチャーチル氏(Churchill)の「セクライシス」(The Crisis)  
 ンチラー氏(Bucheller)の「トリネンド・ブイ」(Tri and I)シモンストン嬢(Johnston)の「オー  
 ンド」(Audrey)ノード氏(Ford)の「シニス・メド」(Janice Meredith)等は勿論唯一時  
 的にして、久しからずして之に代るべきもの出づべしと雖、尙何れも皆措辭巧妙  
 にして詩趣に富み、優に傑作たるを失はざるなり。之を要するに今日の一般米國  
 小説は決して獨逸の小説に劣る所なし。

元來歴史小説は主として國民の自覺心を喚起するを目的とするものなり。されば例へば多能なる醫師ミチェル氏(Mitchell)の歴史小説の如きは第一に獨立戰爭の歴史第二にペンシルヴェニアの初期の歴史を述たるものなり。尤も特に一方の事のみ就て記述せる歴史小説も亦盛行はる。これ一は米國人民の自然界を愛する情より出てたるものにして、アーヴィング、クーパー、プライヤント諸氏の頃より今日に至るまで、孰れの著書に於ても皆見る所の特色なり。全國到る處其地の風俗景色を描寫する文士ありて、日々此種の新著刊行せられ、特に西部諸州に於て最も盛なりとす。例へばフルラー(Fuller)、ノリス(Norris)其他の諸氏の小説は、西部地方の生活及び文明の狀態を最も能く描寫せり。南部諸州に於ても亦漸く此種の著述盛ならんとす。尤も米國黒奴の心理狀態に材料を採るもの少きは、大に奇とすべし。

散文は常に傑作に富めるも、史詩はロングフューロ「エヴァンゼリン」を著はせる以來殆ど傑作と稱すべきものなく、詩と云へば全く抒情詩的となれり。而して抒情的詩人として最も有名なる者はスレードマン氏及びオンダードンク氏(Onderdonk)。

にして、二氏の抒情詩集は米國の文學に最も大なる貢獻をなせるものと云はざるべからず。元來小説は多少利益の考よりして著述するものなれども、詩集の如きは殆ど全く金錢上の目的を有せざるものなり。而して今日と雖抒情詩の續々として見はるゝを見れば、米國人民の理想が如何に高尚なるかを知らんに足らん。ホスト、トランスクリップトの如き政治新聞に於てすら、毎號抒情詩を掲載しつゝあり。且つ日々多くの詩集出版せられ、孰れも深遠なる理想と優麗なる美感とを包含し、非常なる拙作と認むべきものは殆ど之なきが如し。而して最も有名なるもの必ずしも善きものにあらず。例へばマーカム(Markham)の「ギン・ウ・ツ・ゼ・ホ」(The Man with the Hoe)の如きは噴々として世上に喧傳せらるれども、サンタヤーナ氏(Santayana)又はピロポデー女史(Josephine Preston Peabody)の傑作は餘に世人の注意を引かざるが如きは是なり。又地方的特色も亦明かに認むべきものあり。西部諸州の詩人と東部諸州の詩人とは確に其着想を異にせり。而して南部諸州は再びラニール氏の如き流暢なる詩人を出さず。現今の戯曲には抒情詩的傾向甚だ盛なり。元來米國にては眞の戯曲は藝術中にて最も閉却せられたる處にして、米

國人がエリザベス時代の英國思潮を今尙失はずとの言果して眞なりとせば、米國には今やシェークスピアの如き大戯曲家必ず出てざるべからざるの時なり。然るに米國人にして眞に文學的價値を有する戯曲を著はせるものは未だ曾て之あるを見ざるなり。勿論戯曲家は孰れの時代にも常にあり。且つ現今に於ては俳優も亦甚だ多し。然れども所謂眞の戯曲的文學は殆ど全く看過せられたり。勿論一般人民の俗趣に投ずるが如き、通俗的の小説の脚色は常に生じつゝありと雖、文學上の價値は殆ど認むべからざるなり。尤も米國の戯曲の著述の不振と、米國の演劇史とは特に密接の關係あり。されば吾人は次章に於て文學と姉妹の關係ある藝術に就て見る處あらんとす。

## 第六章 藝 術

米國の演劇史を明かにせんと欲せば、溯つて新英州の清教徒に就て見ざるべからず。

らず。彼等は劇場を以て敗徳不淨の場所と考へ、且つ當時の輿論も亦劇場及び料理店を以て厭ふべき處なりと思惟せり。一七五〇年、ボストンにては演劇を全く禁じたることあり。尤も一七九四年に至り一劇場建設せられ、後數年にして尙數個の劇場起りたれども、一般の人々は之を以て道徳を壞亂するものとなし、大に反對の聲を擧げしかば、是等の劇場は遂に全く興行を止め、演説會場又は其他の用に供せらるゝに至れり。次て一八三九年に至つて、ボストンには決して再び一の劇場をも建築すべからずと公示せられたり。然れども之に拘らず、一八七〇年には五個の劇場建築せられ、今日に於ては増して十五となれり。尤もその他の都會に於ては劇場に對して常に餘程自由寛大の處置を執れり。ニューヨークの如きは、一七三三年以來劇場の建築せられたるもの九十五、其内三十餘は今尙存して興行し來れり。されば清教主義の精神は業既に消滅し、戯曲の不振と舊來の宗教的思想とは何等の關係なきが如く見ゆべしと雖、事實は決して然らざるなり。勿論劇場の數は甚だ多く、殆ど何れの町にも樂劇場(operahouse)の設けなきはなく、特に大都會に於ては其數多きに過ぐるの觀なきにあらず。而して名優も亦決して

少しとせざるなり。尤もエドウィン・ブーム(Edwin Booth)の逝て後、氏の如きシェイクスピア劇の大俳優は再び求むべからざるも、尙名優に乏しからず。例へばマンズフィールド(Mansfield)サザーン(Sothern)ゼン・ジョンソン(Jefferson)ドレー(Drew)ギルレット(Gillette)の如きは大に賞讃せらるゝ人氣俳優なり。其他モード・アダムス(Maudie Adams)ヘンズク女史(Hicks)ブランチ(Blanche)ヘイン(Bates)クロスマン(Henrietta Crossman)アーサー(Julia Arthur)マロー(Julia Marlowe)アダ・レハン(Ada Rahau)ナン・ス・オニール(Nance O'Neill)の如きも亦眞摯なる藝術家なりと云ふべし。加之歐洲の名優アイザック(Irving)ツリー(Tree)デュゼン(Duse)ヘルンハルト(Bernhardt)ソーマン(Sornay)カメル(Campbell)の如きは殆ど毎年米國に來りて其名技を演ずるを常とす。又米國人民の多藝多能なる天性は俳優たるに大なる利點あり。特に男女學生間の素人芝居が米國の如く盛なる處は他にあらざるべし。其他舞臺の設備も甚だ完全に芝居の道具立の如きは歐洲の劇場より勝ること少からず。尙之に加ふるに米國人の元氣、熱心、自信力及び其女子の美貌を以てするが故に、喜劇の如きは眞の藝術的技倆を見ることを得べし。されば米國大多數の人民は今日の狀態に

満足し、劇場は常に看客を以て満さるゝの有様なり。斯くの如くんば米國の演劇を非難するが如きは一見甚だ不合理なるが如く見ゆべし。然れども單に大多數人民の意嚮如何によつて米國演劇の全豹を評すべからず。見識ある人々は決して米國現時の演劇に満足せるにあらざるなり。喜劇、茶番、小樂劇の如き、素より人を樂ましめざるにあらずと雖、斷えず修養して自全の希望を有する人々に取りては、殆ど何等の價値なく、到底眞の藝術と云ふに足らざるなり。勿論演技の所作必ずしも拙劣なるにあらずと雖、例へばニューヨークの劇場の如き數週の間毎夜同一のものを繰返すに止まり、唯一般民人の俗趣に投ずるを旨として更に何等の新機軸なく、眞の藝術を見んと欲する者の甚だ遺憾とする處なり。此點に於てニューヨークは倫敦とは同一の程度にあらんも、巴里、柏林及び維納に比すれば確に劣れるものありと云はざるべからず。特に米國の其他の大都會に於ては更に一層甚しきは疑ふべからざる處なり。元來演劇は興行主の營利事業なるが故に、これ或は已むを得ざる事なるべし。故にデューリ氏(Dewey)の如く眞の藝術てよ立場より劇場の改良を行ひ演劇の向上を計

れる人全くなきにあらずと雖、非常に多額の費用を要して到底之に堪ふる者は殆どあらざるべし。斯くの如くなるが故に結局演劇は費用の問題となり、滑稽又は肉感的の劇のみ行はるゝに至るなり。加之種々異りたる外題を演ずる名優を用ふるよりも、毎年同一の出し物を機械的に繰返す一座を備ふ方大に廉くして利益多く、特に舞臺装置の費用に於て節約することを得らるべし。然れども餘り大ならざる町にては數夜相續きて同一の外題を演ずること能はざるが故に、一座は諸處を巡回せざるべからず。尤も名高き一座は一週間以上興行すべく、大なる町ならば四週間乃至六週間滞在すること稀ならず、而して其一座は興行の外題若くは其座長たる花役者(Star)の名にて世人に知られ、劇場其物は單に一の空家に過ぎざるが如き觀あり。毎年秋の初め其後の三十週中に於ける各座の興行目錄を發表するを常とす。斯くの如くなるが故に小都會に於て却つて最新の外題と名優とを見ることを得べし。而も其極端なる場合に就て見れば、何等の新機軸もなく甚だ遺憾とすべきものあり。例へば名優ゼッファーンは三十年間殆ど全くリッピン・ザン・ウィングルの役のみを勤め、之に依つて屢、巨萬の富を作

ゆたり。

此演劇の營利的精神は尙之に止まらざるなり。數百の俳優團の競争の結果は終に演劇トラストの組織を見るに至れり。一八九六年、クロイ・エルランジン・プロイアン會社(The Syndicate of Klaw, Erlanger and Frohman)の組織成りしが、此會社は大會に在る三十七個の大劇場より成り、是等の劇場は必ず會社に屬する俳優を備ふべく、會社は其報酬として芝居の期節には毎週必ず劇場に俳優を供給し、以て劇場の繁昌を計るべしと云ふにありき。此に於て之に加入せざる俳優は、大都會に於ては第二流以下の劇場に備はるゝの外なきに至りしを以て、彼等も亦遂に屈して之に加はり、今やフロイマン氏の下に一大トラスト組織せられ、全國の演劇業は全くその手に歸するに至れり。而して此演劇トラストは能く一般人民の意嚮を察し、時流に投じ、滑稽に妙を得たる役者に得意の役を勤めしめ、是等の役者及び劇場主に充分の報酬を拂ひ、俳優間の競争を避けしめ、以て一般人民の嗜好に投ぜんとするなり。而も斯く眞の藝術の進歩發達を阻害するが如き現今の狀態を一變せんことは、殆ど不可能の事に屬すべし。

されど一の演劇改良法なきにあらず。そは先づ大都會に於て常設の一座を組織して之に補助金を與へ、以て一般人民の俗趣に依頼せずとも充分に維持することを得しむるにあり。然るときは漸次戲曲的藝術進歩し、且つ劇場は一種の教育機關となり、漸次人民の趣味を高め、遂には補助の必要すらなきに至るべし。此方は歐洲大陸に於て常に行はるゝ處にして、單に觀客の入場料のみにては到底藝術の向上を望むべからざるが如き場合には、王侯、貴族、市廳等は相争うて補助金を與ふるの風あるなり。米國人は圖書館、博物館、大學等の爲めには數百萬弗を寄附して敢て惜む處にあらず。而も米國に於て寄附金又は公共金によつて演藝の向上を促さんことを企つるもの絶えて之なきは、何故なりや。これ實に舊來の清教主義の偏見、今尙存するが爲めなり。演劇は最早法律の禁ずる處にあらずと雖、而も之に對して補助金を與へんとする者なく、若し公共金によつて劇場を保護するが如きことあらんか、米國の納稅者は非常に不快を感じ、必ず之に反對すべし。米國にては劇場は單に淺薄兒戲に齊しき娛樂場たるに過ぎざるが故に、富豪も亦進んで之に寄附をなさざるなり。カーネギー氏の如き人々は、都會の住民

が尙圖書館又は大學の設立を希望しつゝある間は、若し演劇に數百萬弗を寄附するが如きことあらば、大に世人より非難を受くべきを熟知せるなり。米國に於ける音樂の歴史を見れば、寄附金の力によつて社會の嗜好趣味を教養し、遂に最良の藝術をして獨立するを得るに至らしむべき實證を示せり。今日尙米國中最良の合奏會たる「ボストン合奏樂堂」(Boston Symphony Orchestra)の發達は、其好例なり。元來米國の如く音樂教育の未熟なる處に於て、合奏會が補助金なくして維持せられんことは到底不可能のことなりき。一八八〇年ボストンには二つの奏樂堂ありしが、共に其規模小にして聽くに足るものなく、之に出演する人は皆非常に多忙にして、音樂の研究及び練習をなすべき餘暇を有せざりき。然るにヘンリー・リー・ヒギンソン氏(Henry Lee Higginson)は自ら其經費を負擔し、當時の最も有名なる音樂家を聘して之が爲めに全心全力を盡さしめたり。然るに其後數年の間は氏の支出する所非常に莫大なりしも、漸次に減少し、而して今日ボストンの市民は之に依りて歐洲に劣らざる合奏を聽くことを得、さしも廣き奏樂堂も遂に狹隘を感ずるに至れり。且つニューヨーク、シカゴ、フィラデルフィア等も亦

此例に倣ひ、完全なる常設奏樂堂を有するに至れり、  
 樂劇も亦之と等しく、大都會特にニューヨークに於ては、歐米の最も有名なる唱歌  
 者より成れる一座によりて、獨佛英の最良の樂劇開催せらる。加之是等大都會の  
 樂劇は漸次に全國到る處に普及せんとし、藝術教育の爲めに樂劇の常設的一座  
 の成立を望む者甚だ多し。米國人民が音樂を愛する實證は、管に合奏及び樂劇の  
 發達斯くの如きものあるのみならず、尙此他にも種々の事實あり。各大都會には  
 音樂學校と多くの熟練なる音樂教師あり。其他如何なる市府にも宗教樂協會、唱  
 歌俱樂部、座敷音樂會又一定の奏樂日あり。而して是等は敢て今に於て始まれる  
 にあらず。一七五〇年既にニューヨークに於て樂劇の催あり。又一八二五年には伊  
 太利の樂劇輸入せられたり。又ボルチモア、フィラデルフィア、ニューヨーク、ボル  
 ンに於ても夙に音樂の趣味發達したり。  
 ポストンは從來宗教樂の大中心地なり。一八一〇年、ヘンデル・アンド・ハイデン協  
 會 (Handel and Hayden Society) 起り、一八二〇年頃には東部諸州到る處にて演奏せ  
 られたり。十九世紀の中葉には特に獨逸音樂の影響甚だ顯著にして、一八四八年

にはポストンに「獨逸奏樂堂」(Germania Orchestra) 建設せられたり。現今に於ても、  
 ルウキーク (Milwaukee)、シンシナチ (Cincinnati)、シカゴ、セントルイの如き獨逸音樂  
 の影響甚しき西部諸州の都會は音樂の中心地となれり。  
 教會も亦大に音樂を保護したり。元來清教主義者は俗界の音樂を惡むこと敢て  
 演劇に劣らざりしも、讚美歌は神の禮拜に關聯するものとして獎勵したるを以  
 て、音樂の嗜好漸く盛となり、風琴及び絃樂器をも採用し、青年等も亦熱心に音樂  
 を習ひ、終には音樂を聽かんが爲めに教會の禮拜に行く者すらあるに至れり。斯  
 くの如くにして宗教的思想の爲めに全國到る處合唱、獨唱、樂器の練習等益、盛大  
 となれり。  
 然るに音樂の盛なるに比して音樂の作品は却つて振はざるの風あり。近年に於  
 ける奏樂目錄を一見すれば、之を知るに足らん。乃ち樂劇にてはワグネル (Wagner)  
 を第一とし、ヴェルディ (Verdi)、グノーノー (Gounod)、モーツァルト (Mozart) 之に次ぎ、又合奏樂  
 にてはベートーヴェン (Beethoven) を第一とす。又時には米國のものはメンデル (Mendel-  
 sohn)、サイドマン (Seidl)、ゲリケ (Gerike)、トーマス (Thomas)、パウル (Paul) 等の如き獨逸の



主なる樂長の爲めに壓倒せらるべしとの説あれども決して然らず之に就ては米國の社會公衆こそ責を負はざるべからざるものならぬ。何となれば米國人民は何事に於ても愛國心の強きに拘らず、音樂のみには然らずして、その音樂家が先づ歐洲に行き彼地に於て賞讃せられたる後にあらざれば、敢て其技倆を認めざる風あればなり。

米國にも音樂の作品全くなきにあらず。十八世紀には宗教的音樂の作者ありしが、獨立戰爭の時英國のものとなへ云へば一切之を排斥し、植民地の人民は本國より持來りたる讚美歌の調譜をすら變更したり。十九世紀に入りても唯所謂樂隊音樂 (band-master music) の起れるに過ぎずしが、最近に至りストロンク (Strong)、ビーチ (Beeli)、バン (Buck)、キッカー (Parker)、ハート (Hook)、クドロー、ウエル (Mac Dowell)、リン (Paine)、チャドウィック (Chadwick) 等有名なる作者出たり。特に最後の三氏の名作は將來米國音樂の發達すべき方向を表示するものなり。

俚謠體の歌は大に盛なり。尤も米國には眞の俚謠なるものあらず。普通の歐洲人は「ヤンキー・ジョージ」 (Yankee Doodle) を以て眞の米國國歌なりと思ふを常とし、

又外交團にては「ハイル・コロムビア」 (Hail Columbia) を以て公式の國歌なりと考ふ。然れども米國人は共に之を認めず、眞に米國國歌と稱すべきは「スター・スパンゲル・ド・バンナー」 (Star Spangled Banner) なりとなす。南北戰爭の頃愛國心を鼓舞する爲めに作れる歌數種今尙存す。

獨り南部のプランテーションに於ては俚謠大に發達したり。而して是等の俚歌は元來阿弗利加の歌にはあらざるべきも、黒奴等が先づ歌へる處にして、恐らくは彼等がミシシッピ河の汽船中にて聞きたる愛蘭及び蘇格蘭の俗謠なるべし。その他黒奴はバプチスト及びメソヂスト教派の讚美歌と佛國の歌調とを探り、之を變形して歌へるものあり。而して南部諸州に行はるゝ是等の歌は甚だ悲哀凄愴なる調を帯べり。

又南部の俚謠に摸して詩を作る者少からず。其最も有名なるは十九世紀の中葉フォスター氏 (Stephen Foster) の「オールド・フォークス・アット・ホーム」 (Old Folks at Home) にして非常なる喝采を博したり。今日に於ては種々なる作者ありて、或は感情的のものを作り、或は快活なる輕佻なるものを作れり。而して是等の歌は直ちに到る

處に於て謠はれ奏され彈ぜらる。特に甚しきは蓄音機に入れて之を善ふ。その他讚美歌、進行曲、ピアノ曲等を濫造して其の藝術家を厭はしむる作家尠からず。されば米國人は英國人と異り、大に音樂を好むと雖、眞の藝術を解する者にあらずとは眞の音樂家の齊しく一致する所なり。

米國の音樂は斯くの如く尙未熟なりと雖、米國の繪畫の非常に發達せることは歐洲人も亦巴に之を認むるに至れり。曩に巴里博覽會に於て米國の畫家は賞牌を受け、其他伯林及びミンヘン(München)の繪畫展覽會に於ても亦大に賞讃せられたり。米國の畫家として最も有名なる者はサーゼン(Sargent)及びホイストラ(Whistler)の二氏なり。彼等は共に肖像畫に巧にして、特に前者の如きは運筆の妙神に通じ、人々に接すれば殆ど無我の境に入るの感ありと稱せらる。

されど肖像畫のみを以て米國の繪畫界を批評すべからず。元來米國は自然界に對する趣味の甚だ盛なる處にして、今や風景畫は米國繪畫の模範たらんとするに至れり。されば其詩歌が自然界の妙趣を含蓄せるが如く、繪畫に於ても亦その藝術家等は大に風景畫を研究しつゝあり。特に米國の大畫家等は壁畫を描ける

が故に、單に歐洲に出品せられたる額面畫のみにて米國の繪畫界を論評すべきにあらざるなり。米國には大建築物甚だ多く、爲めに壁畫は益々進歩しつゝあり。且つ米國人民の民主的思想によれば、額面畫は富豪の邸宅を裝飾する奢侈品に過ぎず。民主國の美術は亦民主的ならざるべからず。故に之を以て公共建築物、圖書館、教會、裁判所、立法院、劇場、停車場、市廳等の壁面を裝飾せざるべからずとなすなり。されば展覽會に出品せられたる額面畫のみに就て現今米國の繪畫を批判するは大に當らざる所あるべし。殊に有名なる米國の畫家等は自己の製作品を歐洲に出品せざる者多し。

勿論米國の繪畫は住時歐洲に學ぶ處多かりしも、今や獨得の發達をなしつゝあり。米國人が先づ知識を廣く世界に求め之を同化し以て米國固有のものとなすことは常に繪畫のみに止まらず、萬事皆然りとす。獨立戰爭以前の米國畫家として多少價值あるはウェスト(West)、コプレー(Copley)の二氏のみにして、而もその肖像畫は滋味を帯びて、表情の妙更になし。然るに十八世紀の末、ステアト氏(Gilbert Stuart)出て、敢て英國の有名なる肖像家に劣らざる技倆を示せり。米國美術史上氏

よりも一層重要なるは、氏と同時代に獨立戦争の將校たりしトラムブル氏 (John Trumbull) にして、戦争畫に巧なりき。されど今日より氏の戦争畫を見れば、未だ眞の藝術を表せるものと云ふべからず。されば當時代に於て繪畫として見るべきものは、尙肖像畫のみにして、スチヤー、ト氏の外、ピール (Peale) ライト (Wright) サハ、ーシ (Savage) 等の諸氏ありき。而して少しく後れて米國のチミアン (Titian) マニスの有名なる畫家なりと稱せらる。オールストン氏 (Allston) 出たり。初め米國の美術家は繪畫の研究に主として英國に行き、又往々伊太利に行く者もありしが、十九世紀の中葉には獨逸のデッセルドルフ (Düsseldorf) に行きたり。されば米國の風景風俗を寫し、又は其英雄の歴史畫を描くにも、凡て獨逸風を帯びざるは、なく、例へば、ドソン河の夜景にも獨逸に於て見る月の色を用ひたり。然るに南北戦争の頃に至りて初めて、パリ及びミュンヘンに學ぶ者起り、茲に米國の繪畫は大に發達の運に向ひ、今日に於ては、毎年の作品數千に達し、且つ歐洲の繪畫に比して、毫も遜色なきに至れり。

オールストン氏の後有名なる畫家は、風景畫に於ては、コール (Cole) ボールスタット

(Bierstadt) タンセト (Kenset) キンフォード (Gifford) 風俗畫に於ては、レスリ (Leslie) ウィードマン (Woodville) マウント (Mount) 歴史畫に於ては、レンチ (Lentze) ホット (White) 肖像畫に於ては、インマン (Inman) エリオット (Elliott) 等の諸氏なりき。而して最近三十年間に其名を得たる畫家は、少からずと雖、インネス氏 (Innes) の風景、ホーマー氏 (W. Homer) の海洋、ハッサム氏 (C. Hassam) の街路の光景、イートン氏 (Eaton) の人頭、キンズ氏 (Ehneking) の秋の森、ブラウン氏 (A. Brown) の春の林檎樹、ウィア氏 (Veir) 及びトライオン氏 (Tryon) の風景、アビー (Abby) コックス (Cox) ロー (Low) 三氏の壁畫、ホーズ氏 (O. Beaux) 及びチャース氏 (Chase) の肖像畫、ターベル氏 (Tarbell) の女子の頭、セーヤー氏 (Thayer) の理想的人物等は、其最も顯著なるものにして、此外米國に於てよりは却つて、英佛、獨等の外國に於て大に賞讃せらるる畫家甚だ多し。

油繪の外、水彩畫、墨筆畫 (paste) 銅版畫 (etching) 等も亦大に進歩し、最も顯著なるものは、ランフォード (La Furge) ラスロー (Lathrop) ホイトマン女史 (Whitman) グロー (Goodhue) 諸氏の玻璃畫 (stained glass) なり、又、ペン畫も亦大に進歩し、ギブソン (Gibson) ペンネル (Pennell) 兩氏特に其技に巧にして、中ギブソン氏の米國婦人のペン畫は、最

も有名なり。

彫刻術は繪畫に比すれば其發達遅々たりき。元來彫刻は繪畫よりも一層研究を要するのみならず。米國にては嚴格なるビトリタン主義の爲めに其進歩を妨げられたると尠からず。十九世紀の半に至り、漸く伊太利に行きて之を研究する者起り、米國彫刻家の先驅者としてグリーンノー(Greenough)パワース(Powers)シローフ(Ford Crawford)バンパー(Palmer)の諸氏出づ。その後ジョン・ローゼン(John Rogers)ラントラン・ローゼン(Randolph Rogers)の如き名手あり。次てストーニー(Storey)ボール(Ball)ラインハート(Rinehart)ホズマー(Hosmer)メード(Mead)その他多くの人々を出したり。然れども是等諸氏の作は未だ以て眞の美術的價値を有せざりしが、最近に至つてワード(Ward)ワーナー(Warner)パトリッジ(Partridge)フレンチ(French)マクモニス(Mac Monnies)セント・ガーデンズ(St. Gaudens)等の諸氏出で、茲に愈々成熟の境に達せりと云ふべし。

建築術は一種獨得の發達をなせり。元來人は戶外に住むこと能はずして、必ず先づ家屋を建築せざるべからず。されば如何なる建築が美麗なりや否やを研究す

るは後に至つて初めて起るべき問題なり。米國人が新大陸に來りて印度人を驅逐し、草原を開拓するに忙殺せられたる間は、固より未だ詩歌、音樂、繪畫等を學ぶの餘裕なく、之を他日に譲るを得べかりしも、其住むべき家屋の建築は一日も延ばすを得ざりしなり。故に當時は唯全く英本國の建築術を摸倣し、何等の新機軸をも出さざりしなり。而も建築家は畫家、詩人、又は音樂家等と異り、氣候、社會的狀態及び特に建築材料の爲めに支配せられざるを得ず。此に於て建築家は英國と全く其四圍の状態を異にする米國に適應の新建築術を工夫せざるべからざるに至れり。

斯くの如く、米國の植民地人民は英國の建築を摸倣したるも、四圍の境遇の爲めに第二石材を用ひずして木造の家屋を建築すべき必要ありき。已に其材料を異にすれば、建築術も亦其儘直ちに之を摸倣すること能はず。されば英國建築の形式を借りしも、其應用に於ては多少新なる斟酌と工夫とを加へ、漸次歐洲風の建築法より離れて發達したり。植民地時代には英國式の建築を木造にて摸倣したるが故に、石造に比すれば其柱小く、精巧優美なる處ありき。現今にてもニューヨーク

グラント諸州には此建築法によれる家屋を見ること尠からず又或る地方にては西班牙、佛蘭西、和蘭等の建築法も多少影響を及ぼしたる跡ありて、南部地方にては今も尙之を認むることを得べし。

然るに獨立戦争後在來の米國人は英國の歴史と絶縁せんことを欲し、且つ世界各國の人民が各異れる建築法を携へて移住し來りしかば、茲に一般摸倣の時代を現出せり。十八世紀の末には主として古代希臘の建築を摸したるを以て、農家すら大寺院の如き觀を呈し、餘りに單調無味に失せるが爲め住家の建築法としては永く持續せざりき。當時ラトローブ氏(Latrobe)の其工を起してバルフィンチ氏(Bulfinch)之を完成したるワシントンの國會議事堂は各州議事堂の模範となれり。

されば十九世紀中には固より多少の變遷なきにあらざりしも、依然として希臘風の勢力を脱することなく、近年に至る迄誰一人公共の建物を一層自由に且つ美術的に建築せんと企てたる者あらざりしなり。十九世紀中に建築せられたる州の議事堂中には美術的價值を有する者少からずと雖、聯邦政府に屬する建物例へば郵便局、税關等の如きは、近年に至る迄多くは何等の意匠もなき粗末なる

普請なりき。故に此時代は全く混亂の時代にして、古代の希臘風より中世紀風に移り、それより英國風のゴシック形大に流行したり。是より古雅なるものより優美なる建築法漸く世に行はれ、特に教會堂の如きは最も其影響を蒙り、十九世紀の中葉米國建築の元祖と稱せらる、リチャードアップジョン氏(Richard Upjohn)は有名なるゴシック風の教會堂數個を建てたり。然るに教會堂以外の一般建築に於ては之が爲めに殆ど無規律となり、人民は種々なる建築法を濫用し、建築家は其判斷に迷ひたりき。特に暴富家の劣悪なる俗趣味は大なる惡影響を及ぼせり。而して此弊の最も著しきは西部地方に於てなり。その後も尙混亂の時代相續きて、摸倣虛飾交、行はれ、市街の家屋にすら漫に世界の凡ゆる建築法を摸倣し、加之英國に於て女王アン(Queen Anne)の時代に行はれたる建築法流行し、次て復た植民地時代及び和蘭風の建築法再び興るの奇觀を呈したり。

然るに東部諸州に於ては最近二十五年間、西部諸州に於ては十年間に於て、斯くの如き混亂、摸倣、實驗の時代去つて、趣味ある新機軸の壯麗なる建築法行はるゝに至れり。勿論今尙舊時の無趣味なる建築物殘存せるが故に、往々世人の誤解を

招くことなきにあらずと雖、最近建築せられたる市街の家屋はその住家たり、商店たり、官衙たるに論なく、米國人民の富及び獨立心に適應し、眞の美術的國民たるを表彰するに足れり。特に歐洲の建築に比すれば無趣無味なる虚飾なし。勿論家屋の内部には裝飾を施すこと屢なれども、外部には決して無用の虚飾を加へざるなり。

現今米國に於て最も廣く行はるゝ建築法は羅馬式(Romanesque)の美術的建築法と大夏空に響ゆる層樓建築法となり。而して前者は美術的思想より生じたるものにして、後者は經濟上の必要より起りたるものなり。羅馬式の建築法は南部佛蘭西より輸入せられたるものなれども、爾來米國人は之を同化して獨得の發達を致し、建築の美觀を副ふるに至れり。されば羅馬式の新建築法は今や全國各地に採用せられ、銀行、博物館、諸會社、其他市街の建築物に於て其眞の美術的價値を認むるを得べし。次に冲天に響ゆる層樓はニューヨークの建築物その好例なり。同市の如きは一種の島にして、土地狹隘を告ぐるが故に寸尺の地と雖之を苟くもせず、成るべく高き建築をなすの必要あり。二十層三十層の家屋を建てざるべか

らず。然るに斯かる高き建物に石材のみを用ふる時は、下層の壁を法外に厚くせざるべからざるが故に、勢ひ室の廣さを狹隘ならしむるの不便ありき。茲に於てか鋼鐵を以て石材に代へ、建物の組立を鋼鐵となし、石材を以て外部を飾り、所謂鐵骨、石皮の建築法を案出し、且つ出入に便する爲め昇降機を供ふる事となり、建築術上茲に全く一新紀元を開くに至れり。而して全國到る處の商業地にも亦此種の建築大に普及したり。

近時人口急に増加し、富の程度大に昇り、且つ美術思想漸く發達し來りたるが故に、米國の建築法も亦従つて大に進歩し、公共建築物たる裁判所、大學、州會議事堂、市廳、圖書館、博物館の如きは勿論、產業會社、銀行、旅館、保險會社、株式取引所、停車場、俱樂部等に至る迄、建築頗る壯麗にして人目を惹くに足れり。ニューヨークの如きは十數個の大旅館ありて、歐洲の大旅館より一層壯大美麗を極め、シカゴ、ボストン其他の大都會にも亦之に劣らざる數個の旅館あり。

米國に於ける公共建築物が最近十年間に於て初めて急速の進歩をなすに至れることは特に注意すべき處にして、これ亦以て米國思想の大に歐洲に異るを見

るに足るべし。米國人民の功名心は自全を欲する精神より生ずるが故に、己れ先づ自ら清潔なる衣服を着け、美麗なる住宅を有せざるべからず。而して斯くの如く全國民が自らその個人的需要を満足するに至つて、茲に初めて公共の建築物を裝飾するに至るなり。されば米國にては各個人の美術的思想先づ起つて、それより都會に及ぼし、個人家屋先づ裝飾せられて、然る後公共建築物に影響を及ぼすものにして、此點に於ては全く歐洲と反對の方向を探れるものなりと云ふべし。歐洲にては先づ壯麗なる公共建築物建てられ、一般人民は之に刺戟せられて漸く住宅の改良をなすなり。道德に於ても亦之と等しく、例へば獨逸又は佛蘭西に於ては社會道德先づ興つて個人道德に影響するも、米國にては個人道德先づ起つて而して後に社會道德に反映するを常とす。されど兩者は互に相依り相助けて共に發達するものにして、個人及び社會の自全的欲望は相互の勢力によりて刺戟せられ、斯くの如くにして國民の美術的理想は漸次向上すべし。而して各種の美術も亦互に相影響し互に相刺戟して發達し、建築は繪畫及び彫刻の影響を受け、繪畫彫刻は亦建築の進歩と共に漸次發達したり。且つ新建築物の造營と

米國人民の富及び發達は常に建築術のみならず、凡ゆる他の美術の進歩を促したり。

尙右の外に、米國の美術思想を進歩せしめたる原因あり。往時米本土にては一般に美術思想幼稚にして、社會は敢て美術家を歓迎せざりしが故に、眞の美術家は去つて歐洲に行くを常としたり。然れども今日に於ては事情全く一變し、大都會には美術の鑑定者及び保護者の俱樂部あり。又建築家、畫家及び彫刻家の集團ありて、大に一般人民の美術心を刺戟しつゝあり。有名なる教師を有する美術學校と名家の美術研究室とは今や米國美術界の中心となれり。又諸大學に於ても建築の歴史的研究をなすに至れり。されば國立高等美術學校の設立を見るも最早遠きにあらざるべし。尤も獨逸の美術家が必ず伊太利に赴きてその研究をなすが如く、米國の美術家は將來に於ても、尙舊に依つて歐洲に行くならんも、今や彼等が其本國に於て充分に技術を發揮するに足るべき時機既に到來せることは疑ふべからざるなり。

社會一般の美術的教育も亦甚だ進歩せるものあり。尤も米國が美術的覺醒の時

代に入りたる時は已に世界の貴重なる美術品は殆ど他の諸國が蒐集したる後なりしを以て米國の美術館が歐洲のそれに比して大に劣る處あるは已むを得ざるなり。然れども近世の繪畫及び工業美術品の蒐集に於ては決して之に劣らざるものあり。例へばボストンの日本陶器館の如きは實に世界無比なりと稱せらる。又ニューヨークのメトロポリタン博物館の如きも大に天下に誇るに足れり。佛國の美術品は大に米國に紹介せられ居れども、獨逸の美術品は未だ然らず。これ獨逸人の大に勉むべき處なるべし。尙かの所謂宇內的摸倣の時代に於て蒐集せられたる一個人所有の美術品は甚だ多し。これ一は米國人民の富有にして、如何に高價の品をも購入することを得るが爲めなり。尤も其内には眞に價値なきものなきにあらずと雖、尙社會一般の美術思想を獎勵する點に於ては大に効果あること疑ふべからざるなり。

現今大に行はるゝ臨時展覽會は常設博物館より一層大なる効果あるが如し。又大博覽會の開催は最も強大なる刺戟を社會に與ふるに足れり。セントルイの世界大博覽會が米國の美術工藝の發達に對して大に貢獻すべきは吾人の疑はざ

る處なり。

美術思想を全國民に普及せしめんと欲せば、管に成年以上の人のみに刺戟を與ふるを以て足れりとせず。宜しく幼年時代より美術教育を施さるべからざるは明かなり。されば學校に於て繪畫其他の美術教育を授け、以て青年の審美的思想を養成せざるべからず。米國の兒童は獨逸の兒童よりも一層審美的教育を施すの必要あることは否定すべからざる事實にして、元來米國青年の遊戯は主として體育を重んずるが故に、獨逸兒童の遊戯に比すれば想像力を刺戟すること少く、且つ兒童の審美的情緒を啓發すること能はざる傾向あり。然れども一方に於て米國の學校に於ける美術教育の方法を見るに、審美的思想を發達せしむべき方法を探り、兒童をして觀察力を養成せしめ、色彩及び線の審美的價値、手藝特に美的創見の思想を鼓吹しつゝあり。されば斯かる美術教育を受けたる兒童が漸次成長するに至らば、自然界を見るにも美的觀察力を以てし、趣味なき風景をも之を變じて美的となすべく、斯くの如くにして米國の美術界が一層發達せんこと疑ふべからざるなり。



米國人民は生活の包圍特に室内裝飾の趣味を有するを以て、美術工藝品は驚くべき進歩をなせり。一般人民の需要の爲めに製造せらるる廉價の日用品の如きも亦一種の特色を有し、美術的意匠を凝らせるもの少からず。又大都會に於ける草花の流行、美麗なる公園の設置を初め、其他普通の日常生活に於ても近來米國人民が審美的能力の發達は實に顯著なりとす。

米國の富と美術教育とが人民の審美的思想を發達せしめたる外、番に美術のみならず、詩歌文學にも亦影響を與へること甚だ大なり。即ち米國人民の國民的觀念の發達にして、彼等は世界列強の伴に入れることを感得したるが故に、其充分に自己の特色を發揮するを以て使命なりと信じ、過去の歴史的關係よりも將來に對する共同の理想の爲めに、一層國民的感情を強うせんとせり。されば彼等は感情を以て自己の立脚地を固め、米國獨得の創見的工夫を凝らし、美術文學に於ても世界に恥ぢざる發展をなさんとして努力し、飽くまで其希望を高きに置き、天下を驚かすに足るべき新美術の表現を望み居るなり。彼等は新世界を代表するが如き大小説家の世に現れんと決して遠からざるべしと感ぜり。今や米國人

民の國民的感情は大に勃興し、米國經濟界の繁榮は美術獎勵の方法として甚だ有力なるのみならず、米本土に於て美術文學發展の餘地甚だ多し。且つ米國人民は美術文學の天才を保護獎勵し、又知識を世界に求めて之を同化し、以て獨得の技能を發揮し、世界の凡ゆる人種の氣質特性をも同化し、而も自國の確乎たる國民的意識を發達し、之に加ふるに不撓不屈の精神とビョリタン主義の道徳と米國人獨得の諧謔とを以てするが故に、將來米國人民が美術文學の方面に於て偉大なる成功を遂げんことは決して疑を容れざる處なり。

## 第七章 宗 教

抑、個人的人生觀と宗教的世界觀とは互に因果の關係をなして影響するものにして、個人が現世の生活を以て單に將來天國に於ける靈的生活の準備なりと考ふる時は、益、自己の個人的人格の向上を盡すに至るべし。されば俗界に於ける概

念文明及び政權の如きは、到底天國の關門に入るべきものにあらずして、未來永遠の救拯を得んと欲せば、必ず個人的靈魂を完全にするの外あらずとの感情自から起るべし。尤も一層強く個人主義及び自修的精神を抱持する人は、死する間際の短き懺悔のみを以て人生の全き意義となさず、自修的希望は單に天國を指示するものたるに過ぎずとなすべし。然る時は宗教は多少其意義を狭うするの傾あるべし。然れども個人主義的國民は尙必ず宗教的にして、米國人民の如きは最も深き意味に於て宗教的人民にして、此點に於てはピューリタン教徒が新大陸に上陸したる以來今日に至るまで毫も變化せざるなり。

尤も神に對するに畏敬を以てすべきか、或は歡喜を以てすべきか、神を自するに復讐心あるものとすべきか、或は慈悲心あるものとすべきか、人性を以て悪なりとすべきか、善なりとすべきか等の問題は、個人主義を以て解決し得べきにあらず。十八世紀に於ける米國の大思想家ジ・ナサン・エドワーズ(Jonathan Edwards)とベンジミン・フランクリン(Benjamin Franklin)とは此點に於て全く兩極端の說を取れるものにして、米國初代の人々は前者の見解に賛成し、現今に於ては後者の說に

左袒するに至れり。

現今の米國人民は實際宗教的人民なりやと問はゞ、歐洲人民は然らずと答ふべし。特に米國政府が教會と全く關係せざる點を以て、米國人民の宗教心を否定すべし。米國聯邦の憲法第六條に於ては、合衆國の官職或は政治上の名譽職は宗教と關係することを禁ぜり。且つ憲法補則第一條に於て、國會は國教を立て或は宗教の自由を妨ぐるが如き目的を有する法律を通過すべからざることを規定せり。而して各州の憲法も亦之に倣ひ、殆ど同様の規定を設けたり。されば米國に於ては政教全く分離し、教會が州又は聯邦の保護を受くる事なし。加之僧侶となるものも國定の試験を受くるが如き事なし。又全く教會に屬せざる人民も其數敢て尠しとせず。公立學校に於ては宗教教育をなさざるなり。斯くの如くなるが故に、一見米國人民は全く宗教に冷淡なるが如く、歐洲の滑稽家は米國人民の崇拜する唯一の全知全能の神は金錢なりと云ふに至れり。然れども吾人若し一層深く洞察せば、以上の如きは全く誤謬の見なることを知るべし。勿論政府は宗教と全く關係なしと雖、上述の憲法の規定は宗教に對して冷淡無頓着なれと勸むる

規定にはあらず。元來聯邦を組織せる各州は皆大に宗教的なりき。宗教上の自由を得んが爲めに、新大陸に來れる新教徒及び舊教徒は共に米國に於ては歐洲に於けるが如き迫害を受くることなく、信仰の自由を享有せざるべからざること告白したり。且つ歐洲より來れる各宗派は皆米國に於て相當の信者を求むることを得たり。されば或る州の如きは殆ど神政的傾向を有するものなきにあらざりき。ニューイングランド地方は素より、ヴァージニア植民地の如きも亦教會は其全權を掌握し、當時の法律に於ては二回教會を脱したるものは笞刑に處し、三回に及べば死刑に處せられたり。斯くの如く各植民地は宗教を以て社會統整の方法となし、宗教上の利害を以て主となせり。英國の羈絆を脱せる頃に至るも、尙各州は各、宗教的特色を有し居たりしなり。

ゼン・フアン氏が憲法上政教分離を提言せるは宗教上の衝突を避けんが爲めに、して、宗教に冷淡なるべしと云ふにはあらずしなり。今若しピューリタン派、クエーカー派、ハイチヤー派、カソリック派等の如く、各異なる信條を有するものあるに當り、或る宗派を國教となさば、他の宗派は孰れも皆其下風に立たざるべからざる

ことゝなるべく、即ち宗教に對する一種の壓迫なりと感ぜらるべし。されば政教の分離は單に各宗派の自由を計るに外ならざりしなり。且つ總ての州皆全く聯邦の規定に従へるにはあらずしなり。例へばニューイングランド諸州の如きは十九世紀の初め迄は課税に於て特にカルヴァン教を保護したり。マサチューセツ州が全く宗教の獨立を認めたるは實に一八三三年なりとす。尤も南部諸州に於ては政教の分離甚だ容易なりき。又中部諸州の如きは既に植民地時代より一般に宗教の自由ありき。

宗教の自由全く樹立せらるゝや、僧侶等は之を以て宗教の利害關係が最も圓滿に保護せらるゝを見て大に喜べり。されば現今に於ては宗教上の禮拜を破り、或は神に對して不敬の事をなすが如き場合、及び教會に於ける結婚を承認する場合の外は政府は、教會と何等の關係なし。尤も尙舊習の遺物として、大統領が毎年の感謝祀日 (Thanksgiving Day) 及び國家にとりて由々しき大事件の起れる時、斷食及び祈禱の日を指定するが如き、或は議會が其開會の前には必ず祈禱をなすが如き宗教上の儀式ありと雖、それ以外に於ては政教全く分離し、現今の制度を變

更せんと欲するが如きものは一人も之あらざるなり。されば政黨も宗派も州も政權と教權とを結合せんと欲するものは決して之なし。今若し或る教會が地方の選舉競争に於て、或る政黨を援護し、或は教會の學校病院の爲めに公金を受けんが爲め、政治上の勢力を得んとするが如き事あらんか、輿論は直ちに之に反對すべし。

されば教會は恰も一種の私立會社の如く、各人皆孰れの教會に屬せざるべからずと云ふが如き必要なく、教會も亦自己の隨意に役員を任命し、教會の財産又は教務上の問題を整理することを得べく、論争起る時は恰も産業會社に於けると等しく民法によつて決せらるべし。各教會間の競争は何等之を妨ぐるものなく、個人と其教會との關係は普通の契約關係にして、現今米國に於ける百四十八個の宗派は各、皆人民の意嚮を迎へつゝあり。斯くの如くなるが故に、歐洲人民は米國の教會を以て神聖を瀆し、恰も株式會社と等しく俗化せるものとなすべし。而も米國に於ける舊教の僧正も、オーストリアス教會の牧師も、決して之を變更せんとは欲せざるなり。而してこれ實に米國人民の個人主義が常に自治の精神に依

つて指導せらるゝが故なり。何人も孰れの教會に入らざるべからずとの制限を有せず。故に若し自ら或る教會に入る時は、喜んで能く其規定を守り、其規定に従つて寄附金をなし、以て教會の費用を償ふと雖、而も教會の爲めに公税を拂ふものなく、自己の認めざる教權の下に服するものなし。されば教會は個人の自由に干渉するが如き疑を蒙ることなく、個人も亦宗教を採用するも排斥するも隨意なるのみならず、宗教の信條その他に對して私見を吐露するも亦自由なり。斯く教會が人民の思想良心に對して何等の權威を振はざる處にありては、教會は全く自治の精神によつて保持せらるゝを得べし。斯くの如くなるが故に、メソヂスト教會は十二派に分れ、バプチスト教會は十三派に分れ、メソヂスト教會は十七派に分れて發達し、而も各派皆等しく承認せられ保護せらるゝなり。加之教會が政府の幫助によつて成功を博したりと云ふが如き非難は決してこれなく、教會の事は全く教會を自身自身の力によつてなされたるものなりとせらるゝが故に、教會の成功發展は純粹にして、些少と雖不正の行爲を混へず、教會の全活動は政治界の紛争より全く分離し、以て宗教的理想の爲めに全力を盡すことを得るな

り。  
 されば教會が國家の法律によつて何等の扶助をも受けざる時は、教會は其信徒の宗教的理想及び社會の不文法に依頼せざるべからず。而して國家の保護少き時は、社會は益、自個の責任を重んずべく、宗教が國家の法律によつて保護せらるる間は、社會は宗教に對して冷淡無頓着なるべきも、社會が一度宗教に對して責任ある事を感じずる時は、宗教に對して大に盡力するに至るべし。斯くの如くなるが故に宗教が國權より獨立して一般社會の務とせられたるは、教會に取りては無上の幸福なりと云ふべく、これ即ち政府の保護よりも一層強大なる社會的義務なるもの發達するに至るべし。勿論人民に確乎たる宗教的意識なくんば、宗教に對する社會的義務は發達せざるべしと雖、米國の如く社會上最も宗教に都合よき處に於ては、斯かる個人的信仰心は大に確乎たる根柢を把持するを得たるなり。されば宗教的米國人民が教會の保護を以て政治的義務となさずして社會的義務となせるは、教會の成功發展上最も適切なる方法なること疑ふべからざるなり。

平民主義なるものは神の目より見て最も自然なるべし。然るに平民主義の米國に於て社會的差別ある處と云へば宗教界なるべし。これ各教會間に於ては勿論、各宗派間に於ても亦然り。例へばメソヂスト派とエビスコペリアン派或はバプチスト派とユニテリアン派とは全く異なる社會團體をなし、且つ甲の宗派は甲地方に於て優勢にして、乙の宗派は又乙の地方に於て優勢なり。加之大都會の教會に附屬する信者の負擔は非常に不平等にして、斯かる處にては一週中日曜日、に於て富者と貧者とは最も區別せらるゝなり。而も斯く宗教上の差別が社會上の差別と特に密接の關係あるが故に、宗派間の關係は全く相調和し、軋轢絶えてなく、各宗派各自然の勢力範圍を有せり。加之各宗派の信仰個條の差異の如きも非常に微小にして、殆ど其差を認め難きもの少からず。大政黨が互に相對立する場合には、政見の衝突紛争起るべきも、斯く宗派間の信仰個條の差別甚だ小なる時は、衝突するが如き餘地殆どなし。されば教會が眞の敵とする所のものは、各教會の共敵たる無神論者あるのみ。且つ米國人民は樂天的性質を有し、他人の成功を妬むが如き事なきが故に、各教會をして互によく平和に和合せしむるに與つ

て力あり。されば教會はよく人民の意に適ひ、家庭に於ても宗教的禮拜行はれ、牧師は尊重せられ、教會の利害はよく保護せらるゝなり。元來米國人民は幼少の時より聖書を學んで成長するものと云ふべく、教會と日曜學校と家庭とは、互に影響を及ぼして宗教心を喚起し、眞の信仰心は如何なる山間僻邑の農家をも支配しつゝあり。而も之を以て偽信偽行となすが如きは米國人民の眞相を知らざるもの、言なるのみ。勿論都會に住する職工の如きは多くは聖書を知らず、又知らんともせざるべしと雖、之を以て偽信偽行の徒となすべからず。特に田舎地方の人民は非常に宗教心に富めり。されば祝節饗宴其他の會合に於ては、開會にも閉會にも必ず祈禱をなすを常とす。宗教上の議論と云へば、各階級の人々皆最も熱心に之を論じ、特に田舎地方に於て談話の二大題目と云へば、職業談及び宗教談にして、政治談之に次ぐ有様なり。斯くの如くなるが故に、宗教に關する新聞雜誌の數は九百種に上りて、數百萬部の發行高を有する有様なり。

法教師が非常に尊重せらるゝは明かなる事實にして、特に東部諸州に於ては大説教者は民心に最も大なる感化力を與へつゝあり。最近數十年間に於て最も有

名なる人はフィリップスブルックス氏 (Phillips Brooks) にして、氏の説教と人格とが民心を向上せしめたるは何人も皆認むる所にして、數年前氏歿するや、全國人民は大統領リンコン氏の歿せる時以來未だ曾てあらざる哀悼の意を表したりと云ふ。尤も氏と比肩すべき大人格者は其後現はれざりしも、其他新教の教師にも舊教の僧侶にも、民心に道德的感化を與へたる人は甚だ多し。斯く法教師、僧侶は政治以外の方面に於ては大に尊重せらるゝも、彼等が若し政治に容嘴するが如きことあれば直ちに侮蔑せらるゝなり。但し政治と道德とに聯關せる問題、例へば禁酒問題の如き場合には、彼等も亦之に與ることを得るものとして歓迎せらるゝなり。又僧侶となるものが往々上流社會の人物なるによつて見るも、僧侶の地位高きことを證するに足れり。尤も米國人民は成るべく社會的階級を廢せんことを勉めつゝあるが故に、茲に其事情を明かにすることは甚だ困難なりと雖、牧職に就く人特にエピスコペリアン、プレスビテリアン、コングレゲーショナル、ユニテリアン等の教會の牧師たらんとて學問する人々は、學校教員又は醫師とならんとする人々よりも、上流社會の人々に多きことは事實なるが如し。

次に僧侶の説教振如何を見るに、歐洲の説教者には見るを得べからざる一種の特色あり。勿論米國の十九萬四千の教會に於ける僧侶の説教を唯一個の法則に約するは不可能なるべきも、尙歐洲人が特に感ずる所の一特色あり。米國の僧侶が比喩引證を普通俗界の生活状態より捉へ來り、以て民心を感化せしむること即ち是なり。尤も例證比喩往々にして平凡云ふに足らざるものあり、而も説教に俗語を用ふることにすらありと雖、而も尙言々句々力ありて能く人心を刺激するに足れり。且つ説教の題目は成るべく聽衆一般に關係あることにて、特に興味を引くべきものを選び、而もよく之を聖書の語句と結合せしむるなり。されば説教者生活と全く因縁なき事柄は成るべく避くと雖、これ決して宗教の神聖を覆すものにあらずして、實は眞の人生の向上を促さんとするものなり。斯くの如くなるが故に、教會はよく人心に投合し、人民も亦能く教會に出席し、教會の爲めに盡すなり。尤も教會が斯く人望あり人氣ある所以のものは、單に説教の通俗的なるが爲めのみにはあらずして、米國の教會には宗教とは全く關係なきことをもなして、人心を誘はんとする種々の方法あるが爲めなり。勿論斯かる方法は人民を

して成るべく、教會に出席せしめんとするを以て直接の目的とすべきも、尙教會の道徳的事業を扶助するに與つて力あるものなり。例へば單に音楽を聴かんが爲めに教會に行くものありとするも、行けば必ず説教を聞かざるべからざるべし。又宗教に關係なきその事業のみを目的として教會に加入するものも、彼等は尙少くとも無益なる不正の快樂に耽ることを避くるの利益あるべし。斯く米國の教會には獨逸の教會に全くその例なき俱樂部の如き集會室の設ありて社會的中心となるに至れり。尤も地方により社會的誘引物の方法異なるは勿論にして、田舎の教會にては福引き、遊戯、其他茶菓等を備へ、人民相集りて愉快に遊ぶこととし、大都會の教會にては其誘引の方法も美的にして、例へば集會室は美麗なる毛氈窓飾りを以て飾りて、都雅高尚なる音楽を奏し、或は慈善市を開くが如きことをなすなり。

教會は常に教會堂内に於て社會的娛樂の中心たるのみならず、其他凡ゆる交際の媒介者にして、小都會及び村落に於て特に然りとす。中等社會の人が同市中の他の町又は他の村落に轉居すれば、轉居先の人々と交際を結ばんが爲めに教會

に加入するを常とす。且つ米國の宗教的方面に於ては社會的方面に於けると等しく、女子が家族の中心となれるが故に特に然りとす。基督教青年會其他教會の庇護の下にある之に類せる團體の如きも亦社會的活動の中心となり、非常なる感化力を及ぼすものにして、獨逸に於ては之に類する團體は今や殆ど何等の重きを以て見られざるなり。又教會堂にて結婚式を行ふ風習大に盛なるを見ても教會が如何に社會に大なる勢力あるかを知るに足るべし。又公然無神論者たるを標榜する人の如きは、社會的集會には決して招待せられざるなり。又政治家は自己の屬せざる教會の會員よりは援助を受くること能はざるが如き心配なしと雖、無神論を主張するが如き政治家は到底如何なる官職にも選舉せらるゝこと能はざるべし。されば米國にて何等の信仰をも有せず、意志と道德との關係を認めざるが如き人は、模範的米國人の眼より見れば、劣等なる風變りの人と認められ、且つ米國人は斯かる人に人生としての意義なるものありや否やを疑はざるを得ざるなり。元來米國の歴史はピョリタンがメィフロワト號より新大陸に上陸したる植民地時代より、露國の猶太人衣び土耳其のアルメニア人等が大西

洋を越えて米國に移住しつゝある今日に至る迄、宗教上の迫害を免れんが爲めに新大陸に來れる人々の子孫及び郷國たる歐洲を以て宗教的迫害の地となせる人々の子孫の歴史なり。且つ米國人民が奮闘努力によつて新大陸を開拓し、以て鞏固なる義務責任の念を強うし、眞面目なる人生の觀念を喚起し、不正の享樂を避けたるのみならず、米國の教育的感化力が常に神に對する信仰を強めつゝあるを思はゞ、吾人は米國人民の宗教的觀念を單に議論によつて打破せんとするも、到底何等の効なきことを思はざるべからず。勿論不信者の數漸次に増加すとは到る處に聞く所の嘆聲なり。而して大都會に住む日傭労働者の如き賤民は、殆ど孰れの教會にも屬せざるは事實にして、現今教會に加入せざる人民の數は約五百萬人ありと稱せらる。然れども此内には怠懶の爲め教會に行かざる無頓着の人々甚だ多く、眞に宗教に敵意を挾める無神論者は極めて稀なることを思はざるべからず。米國にては若し自己の屬する教會が自己の信仰に副はざるに至れば、多くの宗派中より最も適當なるものを見出すこと極めて容易なり。されば斯かる場合には直ちに去つて他の教會に加入



すべし。又其妻子のみ教會に出席せしめ、或は全家族を率ひて教會より脱することありと雖、これ多くは牧師の説教を聴かず教會に出席せずとも、尙神に仕ふることを得となすが故なり。又科學の發達は無神論を誘出すべしと疑ふものありむも、實は決してさることなく、單に宗教を一層自由に解釋するに止まり、宗教を全く打破するが如きことは絶えてあらざるなり。而して現今教會の獨斷的教義を去り教會の知識を高めんとする此傾向は、特に上流社會に於て盛なり。例へばユニテリアン教會がカルヴン派の正統主義より分離して大に發達せるが如きは、國民の知的活動に最も偉大なる影響を與へたるものにして、而も之が爲めに國民の根本的宗教心を弱めたるが如きことは決して之あらざるなり。教會に忠實なるべしと云ふは、單に教會の儀式教律に服従するのみならず、教會に金錢を寄附し、且つ教會の爲めに種々の助力を與ふることを云ふなり。元來政府は教會の爲めに人民に租税を課せざるが故に、教會の物質的扶助は全く信者の喜捨に依らざるべからず。米國人民は教會に寄附をなすのみならず、教會の爲めには凡ゆる助力をなすも厭はざるなり。例へば現今日曜學校に出席する兒童

の數は約八百萬人にして、その教師は無報酬にて喜んで教授しつゝあり。米國の凡ての教會に屬する財産額は約七萬億弗と稱せらる。且つ教會の席料よりも亦巨額の收入あり。加之教會の財産は全く免稅せらるゝなり。然れども教會の費用は到底之のみにては足らざるが故に、慈善箱、寄附金、及び遺言贈與等の方法を以て多額の金錢を募集しつゝあり。然れども教會は徒に無用の金錢を募集して不正の富を得んとするものにはあらず。又大都會に於ける無宗教の人民及び外國の異教徒に對する傳道費、教會堂の建築費、宗派に屬する學校及び病院費、及び牧師の俸給等は皆教會の信者の負擔せざるべからざる所のものなり。神學校は形式上大學に附屬するものも然らざるものも共に教會の學校にして、現今その數百五十四あり。一八七〇年には僅に八十校なりしも、一八八〇年には百四十二校となり、一八九〇年には百四十五校となれり。現今百五十四校中、百人以上の學生を有するものは僅に二十一校にして、十人以下の學生を有するもの實に十二校あり。學生總數八千九百人、教師總數九千九百九十四人、而してその財産總額は三千四百萬弗なり。

教會の教育事業は、兒童を教ふる日曜學校及び牧師養成の神學校のみに止らず。教會は全く此二種の學校を獨占する外、一般の教育事業に於ても、下は初等學校より上は大學に至るまで、教會に關係なき凡ての學校と競争し、其足らざる處を補へり。曩に述べたるが如く、米國にては公立學校の不足を私立學校によつて補充することは、其教育界の一大特色にして、教會によつて建設せられたる高等小學校、中學校、カレッジ、大學等甚だ多し。尤も是等の私立學校と宗教其物との關係は密なるあり粗なるありて齊しからず。例へば中學校とカレッジとを併有せる舊敎の學校たるホストンカレッジはその教育方法非常に宗派的なり。然るに之に反してバプチスト派の建設せるシカゴ大學は、バプチスト派の學校と云ふも單に名義のみにして、バプチスト派の人にあらざれば教授に任命すべからずと云ふが如きことなく、バプチスト派に關する講義をなすことも亦之なく、その學生もバプチスト派の學校たるを自覺せざる程なり。唯この大學の建設者がバプチスト派の人なりしを以て、總長及び理事會員の三分の二は必ずバプチスト派の人より擧ぐべしとなせるのみ。

大規模の大學中、ハーヴァード、コロンビア、ジョンズホプキンス、プリンストン、コーネル等は全然何れの宗派にも關係なし。尤もエール大學の如きはコングレゲーショナル派に屬すと稱せらるゝも、同大學の教師及び學生等は斯かることには一向頓着せざるなり。但し小規模のカレッジ中には眞に宗派的特色を帶ぶるものあり。特に中部及び西部諸州に於て然りとす。且つ宗派に關係せるカレッジの數は却つて宗教に關係なきカレッジよりも多し。例へばミシガン州に於てはアンアノアに在る大學は全く宗派と關係なきも、アドリアンカレッジ(Adrian)はメンチスト派アルビオンカレッジ(Albion)はエビスコピアン派、アルマカレッジ(Alma)はプレスビテリアン派、デトロイトカレッジ(Detroit)はカトリック派、ホルデルカレッジ(Hilledale)はバプチスト派、ホープカレッジ(Hope)はレフォーマド派(Relormed)、ケリヤットカレッジ(Olivet)はコングレゲーショナル派に屬せり。而して斯くの如く宗派的の學校は特に田舎地方に多し。尤も實際に於ては宗教教育の色彩を帶ぶること甚だしく、全く宗教的教育を施さざるものすらありと雖、尙斯かる趨勢にあるを以て見れば、宗教が如何に深く全國民に普及せるかを知るに足るべし。

米國の各宗教宗派に就て一々詳論するは吾人の目的にあらざるが故に、茲には唯その梗概を説くに止むべし。元來米國には眞の新宗教なるもの曾つて起らざりき。勿論二三の狂信者の新宗教を唱へて傳道せるものなきにあらざりしも、到底世に大なる影響を興ふること能はざりき。米國人民は最新の改良改革を採用するに吝ならざるも、敢て革命をなさんことを欲せざる國民なり。尤もモルモン(Mormon)、スピリチュアリスト(Spiritualist)、クリスチャンサイエンス(Christian Science)の如きは全く米國の土地に生じたる宗派にして、世人の好奇心を刺激しつゝあり雖、而も現代文明の進歩に貢獻しつゝある他の宗派に比すれば、何等重要なるものにあらずるなり。

米國に於て信者の數最も多きは、メソヂスト、バプチスト、及びローマン・カトリックの三派なり。尤も文化上最も大なる勢力を有するものは、コングレゲーショナル、エビスコペリアン、プレスビテリアン、及びユニテリアンの四派なりとす。その他ルーテル(Luther)、レフォームド、及び猶太教會あり。上述以外の宗派は信者も少く、勢力も亦振はざるもの多し。又地方により勢力を異にするものあり。例へばニュー・イン

グランド諸州に於てはコングレゲーショナル派及びユニテリアン派最も勢力あり。ニュー・ヨーク州及びペンシルヴェニア州に於てはエビスコペリアン派及びプレスビテリアン派、南部に於てはメソヂスト派、中西部諸州に於てはバプチスト派、東部諸州に於てはカトリック派、各勢力あり。斯かる區別は主として來住せる人種の住居地と其教會との關係より生じたるものにして、例へばエビスコペリアン派及びコングレゲーショナル派は英蘭人に屬し、プレスビテリアン派は蘇格蘭人、カトリック派は愛蘭人及び南部獨逸人、ルーテル派は北部獨逸人及びスカンディナヴィア人、レフォームド派は獨逸人及び和蘭人に屬し、メソヂスト派は黒奴間に廣がれるが如き是なり。且つ之と聯關して社會的階級にも區別あり。例へばメソヂスト、バプチスト、及びカトリック教は主として下級人民の宗教なり。且つ是等下級人民の屬する宗教は、數多の宗派に分裂せんとする傾向甚だ盛なり。尤もカトリック教のみは、歐洲に於けると等しく、米國に於ても能く統一を保てり。

ピューリタン教徒がニュー・イングランドに携へ來れるカルヴァン教義は、今尚コングレゲーショナル派中に殘存せり。而してコングレゲーショナル派の信者は約二百

萬人ありて、米國の文明に至大の影響を與へ、同教會の精神は眞面目なる道德思想と強大なる義務の觀念とを全國民に普及せしめ、初めて學校を建て、且つ米國の獨立の爲めに大に與つて力ありき。ユニテリアン教は樂天的精神を有し、其會員の數は僅に二十五萬人に過ぎざれども、文學、科學、哲學、及び人生の各方面に於て非常なる感化力を全國民に與へたり。されば信者の數如何は敢て重視するに足らざるなり。且つユニテリアン教は教義に束縛せられず、常に神に對する信仰を發展せしめんとして研究進歩を歓迎し、道德的、理想的、宇宙觀の統一の中に個人的思想の差別的特色を求めんとしたり。さればハーヴァード大學の神學科が、一八二〇年代、既にコングレグーションナル教義よりユニテリアン教義に移り、近年に至つては又變じて全く宗派的差別を棄て、廣く基督教主義を執り、其教授も亦諸宗派の神學者を任命するに至れるは當然の事と云はざるべからず。ユニテリアン教の人生觀によれば、人性は惡にあらず、人は神の現像なるが故に其性善なり、吾人の靈が天國に入ると入らざるとは、神が豫定せる定業宿命にあらずして、吾人の行爲如何によるのみと云ふにあり。斯く道德的樂觀主義を樹て、急進的態

度を取るが故に、深き信仰心を有する人には満足を與ふるに足らず、従うて之を告白する人の數は未だ多からずと雖、上流社會の教會に於ては、ユニテリアン主義の思想は到る處として行はれざるはなし。  
 エピスコペリアン教は所謂英國新教にして、カルヴァン教より一層早く米國に渡來したり。現今之に屬する人民約二百萬人あり。プレズビテリアン教も亦十七世紀に渡來せるものにして、一定の教會組織となすに至れるは十八世紀の初葉なりき。現今之に屬する信徒約四百萬人と稱せらる。メソヂスト教は一七六六年頃より漸く盛となり、特に南部の黒奴間に盛にして、無數の支派に分れ、主なる支派のみにても十七あり。その信徒一千六百萬人以上を有す。バプチスト教は十二三の支派に分る。而もこの教會の各支派に共通の特徴は、幻兒の洗禮を否認し、自ら基督を確認するを得る年齢に達せざれば洗禮を施さざることなり。而してこの教會に屬するもの約千二百萬人ありと稱せらる。ルーテル教は一六二三年、和蘭人が初めて新大陸に持來れるものにして、今や十六派に分れ、四百萬人の信徒を有し、その内の一はペンシルヴェニア州の人民なりとす。メノナイト派も亦新教の

一派にして、バプチスト派と等しく幼兒の洗禮を否認す。一六八八年初めて米國の奴隸制度に反對したるは此派にして、現今に於てメソヂスト派の信徒の大部分は米國にありと稱せらる。但しその數は僅に十五萬人に過ぎず。クヱーカー宗は十七世紀の中葉、英人ジョン・フォクス氏 (John Fox) の創設せし處にして、一六五六年頃既に米國に擴がり、現今其信徒は約四十萬人あり、主としてインディアナ、オハイオ及びペンシルヴァニアの人民に多し。クヱーカー宗は緘黙を重んじ、教會に集合する場合に於ても先づ長く緘黙を守り、以て神靈と交通し、神意の靈感を受くるなり。此教會の信者にして、若し基督の神格及び聖書之神原説を否認し、或は軍隊に加入し、或は戰爭を奨励し、或は酒精販賣をなし、或は飲酒或は神威を瀆し、或は賭物をなし、或は富籤に加はり、或は法廷に於て宣誓をなし、或は他人に誓言を要求する等、何れか其一を犯す時は即ち破門せらるゝなり。クヱーカー宗の信徒は黒色又は灰色の衣服を着け、性質温良謙遜なるを以て知らる。ローマン・カトリック教は歐洲に於けると殆ど異なる處なし。此教會が十九世紀中に急に増大したるは、これ愛蘭人、南部獨逸人、波蘭人、匈牙利人、伊太利人、西班牙人が多く來住したるが爲めなり。

且つ、新世界に初めて基督教の牧師を送れるものは實にこのカトリック教會にして、一五二八年、西班牙の遠征隊と共に來れるものなりき。一八〇〇年には信者僅に十五萬人なりしが、一八四〇年には約十倍となり、現今に於ては實に一千萬人なり、一人の管長と十六人の大僧正とを有せり。次に猶太教徒は一六五四年、ブラジルより來れるを以て嚆矢とせるが、近年東部歐洲の猶太人多く來住したるが爲め急に其數を増加し、現今に於ては約百萬人に及びたり。彼等の最も多きはニューヨーク市にして、その大部分は露國より來れるものなり。而して彼等は貧しき生活をなし、米國化せらるゝこと甚だ稀なり。

尙右の外種々の教會あれども、一々枚擧するの要あらざるべし。唯此には米國にて新に起れる宗派、例へばアドヴェンチスト (Adventist)、モルモン、スピリチュアリスト、及びクリスチャン・サイエンスに就て少く述ぶる所あるべし。尤も是等の新宗教は創設者の捏造に成るもの甚だ多く、他の基督教徒等は創設者の不正直を非難しつゝあり。アドヴェンチスト派はマサチューセッツ州の人ウィリアム・ミルラー (William Miller) の創設せる所にして、一八三一年、氏は基督が一八四三年に再來すべき事

を主張せり。然るに此豫言は民心を刺激し、多くの信者を得たり。然るに一八四三年に至るも基督の再來せざりしを以て再び計算を改め、再來の時日を豫言したるも亦當らざりき。然れどもその信者は尙解散せず、早晚基督は再來すべしとて自ら慰めつゝあり。現今之に屬する信者約二十萬人あり、特にミシガン州に多しとす。

モルモン宗は一八二三年、ジョゼフ・スミス(Joseph Smith)の創説せるものにして、彼年甫めて十八、夢に宗教的使命を授けられ、後四年夢中に或る者の扶助を受けて所謂モルモン經(Book of Mormon)なるものを發見したりと稱せらる。此經、典は金屬盤より成り、埃及文字を以て米國史を記載しあるものなりと。其云ふ處によれば、最初の米國植民地を組織したる人種は、バベルの塔の建築に與りたる人民と同一の人種にして、又紀元前六〇〇年南亞米利加に住したる人民と同一人種なりき。米國のインディアン人は此人種の子孫なり。又基督は一時米國に來れることありと。尙此宗の云ふ處によれば、天使降つてスミス及びその友人を僧侶に任命したりとなし、茲に教會を組織するに至れり。此奇蹟談は忽ち世間に擴がり、傳道師も

亦四方に派遣せられ諸州に於てモルモン教會の起れるを見るに至れり。一八四三年に至り、スミスは又一の靈感を受けたりと稱し、天國の結婚 (Heavenly marriage) 即ち多妻主義を宣言せり。然るに翌年スミスは暗殺せられたり。其繼承者ヤング (Brigham Young) はモルモン宗に對する非難反對の聲漸く盛なるを見、信者の一隊を率ひて、當時に於ては殆ど通行し能はずと思惟せられたる西部ユータ州に大膽なる旅行をなし、以て大鹽湖に到り此に住居したり。其後此小植民地は漸く増加し、宗教的政治の下に非常なる經濟的發達を致し、遂に大都會となり、今日横斷鐵道線路に當れるソルト・レーク・シティの住民中、其半分はモルモン教徒なり。彼等が茫漠たる草原を開拓して文明を此地に樹立したる紀念として、米國第一の大教會堂たる所謂モルモン殿 (Mormon Temple) は此地に建てり。而して此殿堂はヤングが幻想中に見たる設計に従ひ、四十年間の歲月を費してモルモン信徒の建築せるものなり。元來モルモン宗が多妻主義を宣言せるは、未婚の女子は天國に入るに能はずとの宗教的信仰より來るものにして、決して不道德なる動機より來れるものにはあらざりしも、米國人民の嚴格なる道德心は、常にモルモン教

徒を以て累を醸すものとなせり。而もモルモン宗のこの悪弊を一掃せんことは容易のことにはあらざりしなり。一八八〇年代の初めに至り、漸く反對の聲喧しく、聯邦政府は遂に特別法律を通過し、數千のモルモン教徒を獄に投じ、數百萬弗の罰金を彼等教徒に科したり。然るにモルモン教徒も亦凡ゆる正當の方法を盡して之に反抗せるも、遂に大審院の判決によりて斥けられたり。一八八九年に至り、モルモン教徒の首領ウードラフ氏(Woodruff)は將來新に多妻的結婚を行ふべからざるを宣言せり。尤も其以前に行はれたるものは尙効力を有せり。而も多妻約結婚をなせる家族生活の實況を見るに、尙平靜幸福なる家庭なるが故に、外人等は餘り不快の感を起さざるなり。モルモン宗は斯くユータ州を中心として盛となり、夫れよりアイダホ及び其他の西部諸州に擴がり、現今は約五十萬人の信徒を有す。

モルモン宗の外にも尙結婚に關して特殊の規定を設くる宗教あり。十八世紀の末葉、クエーカー宗より分離せるセーカー教(Shaker)の如きは其一にして、獨身生活を主義とし、共產主義の生活を營めり。この教にては神も人の靈も共に男女兩性

ありと云ふにあり。而して男性は基督によつて表され、女性はセーカー教の首唱者たる英國のアーインリー女史(Anne Lee)によつて示されたりとなせり。而も米國の下級人民は此病的宗教の教義を信するもの少からず。元來斯かる神秘的病的宗教が人民を刺激するは如何なる理由に基くものなりやは容易に知るべからざるも、斯かる宗教が歡迎せらるゝ地方の一般下級人民等は、少くとも近年に至るまでは何等の慰樂物なく、無趣味なる生活をなし、娛樂祭禮、演劇、音樂等の刺激物なく、過激なる勞働生活をなし、嚴格なる道徳に従ひ、飲酒を以て罪惡なりと考へ居たりしなり。されば宗教が唯一の知的刺激物とせらるゝ處にありては、宗教が無味單調なる人民に唯一の興奮劑となり、是等人民等は病的迷信に陥るまで宗教に酔へるものと云ふべし。斯くの如くなるが故に、米國には神秘主義容易に其勢力を逞うするなり。一八四八年に起れるスピリチュアリスト派の如きは其好例にして、ニューヨーク州の一村落に位せるフォックス家(Fox)に一日亡友の靈魂來りて門を叩き、殆ど活ける人間の如く種々の交通をなせりと稱せられ、茲に此宗派生じたり。此派特徴とする處は死後の生活たるものありとし、之を證明せんと



するにあり而して斯くの如き神祕的現象に基く教義に於ては、亦他の説明すべからざる現象を捉へ來ること屢なるが故に、益、深く神祕主義に陥るべし。現今スピリチュアリスト派の教會に屬する信者は僅に五萬人に過ぎずと雖、この派に屬せざるものにては、此派の信者と同様の神祕主義を懐くものは、其數甚だ多かるべし。今若し此派の主義を廣義に解し、あらゆる心意の交通、神祕的靈感等をも含むとせば、教百萬の信者ありと云ふも不可なし。且つ神祕主義を以て直ちに詐偽となし、又は自然法に反するものとはなすべからず、精神界に於ては尙種々不可思議なる現象ありて、將來大に研究すべき餘地甚だ多く、神祕主義に陥れる人民は研究の好材料となり、智的研究を助け、以て從來到底説明すべからずと思惟せられたる現象をも解釋し得るの弊を聞くに至るべし。

クリスチャンサイエンス派は、ジー・エドデー女史(Mary Baker G. Eddy)の創設せし處にして、一八六七年、女史大病に罹るや、以爲らく、總て病なるものは精神の迷想到過ぎざるべく、精神の迷妄をだに去らば健康恢復すべしと。而して女史病癒ゆるや、心理的治療法を聖書の中に求め、此に醫藥を用ひずして治療すべき一種の心理

療法なるものを發見し、一八七五年、科學と健康(Science and Health)なる一書を出版したり。同教會は全國到る處に信徒を有し、壯麗なる教會堂を建設せるものあり。其特色とする處は、心理的治療を行ふにありて、現今此治療法教授所約三十箇所あり。米國の中等社會に於ては、高等なる醫術の効果を一般に信せざるの風なるが故に、此宗教は一層其勢力を擴むるの便あり。且つ心理的治療によつて往々驚くべき快癒をなすことあるが故に、益、其勢力を強うするなり。元來信仰の治療的効果は決して此派の新發見にあらず、神經的諸病に於て心理的治療法は最も重要なものなり。且つ疾病に罹れるものは、神經に異狀を起さざるは殆ど之なきを以て、此派の心理的治療者等は普通の病人の腦力にては打破し能はざるが如き療法を以て、病者の精神に一種の信念を與へ、以て治療をなさんとするなり。尤も斯く此派は心理的治療をなすと雖、尙これ人民の神祕的宗教的性能を利用せるものなること明かにして、斯く種々の宗教流行するによつて見れば、如何に米國人民が宗教心に富めるかを察するに足らん。

然れども米國の宗教を以て神祕主義なりとするが如きは、大なる謬見なるのみ

ならず。米國人民の宗教的活動を以て、米國人民の保守的信仰のみに歸するも亦誤れりと云はざるべからず。米國の凡ゆる宗教に共通するものは實に道德的自修の精神なることを思はざるべからず。勿論米國人民の總ての道德が皆宗教に基けるもなりとはなすべからず。例へば宗教的道德に全く關係なき社會道德なるものあり。然れども社會的動機と宗教的動機と相結んで或る行爲をなすが如きことも亦屢なり。米國人民にして若し教會にて養成せられざりしならんには、或は特殊の道德發達したるやも知るべからず。然るに教會は常に國民の道德に影響を與へたり。且つ宗教の信仰の形式は變じて種々の宗派生じたるも、而も道德思想は古來殆ど變化することなかりしなり。

十八世紀の初め、ハーヴァード大學總長たりしワッツワース氏(B. Wadsworth)と現總長エリオット氏との宗教觀は大に異なるものあり。前者は嚴格なるカルヴァン主義を執り、後者は自由なるユニテリアン主義を執れり。然れどもワッツワース氏の道德説は二百年後の今日尙エリオット氏の喜んで賛同を表するものなり。ワッツワース氏が學生教養の方法として兩親を戒めて曰く、眞面目に生活せしめ、道德を重

んぜしめ、神を畏敬せしめよ。怠惰、驕慢、嫉妬、惡意あらしむべからず。質素、深切、禮讓を重んぜしめよ。學生の學ぶ處を眞に有用の者たらしめよ。斯くの如くにして結婚し、事業を勵み、以て誘惑を避けしめよ。神の恩恵と神の畏敬の下に成長せしめよと、又ベンジャミン・フランクリン氏が自ら實行せんとして定めたる徳の項目は、節約、寡黙、秩序、質素、勤勉、正直、正義、自制、純潔、平靜、克己、謙讓なりき。而も氏は宗教に就て考へたるにあらざりしも、以上の如き氏の道德はピューリタン主義の道德と殆ど同一の結果となり、其目的とする所は専ら道德的自修にあり。宗教的道德は自己の欲望を制するは他人の爲めにあらずして、自我の完全を計るが爲めなりとなすものなり。而して社會道德は他人の幸福の爲めに自己の欲望を制し、以て自我の完全を計るべしとなすものなり。故に二者互に相應じ、前者は喜んで寄附をなさんとし、後者は喜んで他人を扶助せんとし、特に悲善的行爲に於て最も能く二者の結合せるを見るべし。

米國孰れの教會に於ても自修的道德を獎勵せざるものなく、就中、謹嚴、節約、勤勉、禮讓、及び敬神を以て主となせり。これ實に米國人民が今日の如き偉大なる國民

となれる主因にして、各教會皆宗教教育によつて人民の劣等なる本能を壓服し、以て國民の品性に大なる影響を與へ、國民的自覺心を喚起したるなり。特に歐洲の一般人民に比すれば、米國の一般人民は其人格の潔白なること豫想の外にあり。勿論大都會の陋巷に住する賤民或は南部歐洲より移住して未だ米國化せられざるもの或は金銀鑛の新發見地に蟬集せる冒險者等の如き一時狂熱に驅られたる人民の如きは、此に論ずる限りにあらず。

吾人若し耕作に従事する農民、或は工場に勞働する職工、或は大都會の普通の市民を見れば、如何に彼等が道德的熱誠と質朴潔白とを貴べるかを知るに足らん。勿論是等の人民は想像力乏しく、野鄙なる點なきにあらずと雖、吾人は尙彼等の生れたる家庭の机上にも必ず聖書の横はらしらんと感ぜざるを得ざるべし。又植民地時代と今日とを比すれば、今や社會は非常に複雑となり、誘惑は増加し、道德的標準も亦變化し、瘴に罪惡なりと稱せられたるものも、今日に於ては無害なりとせらるゝものあり。然れども今日に於ても舊時と等しく、一般人民の道德的標準が非常に高きことは疑ふべからざるなり。

勿論米國に於ても誘惑に陥り惡事をなすものなきにあらずと雖、概して米國人が歐洲人民より道德心に富めることは事實なり。特に佛蘭西人の淫逸、獨逸人の不節制、南部歐洲人の不正直は、歐洲人民の道德心の缺乏を證するものなり。尤も米國人が能く安息日を守り、信仰心に富み、節制を重んじ、克己、慈悲、正直なることは歐洲人も亦之を認むる處なり。然れども一方に於て、偽善の行爲をなすものあり、又離婚甚だ多く、且つ銀行の金を私消するもの少からず、其他利己的動機より慈善的行爲をなすが如きものあるは、歐洲人民の非難する處なり。雖、深く米國の狀態を研究すれば、斯かる非難は大に當らざるものあるを發見すべし。米國に離婚の行はるゝこと多きは事實なり。然れども淫行の爲めに離婚するが如きは甚だ稀にして、離婚の原因となるものは主として米國人民の民主的自由主義の精神に基くものなり。又飲酒するものも少からず、屢禁酒法發布せられしも其効なく、遂には米國人民にして自ら節制を重んずるの氣風を生ずるにあらざれば、禁酒法は却て弊害を醸すの基となるべしとすら稱せられたり。然れども州政府又は教會が過去一百年間常に禁酒運動をなせる爲め、今や人民漸く自ら悟り、節

制を重んずるに至れるは疑なき事實にして、國民皆泥酔者を嫌はざるものなく、銘酒店に入るもの、如きは最下等社會の愚民に過ぎざるなり。且つ下級人民の禁酒を促せるものは、法律よりは道德的感化力なりしことも亦事實なり。特に上流社會の人は晚餐以外に婦人と同席する場合に於て飲酒すること殆ど之なく、下級人民も飲酒が元氣を消耗し、時間を空費し、道德心を破壊することを悟り、道德的自制心を喚起しつゝあり。鐵道會社を初め其他の諸會社に於ても亦好んで禁酒者を採用する有様なり。

米國人民が嚴に安息日を守ることは豫想の外にして、此日を以て休養靜思の日となせり。されば日曜日には劇場に入るものなく、旅行するもの亦甚だ少し。獨逸の如きは法律を以て日曜日には平日以上の列車を運轉すべからずと規定すと雖、米國にては斯かる法律なきに係らず、列車の運轉數少く、乗客も亦少きを常とす。尤も日曜日の娛樂法は漸次多きを加へ、打球戲をなすもの少からず。且つ英國に比すれば、米國の日曜日の新聞は頁數非常に多く、若し之を讀み盡さんとせば、教會に行くべき餘暇だになかるべし。然れども眞の米國人民は他より強制せら

れずとも、尙日曜日をして自制、克己、沈思の日となし、平常飲酒する人も日曜日に決して飲酒せざるもの多し。敢て之を以て偽善偽行となすべからざるなり。米國人の一般人民は非常に眞實を重んずるの風あり。米國人は虚言をなす能力を有せずとすら稱せらるゝ程にして、下は路上の兒童より上は國務大臣に至るまで皆瀟洒淡泊にして、胸襟を開いて誠を人の心中に置くの風あり。かく誠實を旨とするが故に、市街鐵道の如きは乗客の切符を特に嚴密に調査することなく、田舎の農家の門戸に錠を下さず、商業取引の約束の如きは口約を以て足れりとし、約束證文を出す如きこと稀なり。勿論市街鐵道會社を欺き、偽造切符を使用するが如き惡漢なきにあらず。又銀行員が金庫の金錢を盗むことなきにあらず。然れども人若し新聞配達夫に誤つて五錢多く拂へりとせば、配達夫は之を發見する否や必ず返戻するを見れば、如何に下級人民が正直なるかを知るに足らん。又郵便箱に書狀充滿して投函し能はざる時は、箱の上に書狀を置くを例とす。これ又之を盗む者なきを信ずればなり。歐洲の學校にては一生徒が虚偽の言を以て教師を欺く時は、却つて全級生徒の同情を得ること屢なり。然れども米國に於て

は斯かること決してなく、小兒も亦虚言を忌むなり。斯く米國人民は正直を重んずるが故に、又よく犠牲の精神に富めり。これ實にビ・リダン教徒の自全の精神の結果なりと云ふべし。元來公衆に誇示して犠牲を行ふが如きは眞の犠牲にあらずして眞の犠牲は秘密に行はれざるべからず。今若し米國の田舎地方に於ける教員、牧師、醫師等の生活状態を觀察し、或は兩親が自己の受けたる教育以上の高等教育を女子に施さんとして苦心しつゝある有様を洞見せば、如何に米國人民が眞の犠牲の精神に富めるかを知るに足らん。一見忍耐心なきが如き處に尙不撓の忍耐心を把持しつゝあるは、米國人民の實況を知れるもの、等しく認むる處なり。されば米國人民は危険なる傳道事業に従事し、宣教師として海外に旅行するも敢て厭はざるなり。又嫁婦、看護婦の如き非常に犠牲的忍耐心を要する職業に従事する女子の多きことは、他國にその例を見ざるなり。南北戦争時代に於て米國人民の犠牲心の盛なりしことは、世人の熟知せる處なるが、平和の時代に於ても亦敢て之に異る處あらざるなり。その他、救世軍 (Salvation Army) の寄附箱に若干の金錢を投ずるが如き、或は慈善事業に教百

萬弗を義捐するが如きは、枚擧するに遑あらず。尤も斯かる寄附者中には自己の社會的地位を認められんが爲め、其他或る劣等なる動機の爲めに寄附するものなきにあらずと雖、兎に角慈善の爲めに寄附せらるゝ金額の莫大なる點のみを見るも亦一驚と喫せざるべからず。且つ斯かる慈善的行爲の動機中、宗教的動機最も強きことは、歴史の證明する處なり。然れども慈善的行爲に於て、靈魂の救を目的とする所謂宗教的動機は、種々の動機中の唯一たるに過ぎずして、尙この外に種々の社會的動機あることを思はざるべからず。勿論米國に於ける慈善的行爲は、獨逸に於ける慈善的行爲に比すれば、一層宗教的特色を帯べることも多しと雖、慈善事業が一層事務的となり、組織的となれる場合にありては、社會的動機益多く現はれ來るべし。されば安息日の嚴守又は禁酒問題の如きは社會問題となり、宗教問題とは殆ど全く區別せらるゝに至るべし。且つ現今の米國人は基督教徒なるが故に正直潔白なりや、或は紳士なるが故に正直潔白なりやの區別には、敢て自ら頓着せざるなり。斯くの如くなる故に、道德問題は必ず宗教的考察より轉じて、社會的考察に入らざるべからざ

るなり。

## 第四篇 社會

### 第一章 自張の精神

抑、米國には歴史的社會階級制度なるものなく、獨立の宣言書によれば、總て人は生れながらにして自由平等なりとなせり、然れども米國にも亦自から社會階級の存せざるにあらず。例へばニューヨークの街路に於て、フロックコートを着たる紳士連の列をなして歩行する處には、汚れたる職工服を着けたる労働者の之を遮るものなきを見るべし。又同市の最も殷盛繁華なる第五街より遠からずして、慘憺見るに忍びざる貧民窟あり。其社會的不平等の甚しきに一驚すべし。又歐洲の新來者が米國人に對して米國平等主義の何たるかを問はば、其答ふる所各、異なるものあらん。例へば一般市民等は、平等主義を辯護せんとし、米國には平等主義行はれて、米國人民は法律上平等の權利を有し、政治上にも亦平等の權利ありと言

はん然れども彼等は斯かる平等主義は歐洲にも亦之ありと云ふを聞き驚くべし。然るに又或る米國人は曰はん、米國には敢て歐洲以上に平等主義行はるゝにあらざ、獨立宣言書の所謂平等主義なるものは、唯小政治家に演説の好題目を供し、僅少の給料を受くるものをして、以て自ら慰めしむる一種の社會的報酬に過ぎず。一々人を不平等に造れる造化の巧妙に對して争はんとするが如きは、愚も亦極まれりと云はざるべからずと。

以上の如き兩極端の説は共に誤謬にして、少くとも眞の米國人民の平等主義を表明せるものにあらざるなり。勿論吾人は最早米國に富或は享樂の平等なきを認めざる能はず。又教育及び發達の均等の機會をも認むる能はざるべし。然れども平等の精神が單に法律及び政治の上に於てのみ存すとすは誤れり。米國には米國人民自ら自覺せざる社會的平等なるもの存せり。而も米國人民自ら斯かる社會的平等の存せるを自覺せざるは、抑、社會的平等なるものが政治上法律上の平等と異り、抽象的に之を法式として示すこと能はず。且つ米國人民は斯かる社會的平等なる社會生活の何たるかを知らざるが爲めなり。されば米國人は一

時歐洲に遊びたる後初めて米國の社會的平等を自覺することを得べく、歐洲も亦米國人民の狀況を充分研究したる後、初めて之を了解することを得べし。

米國を通じて行はるゝ所謂社會的平等の感情は、敢て教育、富、職業及び功績の差等より生ずる社會的差別を破壊せんとするものあらずして、斯かる社會的差別を以て眞の人格に附屬せる表面のものとなすなり。されば總ての米國人民は根本主義に於ては皆平等なり。而して社會的平等は神の目より見て人類を平等なりとなす宗教的平等と一致するものにあらず。又人生の道德的觀念を同一視すべきものにあらざるなり。宗教的平等及び道德的行爲の平等的價值は、宗教界に於てのみ重要な意味を有すれども、社會的意味を有せざるなり。宗教的觀念と社會的觀念とは必ず明かに區別せざるべからず。されば宗教が米國人民の日常生活に深く普及すれば、米國の社會團體に於ける平等主義は益々宗教道德とは全く關係なきに至るべし。尤も米國人民は個人的特色を以て單に表面的現象となし、人類を以て唯一個の實在なりとなすが如き、一元論的思想を有せず。米國人は寧ろ二元的立脚地を採り、個性の特色を認むると共に又一方に於て平等主義を

立つるものなり。且つ米國人民の平等主義なるものは、合理的四海平等主義にはあらずして、總ての人類が眞に平等なりや否やは敢てその問ふ處にあらず、唯合衆國なる一社會團體に於ける平等主義なるなり。

今比喩を以て米國人民の平等主義を明かにすべし。同業の友人等相集まり、娛樂として各種々の職業に従事せる人物に假裝し、一人は富豪となり、一人は乞食となり、一人は裁判官となり、其他教師、職工、勞働者、高等官、從僕等に扮したりとせば、各熱心に自己の役を務め、甲者命令すれば乙者之に従ふべし。然れども其内部に入りて觀察すれば、畢竟彼等は皆平等にして、甲乙孰れも社會的差別なしとの愉快なる感情根柢に潜み、之あるが爲めに、遊戯の遊戯たる興味存すべし。然るに今若し眞の乞食又は從僕が此仲間に入り來れりとせば、最早何等の滑稽も愉快もなく、遊戯は全く無意味のこととなるべし。而して此愉快なる感情は即ち米國の社會團體の根柢に存せるなり。されば米國人民は皆以爲らく、合衆國に住する吾等は畢竟總て同僚にして、甲者麵粉を焼けば乙者之を喰ひ、甲者取者たれば乙者之に乗るべく、而もこれ吾人が各其職務を盡すべきを約束せるに過ぎず、甲者命

令し、乙者之に服従するも、これ甲乙相互間の合意に基くものにして、吾人が各自の境遇の下に最も適當なる職務を分擔するに過ぎざるなりと。

斯くの如くなるが故に、眞の米國人は職業の差別を厭はず、各人互に平等なりと考へ、互に權利を尊重し、分業の必要を認め、而も自己に分與せられたる事業に従事するものは、其職業の何たるを論ぜず、天才又は經濟的事業に依つて一層秀てたる地位を得たる人と等しく、亦平等の同胞なりと考ふるなり。然るに之に反して、自己の上に立てる人と平等にして、自己の下にある人より高位にありと考ふる人は、表面上の差別を以て眞の差別ありとなし、自ら僭越不當の權利を要求するものと云ふべし。されば社會的平等を以て社會的契約の眞の一部となす人は、自己より位地高き人にも低き人に對すると全く同様に感じ、他人の權利を認むると共に自己の權利も亦正當なりと思惟すべし。これ即ち米國人民の社會的自強の精神なり。

自己より一層富み一層教育あり、或は一層勢力ある人を摸倣し、或は故らに自ら下りて貧賤なるもの、無教育なるもの、或は無勢力なるもの、如くなり、以て差別



を除去し、斯くして平等を求めんとするが如き人は、真にこれ平等を信ずるものにあらず、却つて社會に差別の存するを認むるなり。我も人も皆平等なりとする自張の精神の行はるゝ處にありても、敢て表面上の同一平等を獲んことを求むるが如き努力なきにあらずと雖、而も斯かる努力は決して社會的の競争争奪としては見られざるなり。尤、斯かる自張の精神を以て道德的觀念なりと誤解すべからず。歐洲人は社會的平等の代りに道德的平等の觀念を置かんとするの傾あり。若し斯くなれば宗教の教ふるが如く社會的觀念は道德的觀念に從屬するに至るべし。然るに米國民は全く之に反して、彼等は大統領たると坑夫たることを論ぜず、皆社會上平等なりと豫定し、之を以て當然の事となすものなり。されば此見解は道德とは何等の關係なく、斯かる觀念其ものが平等主義の基礎をなせるものなり。宗教は服従の道德を以て主義となし、之に對して倫理説に於ては弱者を壓服する所謂道德的權威説を主張するものなり。然るに米國人は同胞主義の道德を樹つる者にして、服従の道德又は權威の道德とは全く異り、全く社會の觀念を基礎とするものなり。されば米國の社會道德は他人の權利を認むる所に

存し、米國なる一社會團體の人は皆平等の權利を有し、各人皆斯かる權利を主張すべき絶対的權利を有するものとなすなり。

勿論犯罪人及び不徳の人は此權利を失ひ、社會團體より排斥せられ、社會的活動に加はること能はざるなり。然れども地位、教育、血統、財産の差別は、何等米國人の社會的平等の權利に關係せざるなり。吾人若し社會的成功を得んと欲せば、吾人は先づ全國民が皆平等の同僚にして、種々の勞働に與り、互に權利を承認し、尊重するものなることを豫期し、且つ吾人が斯く信ずる處を吾人の行爲に依つて示さるべからず。而もこれ嚴肅なる道德の問題にはあらずして、寧ろ社會的理想の道德的結果の問題なるが故に、吾人の行爲は道德上には拘泥せずして、全く社會の習慣風俗に從ふこととなり、爲めに往々弊害危険に陥ること少からず。されば今此に斯かる社會的自張の精神に基く特色を考察すべし。

米國人民は各人皆平等にして己れも亦平等者中の一平等者なりと確信して、各、自己の職業に従事するが故に、自ら卑下し又は他人に屈從するが如きことなし。されば上位にある人より壓迫せられ、或は下位にある人より賞揚せらるゝが如

き感情を有せざるなり。模範的米國人は斯く自張の精神に富み、己れは單に己れの主人なりと感じ、禮讓遠慮を重んじ、而も亦淡泊親切なり。今若し或人が他人に服従する時は、益階級的差別を甚しくし、職業上の表面的差別を以て眞の差別となすに至るべし。然るに米國人民の如く、皆自張の精神を有し、他人も亦平等なりとなす時は、單に職業上の地位の差等の如きは、何等此自張の精神に影響を及ぼすこと能はざるなり。

次に富の不平等は自張の精神を阻害すべしと考ふべからず。勿論米國人は富を獲んが爲めに全力を盡し、或は贅澤をなさんとする傾向なきにあらずと雖、財産其物を以て人格の差別をなさざるなり。米國人は自己の財産の許す限り、最良の貴重品を買ふと雖、これ決して貧者を賤むにはあらずして、贅澤をなすはこれ自己の成功せる證據なりと考ふるに過ぎざるなり。米國人は財産その物と財産の所有者とを劃然として區別するものにして、單に他人の財産を妬むが如きは、これ自己の地位が劣位にあることを許容するものなりと思惟せり。されば米國人は嫉妬猜忌の念を有せざるなり。勿論自張の精神を有する人は自己の境遇を改

良して、向上せんとして全力を盡すべしと雖、富豪を妬むが如きことは決して之あらざるなり。而して斯く嫉妬心なきは社會主義を防遏するに最も有効なるべきは疑ふべからず。勿論社會主義は直接嫉妬猜忌の念より起るものにあらざるべしと雖、嫉妬心ある人民は甚だ社會主義に傾き易きことは明かなる事實なり。自ら他人より劣れりと感じ、自己より富める人を妬むが如き人は、人爲的方法に依つて財産の平等を獲んことを欲すべし。然るに我も人も平等なりと感ずる人は、自己に刺激と努力とを興へて奮發心を起さしむるが如き表面的不平等を是認し、敢て不平を鳴すが如きことなし。且つ資本の蓄積が全く一種の技術となり、直接人生の享樂に資するものにあらざる場合に於ては特に然りとす。十億弗の大富豪も百萬弗の富豪も人性の快樂を享受する點に於ては殆ど異なる所なく、資本多きものは單に一層複雑優勢なる装置を以て活動するに過ぎざるなり。經濟上直接他人に依頼するものと雖、必ずしも自張の精神を損するものにあらざるなり。尤も全く之に反對する傾向なきにあらず、且つ社會的差別益、盛ならんとする傾向も亦なきにあらず。是等の點に就ては後に述ぶることとなすべし。然れど

も尙上述の特色は到る處に認むることを得べく、大都會に於てよりは田舎に於て、東部諸州に於てよりは西部諸州に於て特に顯著なり。

米國人民の挨拶禮式の方法も亦特に注意すべきものあり。米國の男子は女性に對する尊敬の意より、婦人に對して脱帽の禮をなすも、男子と男子との挨拶には脱帽せず、親睦の程度に従つて、或は頭部を少しく傾け、或は目禮をなし、或は帽子を動かすを常とす。而も斯かる差別をなすは、社會上の地位の差別に依るにあらざりして、全く兩者間の親睦友情の程度の差別に依るものとす。元來社會上の地位身分なるものは専門的、職業的、表面的のものにして、甲乙二個の人が路上に會合せる場合には關係なきことなり。されば甲乙二人が挨拶をなすは、互に「知合ひなるが故に挨拶をなすものにして、斯く個人的知己の相互關係に於て、甲乙兩者は社會的地位を代表せるにもあらずして、單に平等の人間たるに止まれり。米國人は獨逸人が挨拶をなす時姿勢を正し腰を曲げ帽子を脱するを見て、無意味不合理的ことと考ふるなり。勿論斯かる思想は爵位勳等を全く無視する思想と密接の關係あるは言を俟たざるなり。尤も此點に就ては例外なきにあらず、吾人は

後に至つて述ぶる所あるべし。然れども一般に爵位勳等は米國法令の禁ずる所なるは勿論なりとす。米國人民は以爲らく、何人も劣れるものなしと云ふには、總ての人皆平等なる場合に限り、而して甲者が秀てたりとせらるゝ時は、これ既に不平等主義を許すものにして、甲者は又或る他の人より劣れることとなるが故に、賞揚せらるゝことは同時に又侮辱せらるゝものなりと。

以上の如くなるも、之を以て米國人民は總て服従を嫌ふものなりと結論すべからず。吾人若し米國労働者の状態を見、或は大産業會社の組織を研究し、或は其監督者の指揮の下に競技運動をなす有様を見れば、米國人民が各自其特殊の目的の爲めに絶對的服従をなすつゝあるを知るべし。米國人民が若し斯かる絶對的の自覺的服従をなさざりしならんには、米國人民の組織的才能は到底今日の大成功を致すこと能はざりしなるべし。尤も競技者等は其監督者より劣等の地位にありと感ずるにはあらずるなり。唯米國人が服従に對して反抗する場合は、人間の等級を差別分類する場合に限り、勢力の分配問題の場合にはあらずるなり。故に米國人が相續者の其功績に依らずして受くる所謂世襲的爵位に對して非常

に反對するは當然の事と云はざるべからず。米國人民は有益なる職業は其如何なる種類の労働たるを論ぜず、尊重すべきものなりと考ふるが故に、労働せずして尊敬せらるゝ人ある時は奇怪千萬の事となすなり。されば米國人民は尊重すべき労働は其何たるを論ぜず、原則としては如何なる人にも適當せるものと考ふるなり。數千の男女學生が自活の方法を講じて學問するが如きは其好例なり。獨逸の學生は教へ又は書くが如き労働のみを以て、自己に適當なる自活の方法なりとなし、タイプライター等に從事すべし、然るに前篇に述べたるが如く、米國にては大學の苦學生は、夏季休暇中旅館の運搬人となり、或は馭者となるも敢て厭ふ所にあらざるなり。而して教室に於て席を同うせる大富豪の子弟は、苦學生が斯かる職業に従事するの故を以て、苦學生を蔑視するが如きと決してあらざるなり。されば漫りに負債をなすが如き無分別なる學生は大に侮蔑排斥せらるゝも、學資を得んが爲めに早朝牛乳配達をなすが如き日傭労働者の子弟を蔑視するものは、一人として之あらざるなり。

斯くの如く眞の社會的人格なるものは、經濟上の理由に依るが如き一時的の職

業に依つて左右せらるべきものにあらずとなすが故に、正當なる職業は其種類の何たるを問はず、之に従事するも敢て不名譽にあらずとせらるゝなり。而して米國に於ては眞に嫌忌せらるゝ労働は、下女下男の如く直接人に隷従するが如きもののみなることは特に注意すべき點なりとす。例へば下婢の労働は商店工場のそれより大に容易なるも、而も米國の女子は後者に入らんことを欲して前者となるもの鮮し。されば黒奴及び西部の支那人を除けば、其他の婢僕は殆ど皆愛蘭、蘇格蘭、瑞典、及び獨逸より來れる移住民なり。兩親の代に初めて米國に來住せるものと雖、婢僕たるを嫌ふの風あり、而して斯かる偏見は實に社會的理想より生ぜるものにして、漸次一般に廣がれるものなり。即ち労働者は専ら産業及び文明の事業に與るものなれども、婢僕は他人の意志に服従するの外、何等の目的を有せず。労働者は雇主と等しく自由意志の労働をなすも、婢僕は自己の自由意思の一部を他人に賣るが故に、これ、即ち自己の社會的平等を他人に賣るものなりと云ふにあり。尙靴磨の職は最も卑賤なる職業と見做され、この感情は管に米國生れの人のみにあらず、北部歐洲人にして、一度足を新大陸に入るれば、又直ち

に靴磨を卑むの風あり。これ實に一種の幻想と云ふべし。按ふに靴磨は他人の脚下に匍匐するものなれば、自尊心を全く犠牲に供するものと考へらるゝが爲めなるべし。

之と聯關して米國人は所謂付け(Bo)の授受を嫌ふの風あり。歐洲に旅行する米國人は、歐洲の下級人民が瑣細なる仕事又は注意に對しても一々金錢を強請するに逢ひ、甚だ快しとせざるなり。米國にては或る旅行者が、兒童に道を尋ね、兒童が數町の間旅行者を案内して道を教ふるに當り、旅行者が其親切に對して少許の金錢を與ふるが如きことあれば、兒童は之を以て大なる侮辱なりと考ふべし。尤も大旅館の給仕等は、旅客の心付を餘り厭はざるも、これ歐洲より來れる給仕等の習慣を擬ねたるものにして、大都會以外にては尙此習慣なし。概して云へば、眞の米國人は自己の勞働に對して正當の報酬を要求するを得る場合にあらざれば、決して謝儀を受くることなく、職業に關せざる全く個人的の好意に基く事より謝儀を受くるが如きは、社會的平等の主義を損するものと考ふるなり。

前述の如く米國人民は、勞働者の自由意志を毀損せざる職業は、孰れの人にも適

當なりと考ふるが故に、歐洲に於けるが如く、人と職業に一定の制限なく轉業轉職、行はるゝなり。されば説教に倦める僧侶が商人となり、法律家が産業界に入り、製造業者が政治家となり、書籍商が家具商となり、郵便配達夫が料理屋の番頭となるが如きは、敢て珍しからざるなり。米國人は職業を變へたりとて、平等の精神には何等影響する所なしと思惟す。尤も米國人民の多技能にして適應の性に富める事が、此思想に大に關係せることは疑ふべからざるなり。米國人民は職業の變更は單に新技術を練習すれば足り、境遇の變化に依つて自己の人格を變更するものにあらずとなすなり。されば百萬弗の富豪も今日破産をなせば、明日は下宿屋を開業すべく、而も境遇の變化は畢竟これ職業の變化に過ぎずして、決して個人の人格を變ずるものとはなざるなり。

米國人民は各人皆平等なりと考ふるが故に、地位、富、教育の如き外部の差別に全く關係せざるが如き交際を最も歓迎するものにして、米國人民が凡ゆる種類の遊戯を好むも亦この理に基くものなり。特に競技に依つて體育を修養するが如きもの、例へば蹴鞠、野球、競漕、角力、庭球、打球等は最も流行し、之に次ぐものは狩獵、

釣網、騎馬、游泳、一般體操等なり。尤も登山の如きは餘り流行せず、又徒歩運動は米國人民の特技にあらざるが如し。米國の競技運動に於ては往々賭物をなし、特に遊戯俱樂部、大學又は市等の對抗競技に於ては勝利を主として遊戯其ものは却つて之を第二に置くが如き觀なきにあらずと雖、これ一般米國人民が餘りに遊戯に熱心なるを證明するものにして、斯く遊戯熱の盛なるは社會の階級的差別を壓倒して平等的精神を鼓吹するに與つて大に力あり。特に野球は春夏の交に行はれ、米國人の最も好む所にして、勞働者も、僧侶も、學者も、塵芥掃除夫も、大富豪も、皆競技場に集まり、全く平生の職業的差別を忘れて、皆等しく平等の感情を以て見物するなり。

遊戯熱よりも一層社會的差別の感情を打破するに與つて力あるものは、米國人民の滑稽諧謔に富むことはなり。米國人民の諧謔を了解するにあらざれば、米國人民の政治的活動又は知的活動の實況を熟知すること能はざると等しく、社會的方面に於ても亦米國人民の諧謔に富むことを知るにあらざれば、その實情を詳かにすること能はざるなり。尤も諧謔滑稽が社會の不平等を打破して、自由平

等の自張的自覺心を喚起せしめたるか、或は自張的自覺心が諧謔滑稽の心を發達せしめたるかは疑問なり。然れどもそは敢て此に論ずる限りにあらずして、米國人民は瑣細の事にも國家の大事事件にも常に滑稽諧謔を交へ、社會の各方面に互りて諧謔をなし、大笑を以て迎へ、以て平等の感を強うするなり。米國の新聞紙には何れも政治的滑稽諷刺的題目、滑稽談等を掲げざるものなし。此點に於て歐洲の新聞紙とは非常なる差異ありと云ふべし。而して日常生活に於ても亦全く之と等しく、米國人は一言一句常に滑稽を交へ、之が爲めに我も人も亦平等の人民たることを想はしめ、外部の表面的境遇の差別を以て眞の差別と思はしめざるなり。米國に於ては頓才を以て成功したる政治家甚だ多きは、何人も能く知る所にして、米國人は滑稽的談話を聞けば、直ちに意志の融和を來し、政治上の差別を忘れ、平等の精神を喚起し、互に親密となること殆ど豫想の外にあり。平等の感情は又義務責任の觀念を強うするものにして、己れは他の人々と平等なりと自覺すれば、己れより一層富み且つ教育あり勢力ある人が、その義務責任を感ずると同様に自らも亦義務責任を感じ、紳士として行動せざるべからずと

の念を強うし紳士たるものは先づ自制心を養成し、社會の規律風紀を守らざるべからずと感ずべし。されば此點よりして米國に於て男女の關係の非常に潔白なるべきは到底歐洲大陸に於て見るを得ざる所なり。米國人は食後の愉快なる談話をなす時にも、言決して淫猥の談に及ばず、若し一青年が歐洲の青年の如く誇り顔に自己の戀愛談をなすが如きことあらば非常に輕侮せらるべし。されば米國の如く妙齡の處女が青年の男子より侮辱を受けざる處は世界に其比を見ざるなり。米國人は斯く自ら紳士なりと信ずるが故に、特に品性を貴び、卑劣の事を忌み、特に日常生活に於て、其紳士的態度を最もよく發するものなり。されば或る中傷的の新聞記事又は都市の政治狀態等に依つて眞の米國人を批評すべきにあらず。尤も職業上に於ては、主として自己の利益より打算して事を處するることなきにあらずるも、尙卑屈吝嗇の行爲をなし、或は瑣々たる小利に惑ふが如きことは決してあることなし。米國人は自己の目的の爲めに他人に阿諛追従をなし、或は薄弱なる競争者に對して殘酷無情なる行爲を敢てするが如きは、米國の國民的品性を毀損するものとして大に之を擯斥せり。

自張の精神は又禮讓、扶助、正直、寛大等の諸徳を涵養するものなり。歐洲人は米國人民の特性を以て自助の精神にありと云ふを常とす。此自助なるものには種々の意味あり。第一、自助を以て各個人が政府の如き或る高き權力者の保護を期待することなく、自ら進んで事業を完成せんとするものなりと解せば則ち可なり。米國人が自發の精神を以て行動し、個人之力足らざる場合に限り、州其他の團體の力を借ることは屢述べたるが如し。次に、米國人は自助なる語には尙他の意味を含めりとなせり。即ち米國人は自己の子弟に對して、幼き時より經濟的獨立を教ふるものにして、富豪の兒童と雖少許の收入方法を講ずるを常とす。それ植民地時代の開拓冒險の精神が今尙殘存せるものと云ふべく、斯く自助の精神を幼き時より鼓吹するは、米國今日の偉大なる發展に大に與つて力ありしこと疑ふべからず。且つ將來と雖之を以て適當なる教育方法と思惟せらるべし。次に自助を以て他人の扶助なきが故に各人皆自ら助けざるべからずと解するは誤れり。何事にも他人を扶助せんとするは、米國人民の一大特色なり。米國人が客人を優遇款待するは、世人の等しく認むる所なり。勿論主客の間平、生親密なる交際ある



時は優遇款待を以て特に徳とするに足らずと雖、米國人は一面識なき人が紹介  
 狀を携へ來れる場合に於てすら、款待至らざるなきより察すれば、これ決して單  
 に交際好きの動機より來れるものにはあらざるなり。

元來優遇款待なるものは多少交換的の意味を有し、甲款待すれば乙亦之に酬ぶ  
 るが如き觀なきにあらず。然るに全く一方のみの優遇なる時は、此に初めて慈善  
 心となるべし。米國人の如く人皆平等なりと感ずるものと雖、その人に努力奮發  
 の精神を刺激獎勵するが如き外部の不平等は却つて之を歡迎すべし。然れども  
 或る程度以上に不平等なることは彼等の堪へざる所にして大に之を忌むなり。  
 されば權力、教育、富の差別の如きは、社會の進歩を促す上より見れば必要なりと  
 雖、眞の人格を墮落せしむるが如き無教育又は貧困は、若し之を放任して顧みざ  
 るときは、遂に社會組織を傷け、平等の精神を破るに至るべし。故に貧困者、無教育  
 者も亦多少の財産を得、知識を向上せしむる方法を有するにあらざれば、或は内  
 心不平等的感情起り、爲めに民主々義の思想と相容れざるに至らん。此に於てか  
 米國人民は、無教育者を見ては、改善の方法を講ぜんとし、貧困者を見ては熱心に

扶助せんとするなり。尤も斯かる扶助の精神は宗教的慈善心とは異り、自主自張  
 の自覺心より起るものにして、社會の平等を保たんが爲めに、社會的義務として  
 扶助をなすものなり。即ち社會の有機的發達を全うせんが爲めに、病的分子を除  
 くを以て扶助の目的となせり。而して政府が自ら扶助方法を講じ、法律を以て病  
 人、負傷者又は老朽者保險をなすが如きは政治上不可能にして、斯かる方法は個  
 人の自主の權利を危うし、平等の精神に反するが故に、米國の救貧方法は個人の  
 寄附施與と政府の保險との中庸を執りて發達せざるべからざるの要ありき。

右の如くなるが故に、米國の扶助方法は、政府に於ては救貧法によりて扶助機關  
 を監督し、一方に於て個人は寄附施與をなし、且つ扶助事務を掌るを常とす。特に  
 扶助事務を掌るものは女子最も多し、尤も斯く半ば公共的半ば私人的扶助機關  
 の外、全く政府の設備に係るもの、及び全く私人の設備に成れるものも亦決して  
 少しとせず。而も其孰れなるにせよ、米國人民が金錢、時間、勞力を惜まらずして貧民  
 及び孤兒を保護し、授職の方法を與へ、教育基金を寄附することは、實に驚嘆に値  
 するものあり。公共慈善の爲めに寄附をなすものは、單にカーネギー、ロックフェラー、

ヴァンダービルトの如き大富豪のみなりと思ふべからず。深く米國の内情を洞察する時は、寡婦及び中等社會の人々が屢、自己の所得の一部を施與し、而も歐洲人の思想よりすれば驚くべき多額の寄附をなすこと稀ならざるを見るべし。而して斯かる寄附をなすには、充分事情を研究したる後に行ふものにして、決して慢りに寄附するものにあらず。且つ虛榮心に驅られて寄附すが如きものは殆どなく、匿名の寄附者甚だ多く、新聞紙上に廣告せられざるもの少からざるなり。且つ米國人民の博愛慈善の心は、單に金錢の寄附のみに限らざるなり。街路を歩行せる時、風の爲めに帽子を飛ばせるもの、或は其他の不幸災難に遭遇せるものあれば、米國人は直ちに之を扶くるに躊躇せず、各人皆深切なる社會團體の中に生活しつゝあるを感じ、同胞の念到る處に充滿せり。斯くの如く不意の災難不幸の場合に、米國人が直ちに加勢をなし、或は扶助機關を組織し、其間毫も私利私慾なきは、外國人の見て以て驚嘆する所なり。

又米國人民の寛大なることは特に注意するの値あり。米國人は他人の弱點不幸に乗じて、自己の利益を壟斷せんとするが如きこと決してなし。勿論米國人は競

争を好めども、これ競争者が共に均等の機會を有せることを豫想するものにして、今若し其對敵者が不利の地位に立てる時は、假令之に勝られたればとて、決して愉快を感じざるなり。數年前大統領選舉の際、民主共和二黨の候補者が同じ週中に同一の地にて選舉運動をなす等なりしに、一黨の候補者が家族の病氣の爲めに演說會に臨むこと能はざりしかば、他黨の候補者は敵手の不幸に乗じて獨り自己の利益を求むべからざるを思ひ、遂に己れも亦演說を中止したることあり。其他之に類する例は枚舉に遑あらざるべし。

米國人民が平等主義を固執する最も有力なる證據は、米國司法制度特に刑法に於て之を見るを得べく、且つ米國人と獨逸人とは此點に於て非常に異なる觀念を有せり。勿論犯罪は獨米孰れに於ても犯罪たりと雖、兩國刑罰の差異は主として社會上、政治上及び産業上の制度の差異に基くものなり。米國人は獨逸の法律が出版條例違犯又は國事犯に對して非常に嚴峻にして、決闘又は或る社會的犯罪に就ては非常に寛大なるを見て大に驚くべく、獨逸人は米國の禁酒に關する法律甚だ嚴峻にして、官吏誹謗罪の輕きに一驚を喫すべし。尤もこれ單に制度の

差別にして、兩國刑法の眞の差別は裁判の觀念にあり、獨逸人は犯罪者をして決して法網を潛らしめざらんことを主とし、米國人は決して無罪を罰せざらんとを主とするものなり。勿論孰れの會社にも犯罪者なきはあらず。されば社會を保護せんが爲めには、刑法を以て不法なる意志を有する人を束縛し、威嚇し、改善せざるべからず。然れども斯かる刑法に對する見解として、米國人は他人も我も平等なるが故に、無罪の人を苦めざらんが爲めには全力を盡さざるべからずと思惟するなり。されば米國人の考にては、唯一人の罪なき者が有罪の宣告を受けて冤枉に苦まんよりは、寧ろ百人の犯罪者が當然の刑罰を免るゝを以て優れりとなすなり。

右の如くなるが故に、刑法其物には獨米の間眞の相異なく、共に犯罪者を罰し、社會の秩序を保護するを以て目的とすと雖、米國にては特に無罪者の安全を計るを以て主となし、被告人の權利を保護尊重し、裁判の公平を失せざらんことを期するなり。故に今兩國間の相異を極言すれば、告發せられたる獨逸人は無罪の宣言を受くるまでは尙有罪者なるも告發せられたる米國人は有罪の宣言を受く

るまでは尙無罪者なりと云ふべし。殺人又は其他如何なる犯罪にても、告發せられたる米國人にして、裁判の結果一度無罪の宣告を受けたる時は、その後に至り新なる證據現はれ、罪跡歴々たる場合に於ても、又は自ら犯罪を自白することあるも、其犯罪に就ては決して再び審問せらるゝことあざらざるなり。且つ裁判官が賄賂を受くるが如きことは殆ど耳にせざる所なり。

以上吾人は米國人民の平等主義に基く利益の點を述べたり。然れども亦一方に於て其缺點なきにあらざるなり。斯く米國人は平等主義を信ずること厚きが故に、餘りに劃一主義となり、齊一單調に陥る傾向なしとせず。平等主義は個性の特色を發達せしむるには不便なること明かにして、帽子襟飾の如きは勿論、宗教觀に於ても、世界觀に於ても、思想の傾向皆單調齊一殆ど變化あることなし。特に物品の單調にして變化なきは、一は、米國産業組織の自然の結果にして、大規模の製造をなし之を全國に分布するによれり。美術工藝品は勿論、家具機械に至るまで、東はニューヨークより西はサンフランシスコに至るまで、各商家の店頭に同時に同一の商品陳列せられ、以て流行を促し、各人皆殆ど同一の物品を使用するに至

るなり。且つ米國にては平常使用するが如き日用品は、新製品と代ふるを以て却つて節儉的なるを常とす。これ新製品の廉價なるに反して、修繕をなすに必要な手間料の高さに因りてなり。實際靴、肌着の如きは古物を修繕して使用するよりは、新製品を買ふ方却つて廉價なるが故に、各人皆新式の物品を使用するに至る。例へば新式の襟飾が今日ハーヴァード大學の學生中に流行し始めたりとせば、翌日尙舊式の襟飾を用ふる者は僅に百人にも足らざるべし。これ一は一般人民の富の程度高く、大多數の人々が皆必要以上の物品を求め、流行の奢侈品を買ひ、人々互に摸倣することを得るに因すること勿論なりとす。

斯くの如く他人のなす所に倣はんとする一般の希望は、又米國人民の内心に影響を及ぼすものにして、他人と同じ遊戯を行ひ、他人と同じ小説を讀まざるべからずとなすは、これ其遊戯又は小説が、他の遊戯又は小説より勝れたるものなりと考ふるが爲めにあらずして、單に他人も之をなすが故に己れも亦之をなすと云ふに過ぎずして、我も人も同一の事物を愛し、同一の事物を嫌ふにあらざれば、到底社會團體と眞に調和するに能はずと思惟するが故なり。されば他人の好む

所を嫌ふが如きものは、直ちに奇矯の變人を以て見られ、社會の外に立たざるべからず。斯くの如くなるが故に、互に摸倣する多くの人と決して他人に倣はざる極めて少數の人との間には、殆ど中間の諸段階なく、爲めに個人的特色は殆ど認むること能はざるべし。米國人民は恰も軍隊の將校の如く、互に其服裝を眞似るのみならず、習慣、風俗、氣質をも摸倣し、遂に全く單調の平等主義に陥るものと云ふべし。

勿論米國人民は其發明的天才によつて單調無味を免るゝの傾向なきにあらず。然れども斯く米國人民が常に新發明をなさんとする努力其物も亦これ全般的にして、全く孰れの人も同じく之に従事しつゝあるなり。されば小都會は大都會に摸し、田舎地方の人は都地方の人に倣ひ、如何なる職業の人も、個人的特色を發揮することなし。且つ全國の出版物及び政治状態も亦凡ゆる専門的差別又は地方的差別を抹滅するの傾ありて、全國民をして全く紳士淑女の一大集合體となし、高さも低きも皆紳士淑女たらんことを欲せしむるなり。故に東部の人も、西部の人も、南部の人も、北部の人も、皆等しく同様の氣質容貌を呈し、全國民の齊一平